

平成20年度
自己点検・評価報告書



岐阜聖徳学園大学短期大学部

目 次

目次

図表 目次

| | |
|---|----|
| 《短期大学の特色等》 | 1 |
| 《Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》 | 7 |
| 【建学の精神、教育理念について】 | 7 |
| 【教育目的、教育目標について】 | 8 |
| 【定期的な点検等について】 | 9 |
| 【特記事項について】 | 10 |
| 《Ⅱ 教育の内容》 | 11 |
| 【教育課程について】 | 11 |
| 【授業内容・教育方法について】 | 25 |
| 【教育改善への努力について】 | 26 |
| 【特記事項について】 | 28 |
| 《Ⅲ 教育の実施体制》 | 30 |
| 【教員組織について】 | 30 |
| 【教育環境について】 | 33 |
| 【図書館・学習資源センター等（以下「図書館等」という。）について】 | 37 |
| 【特記事項について】 | 41 |
| 《Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果》 | 42 |
| 【単位認定について】 | 42 |
| 【授業に対する学生の満足度について】 | 51 |
| 【退学、休学、留年等の状況について】 | 53 |
| 【資格取得の取組みについて】 | 55 |
| 【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】 | 57 |
| 【特記事項について】 | 60 |
| 《Ⅴ 学生支援》 | 61 |
| 【入学に関する支援について】 | 61 |
| 【学習支援について】 | 64 |
| 【学生生活支援体制について】 | 66 |
| 【進路支援について】 | 71 |
| 【多様な学生に対する支援について】 | 75 |
| 【特記事項について】 | 76 |
| 《Ⅵ 研究》 | 78 |
| 【教員の研究活動全般について】 | 78 |
| 【研究のための条件について】 | 80 |
| 【特記事項について】 | 82 |
| 《Ⅶ 社会的活動》 | 83 |

| | |
|-------------------------------------|------------|
| 【社会的活動（国際的活動は別項で記述）への取組みについて】 | 83 |
| 【学生の社会的活動について】 | 85 |
| 【国際交流・協力への取組みについて】 | 87 |
| 【特記事項について】 | 87 |
| 《Ⅶ 管理運営》 | 89 |
| 【法人組織の管理運営体制について】 | 89 |
| 【教授会等の運営体制について】 | 95 |
| 【事務組織について】 | 102 |
| 【人事管理について】 | 105 |
| 【特記事項について】 | 108 |
| 《Ⅷ 財務》 | 110 |
| 【財務運営について】 | 110 |
| 【財務体質の健全性と教育研究経費について】 | 114 |
| 【施設設備の管理について】 | 114 |
| 【特記事項について】 | 115 |
| 《Ⅸ 改革・改善》 | 117 |
| 【自己点検・評価について】 | 117 |
| 【自己点検・評価の教職員の関与と活用について】 | 117 |
| 【相互評価や外部評価について】 | 118 |
| 【第三者評価（認証評価）について】 | 119 |
| 【特記事項について】 | 120 |
| 《** 将来計画の策定（自由記述）》 | 120 |

図表 目次

| | |
|--|----|
| 学校法人の沿革 図表 1..... | 1 |
| 本学案内図及び学校法人聖徳学園全体案内図 図表 2..... | 2 |
| 岐阜市全体図 図表 3..... | 3 |
| 設置学科、入学定員等（平成15年度～21年度） 図表 4..... | 4 |
| 出身地別学生数（平成18年度～20年度） 図表 5..... | 5 |
| 法人が設置する他の教育機関の現状（平成21年5月1日現在） 図表 6..... | 5 |
| 教育課程（平成21年5月1日現在） 図表 7..... | 11 |
| 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格等 図表 8..... | 21 |
| 卒業要件単位数（必修単位を含む） 図表 9..... | 22 |
| 専任教員等の人数（平成21年5月1日現在） 図表 10..... | 30 |
| 専任教員等の年齢構成表（短期大学部全体）（平成21年4月1日現在） 図表 11...31 | 31 |
| 専任教員平均担当コマ数 図表 12..... | 31 |
| 校舎・校地一覧表（平成21年5月1日） 図表 13..... | 33 |
| コンピュータ教室一覧表 図表 14..... | 34 |
| 貸与ノートパソコン一覧 図表 15..... | 35 |
| 授業用の機器・備品の整備状況表 図表 16..... | 35 |
| 岐阜キャンパス図書館配置図 図表 17..... | 37 |
| 平成20年度図書予算 図表 18..... | 38 |
| 図書館蔵書数（平成21年5月31日現在） 図表 19..... | 39 |
| 図書館蔵書数のうち短期大学部の蔵書数（平成21年5月31日現在） 図表 20..39 | 39 |
| 教員選定図書（平成19年度～20年度） 図表 21..... | 39 |
| 学科選定図書（平成19年度～20年度） 図表 22..... | 39 |
| 図書館利用状況（平成19年度～20年度） 図表 23..... | 40 |
| 相互協力業務一覧表（平成19年度～20年度） 図表 24..... | 40 |
| 単位認定の状況表（平成20年度卒業生） 図表 25..... | 42 |
| 退学者等一覧表（平成21年3月31日現在） 図表 26..... | 53 |
| 教育課程とは別に取得の機会を設けている免許・資格の取得状況（平成20年度） 図表 27..... | 56 |
| 通学手段調査表（平成20年度） 図表 28..... | 68 |
| 外部奨学金取得状況（平成20年度） 図表 29..... | 69 |
| 平成18年度～20年度進路状況表（平成21年3月31日現在） 図表 30..... | 71 |
| 就職試験対策一覧表 図表 31..... | 73 |
| 資格取得支援講座・受験対策講座（平成20年度） 図表 32..... | 73 |
| 進学及び留学の実績（平成18年度～20年度） 図表 33..... | 75 |
| 多様な学生の受け入れ状況（平成18年度～20年度） 図表 34..... | 75 |
| 卒業時における表彰 図表 35..... | 76 |
| 専任教員の研究実績表（平成18年度～20年度） 図表 36..... | 78 |

| | | |
|-----------------------------|-------|-----|
| 外部研究資金の申請・調達状況（平成18年度～20年度） | 図表 37 | 79 |
| 研究費の項目別決算額（平成18年度～20年度） | 図表 38 | 80 |
| 機器・備品等の整備状況（平成20年度） | 図表 39 | 81 |
| 研究室一覧 | 図表 40 | 81 |
| 実験室等一覧 | 図表 41 | 81 |
| 公開講座状況（平成18年度～20年度） | 図表 42 | 84 |
| クラブ活動の社会的活動状況（平成18年度～20年度） | 図表 43 | 85 |
| 理事会開催状況（平成18年度～20年度） | 図表 44 | 89 |
| 評議員会開催状況（平成20年度） | 図表 45 | 94 |
| 教授会開催状況（平成20年度） | 図表 46 | 96 |
| 審査教授会開催状況（平成20年度） | 図表 47 | 97 |
| 委員会等の開催状況（平成20年度） | 図表 48 | 97 |
| 学校法人の事務組織 | 図表 49 | 102 |
| 公認会計士による監査実施状況（平成18年度～20年度） | 図表 50 | 111 |
| 教育研究経費比率（平成18年度～20年度） | 図表 51 | 114 |

《短期大学の特色等》

【短期大学の特色等】

(1) 短期大学を設置する学校法人（以下「法人」という。）の沿革（概要）及び短期大学の沿革（概要）。

学校法人の沿革 図表 1

| | |
|--------------|---|
| 昭和 37 年 12 月 | 学校法人聖徳学園設立 |
| 昭和 38 年 4 月 | 岐阜南高等学校開校 |
| 昭和 39 年 12 月 | 聖徳自動車学園開校 |
| 昭和 41 年 1 月 | 岐阜南女子短期大学（家政科、保育科第一部、保育科第二部）設置認可 |
| 昭和 41 年 2 月 | 栄養士養成施設指定認可 |
| 昭和 41 年 3 月 | 保育士養成施設認定（保育科第一部） 免許状授与のための課程認定（保育科第一部、保育科第二部） |
| 昭和 41 年 4 月 | 第 1 回入学式挙行 |
| 昭和 41 年 11 月 | 校名を聖徳学園女子短期大学に改称 |
| 昭和 41 年 12 月 | 保育士養成施設認定（保育科第二部） |
| 昭和 42 年 1 月 | 家政科を、家政科第一部家政専攻・食物栄養専攻とする。 |
| 昭和 42 年 4 月 | 家政専攻を被服（服飾）コース、養護教諭コースとする。 |
| 昭和 43 年 2 月 | 家政科第三部、保育科第三部設置認可 |
| 昭和 43 年 3 月 | 免許状授与のための課程認定（保育科第三部） |
| 昭和 43 年 4 月 | 保育士養成施設認定（保育科第三部） |
| 昭和 45 年 2 月 | 初等教育学科設置認可 家政専攻を家政コース・生活造形コース・養護教諭コースとする。 教育職員免許状授与の課程認定（初等教育科） |
| 昭和 45 年 3 月 | 保育科第一部、第二部及び第三部を幼児教育学科第一部、第二部、第三部に、家政科第一部、第三部を家政学科第一部、第三部に名称変更。 |
| 昭和 47 年 3 月 | 家政学科第一部家政専攻を、衣料服飾コース・養護教諭コースとする。 |
| 昭和 47 年 4 月 | 聖徳学園岐阜教育大学（教育学部）開学 同附属小学校・中学校開設 |
| 昭和 47 年 5 月 | 幼児教育学科第二部保育士養成施設廃止 |
| 昭和 49 年 3 月 | 昭和 47 年 3 月併設聖徳学園岐阜教育大学の設置認可に伴い、初等教育学科を廃止。 |
| 昭和 51 年 4 月 | 聖徳学園岐阜教育大学附属高等学校開校 |
| 昭和 59 年 4 月 | 家政学科第一部家政専攻を生活情報コース・養護教諭コースとする。 |
| 昭和 60 年 4 月 | 聖徳学園岐阜教育大学附属幼稚園開園 |
| 平成元年 3 月 | 幼児教育学科第二部廃止 |

| | |
|-----------|---|
| 平成元年 4月 | 家政専攻を生活情報コース・英語コース・養護教諭コースとする。 |
| 平成 2年 4月 | 聖徳学園岐阜教育大学に外国語学部増設 |
| 平成 3年 12月 | 商経学科設置認可 |
| 平成 4年 4月 | 家政専攻を生活情報コース・養護教諭コースとする。 商経学科を商経実務コース・実務英語コースとする。 |
| 平成 10年 4月 | 岐阜聖徳学園大学短期大学部に校名変更。男女共学化。 家政学科第一部を生活学科第一部に名称変更 聖徳学園岐阜教育大学を岐阜聖徳学園大学に校名変更 岐阜聖徳学園大学に経済情報学部増設、大学院国際文化研究科新設 |
| 平成 11年 3月 | 商経学科廃止 |
| 平成 12年 3月 | 家政学科第三部廃止 |
| 平成 13年 4月 | 生活学科第一部を生活学科に名称変更 岐阜南高等学校を清翔高等学校に校名変更 |
| 平成 14年 4月 | 岐阜聖徳学園大学に大学院経済情報研究科増設 |
| 平成 16年 4月 | 岐阜聖徳学園大学大学院経済情報研究科修士課程を博士課程に変更 |

(2) 短期大学の所在地、位置（市・区・町・村の全体図）、周囲の状況（産業、人口等）等。

所在地

岐阜県岐阜市中鶉一丁目 38 番地

位置

JR 岐阜駅から南へ約 4 km、バスで約 15 分、また、名神高速道路岐阜羽島 IC から北へ約 10 km、約 20 分の位置にある。

本学の所在地である岐阜市は、人口 420,891 人（平成 21 年 3 月 1 日現在）、平成 8 年 4 月 1 日より中核市の指定を受けている。戦後は、繊維産業を中心に発展し、東京、大阪と並ぶ全国有数のアパレル産地となった。古くから美濃和紙や良質の竹材に恵まれたことから提灯、和傘、うちわ、油紙、のぼり鯉などの伝統工芸も脈々と受け継がれている。



本学案内図及び学校法人聖徳学園全体案内図 図表 2

《短期大学の特色等》



岐阜市全体図 図表 3

(3) 法人理事長、学長の氏名、連絡先及びその略歴、ALO の氏名、連絡先及びその略歴。なお、連絡先としては、TEL、FAX、E-Mail 等を記載して下さい。

1 理事長

氏名 杉山 勝久 (すぎやま かつひさ)
連絡先 〒501-6194 岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目1番地
電話 058-279-3300 (聖徳学園法人本部)
略歴 昭和35年 早稲田大学第一商学部卒業
昭和35年 橋武青果(株)
昭和46年 山勝青果(株)代表取締役
昭和46年 学校法人聖徳学園理事
昭和54年 学校法人聖徳学園評議員
平成11年 学校法人聖徳学園理事
平成15年 学校法人聖徳学園理事長

2 学長

氏名 口羽 益生 (くちば ますお)
連絡先 〒501-6194 岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目1番地
電話 058-279-0804 (内線120) (学長室)
E-mail kuchiba@ha.shotoku.ac.jp
略歴 昭和28年 龍谷大学文学部哲学科(社会学専攻)卒業
昭和32年 京都大学大学院文学研究科修士課程社会学専攻修了
昭和35年 京都大学大学院文学研究科博士課程社会学専攻単位取得満期退学

昭和35年 龍谷大学文学部助手兼講師
 昭和37年 コーネル大学大学院修士課程人類学専攻修了
 昭和38年 龍谷大学文学部助教授
 昭和45年 龍谷大学文学部教授
 平成元年 龍谷大学社会学部教授
 平成9年 龍谷大学社会学部長
 平成12年 龍谷大学名誉教授
 平成13年 仁愛大学人間学科教授
 平成17年 仁愛大学名誉教授
 平成17年 岐阜聖徳学園大学学長・岐阜聖徳学園大学短期大学部学長

3 ALO

氏名 鷺野 嘉映 (わしの かえい)

連絡先 〒500-8288 岐阜市中鶉一丁目38番地

電話 058-278-0711 (内線 276) (鷺野研究室)

E-mail washino@gifu.shotoku.ac.jp

略歴 昭和62年 岐阜市立岐阜薬科大学薬学部厚生薬学科卒業
 平成元年 岐阜市立岐阜薬科大学大学院薬学研究科博士前期課程修了
 平成元年 岐阜薬科大学助手
 平成2年 ファイザー製薬株式会社新薬開発センター
 平成8年 岐阜大学医学部助手
 平成13年 岐阜大学医学部講師 (併任)
 平成15年 名古屋文理大学健康生活学部助教授
 平成19年 岐阜聖徳学園大学短期大学部准教授
 平成20年 同 教授

(4) 平成15年度から21年度までの学科・専攻ごとの入学定員、入学者数、入学定員充足率(%), 収容定員、在籍者数、収容定員充足率(%)を次ページの表を例に作成して下さい。廃止、募集停止等の学科等を含む、該当する期間内に設置されたすべての学科等について作成して下さい。なお、在籍者数は毎年度5月1日時点とします。

設置学科、入学定員等 (平成15年度～21年度) 図表 4

| 学科等の名称 | | 15年度 | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 備考 |
|-----------|------------|------|------|------|------|------|------|------|----|
| 幼児教育学科第一部 | 入学定員 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | |
| | 入学者数 | 126 | 123 | 125 | 129 | 110 | 106 | 103 | |
| | 入学定員充足率(%) | 126 | 123 | 125 | 129 | 110 | 106 | 103 | |
| | 収容定員 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | |
| | 在籍者数 | 257 | 248 | 245 | 247 | 237 | 211 | 209 | |
| | 収容定員充足率(%) | 129 | 124 | 123 | 124 | 119 | 106 | 105 | |
| 幼児教育学科第三部 | 入学定員 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | |
| | 入学者数 | 57 | 56 | 57 | 64 | 62 | 59 | 63 | |
| | 入学定員充足率(%) | 114 | 112 | 114 | 128 | 124 | 118 | 126 | |
| | 収容定員 | 200 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | |
| | 在籍者数 | 146 | 159 | 161 | 169 | 174 | 172 | 177 | |
| | 収容定員充足率(%) | 73 | 106 | 107 | 113 | 116 | 115 | 118 | |

《短期大学の特色等》

| 学科等の名称 | | 15年度 | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 備考 |
|----------------|----------------|------|------|------|------|------|------|------|----|
| 生活学科 生活学専攻 | 入学定員 | 70 | 70 | 70 | 70 | 70 | 70 | 70 | |
| | 入学者数 | 68 | 64 | 62 | 48 | 61 | 53 | 61 | |
| | 入学定員 充足率(%) | 97 | 91 | 88 | 68 | 87 | 75 | 87 | |
| | 収容定員 | 140 | 140 | 140 | 140 | 140 | 140 | 140 | |
| | 在籍者数 | 132 | 127 | 123 | 110 | 109 | 114 | 112 | |
| | 収容定員 充足率(%) | 94 | 91 | 88 | 79 | 78 | 81 | 80 | |
| 生活学科 食物栄養専攻 | 入学定員 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | |
| | 入学者数 | 43 | 46 | 37 | 40 | 48 | 51 | 55 | |
| | 入学定員 充足率(%) | 86 | 92 | 74 | 80 | 96 | 102 | 110 | |
| | 収容定員 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | |
| | 在籍者数 | 93 | 88 | 81 | 77 | 86 | 97 | 105 | |
| | 収容定員 充足率(%) | 93 | 88 | 81 | 77 | 86 | 97 | 105 | |

(5) 平成18年度～20年度に入学した学生の出身地別人数及び割合(10程度の区分)を下表を例に毎年度5月1日時点で作成して下さい。なお、短期大学の実態に沿って地域を区分して下さい。

出身地別学生数(平成18年度～20年度) 図表5

| 地域 | 18年度 | | 19年度 | | 20年度 | | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| | 人数(人) | 割合(%) | 人数(人) | 割合(%) | 人数(人) | 割合(%) | |
| 北海道・東北 | 0 | 0.0 | 1 | 0.4 | 1 | 0.4 | |
| 関東 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 1 | 0.4 | |
| 北信越 | 9 | 3.2 | 5 | 1.8 | 6 | 2.2 | |
| 県 | 岐阜 | 202 | 71.9 | 226 | 79.8 | 230 | 85.5 |
| | 静岡 | 2 | 0.7 | 2 | 0.7 | 1 | 0.4 |
| | 愛知 | 43 | 15.3 | 25 | 8.8 | 13 | 4.8 |
| | 三重 | 1 | 0.4 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| | 滋賀 | 12 | 4.2 | 12 | 4.2 | 5 | 1.8 |
| 近畿 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 1 | 0.4 | |
| 四国・中国 | 1 | 0.4 | 1 | 0.4 | 1 | 0.4 | |
| 九州・沖縄 | 11 | 3.9 | 11 | 3.9 | 10 | 3.7 | |
| 計 | 281 | 100.0 | 283 | 100.0 | 269 | 100.0 | |

(6) 法人が設置する他の教育機関の名称、所在地、入学定員、収容定員及び在籍者数の表をそれぞれ下表を例に平成21年5月1日時点で作成して下さい。

法人が設置する他の教育機関の現状(平成21年5月1日現在) 図表6

| 教育機関名 | 所在地 | 入学定員 | 収容定員 | 在籍者数 |
|-------------|------------------------------------|------|-------|-------|
| 岐阜聖徳学園大学大学院 | 岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目1番地 (国際文化研究科) | 38 | 79 | 36 |
| | 岐阜県岐阜市中鶉一丁目38番地 (経済情報研究科) | | | |
| 岐阜聖徳学園大学 | 岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目1番地 (教育学部・外国語学部) | 650 | 2,550 | 2,629 |
| | 岐阜県岐阜市中鶉一丁目38番地 (経済情報学部) | | | |
| 清翔高等学校 | 岐阜県岐阜市中鶉一丁目50番地 | 360 | 1,080 | 939 |

| 教育機関名 | 所在地 | 入学定員 | 収容定員 | 在籍者数 |
|----------------|--------------------|------|------|------|
| 岐阜聖徳学園大学附属高等学校 | 岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目1番地 | 110 | 330 | 264 |
| 岐阜聖徳学園大学附属中学校 | 岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目1番地 | 60 | 130 | 105 |
| 岐阜聖徳学園大学附属小学校 | 岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目1番地 | 60 | 280 | 305 |
| 岐阜聖徳学園大学附属幼稚園 | 岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目1番地 | 45 | 135 | 142 |

(7) その他 評価員が誤解しないように事前を知っていただきたい事項や事情があれば、記述して下さい。

1. 本学を含めた大学の学内体制

学内運営については、本学と併設四年制大学（岐阜聖徳学園大学）とを統合した体制を敷いている。また、二つのキャンパスに分かれている。（『《*短期大学の特色等》（2）図表2「本学案内図及び学校法人聖徳学園全体案内図」』参照）

岐阜キャンパス

短期大学部、併設四年制大学経済情報学部、併設大学院経済情報研究科

羽島キャンパス

併設四年制大学教育学部、併設四年制大学外国語学部、併設大学院国際文化研究科

事務局の一部は、併設四年制大学と兼ねている。

『《Ⅷ管理運営》【事務組織について】（1）図表49「学校法人の事務組織」』p.102参照

委員会は、短期大学部の委員会の他に、本学と併設四年制大学との全学委員会がある。

『《Ⅷ管理運営》【教授会等の運営体制について】（3）』p.99参照

2. 聖徳自動車学園（岐阜市柳津町東瀬外 7570）

学校法人聖徳学園寄附行為第5条に「(収益事業) この法人は、その収益を学校の経営に充てるため、次に掲げる収益事業を行う。(1)自動車教習所」として、聖徳自動車学園を設置している。

I【建学の精神・教育理念について】

《 I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》

【建学の精神、教育理念について】

(1) 建学の精神・教育理念を記述し、その意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述して下さい。

本学の母体である学校法人聖徳学園の設立の趣旨は、仏教精神を基調として学校教育を行うところにある。学園の創設者が主に岐阜県の浄土真宗本願寺派の僧侶有志であったことから、学園創設の使命を初代理事長杉山令肇が「仏教の教えを建学の精神とする人間教育こそが世を救う道であり、仏道による人間づくりを学校で行うことができたならこれにまさる有意義な報恩はない」(『二十年のあゆみ』学校法人聖徳学園・昭和58年10月)としたことに基づいている。

本学は、この仏教精神を建学の精神とし、浄土真宗の宗祖親鸞聖人や多くの仏教各派の宗祖が讃仰された聖徳太子の「以和為貴」(和をもって貴しとなす)の心を建学の精神の一指針とした。

仏教精神とは、「平等(あらゆる命の尊厳性を見つめる精神)」「利他(他者の救済を目指す精神)」「寛容(個々の性質の差を認め、許し合う精神)」等の価値観からなる。仏教精神を基調とした人間教育とは、単に社会を生き抜くための基礎力だけでなく、心を正しく方向づける世界観や価値観の重要性を認識するための高度な情操教育を意味する。それは具体的には、確かな専門的知識・技能の教育研究を基本としつつも、21世紀の国際化社会が強く求めている〈豊かな人間性、社会貢献の精神、国際性(協同性)に富む人材の育成を重視する教育〉を意味する。

本学は昭和41年(1966年)1月に設立されて以来、仏教精神に基づき、宗教的情操教育を基調として、豊かな人間性を育み、社会の和を尊重する精神を涵養し、社会に貢献できる有益な人材の育成に努めてきた。

(2) 現在は建学の精神・教育理念をどのような形や方法で学生や教職員に知らせているかを記述して下さい。

建学の精神、教育理念を学生に伝え、理解を求めするために、宗教の機能や意味、宗教と倫理や他文化との関係、世界や日本の主な宗教の宗教倫理等を学ぶ「宗教学」を必修科目として開講している。さらに、選択科目ではあるが、「仏教の生命観」も開講している。

建学の精神を普及・醸成するための宗教部(併設四年制大学と合同組織)を設置している。そのもとに建学の精神に則った宗教情操教育に関する必要な事項を審議するため、宗教委員会を設けている。

建学の精神および教育理念は、入学式、花祭り、報恩講の集い(11月28日)、勤行(毎週月曜日昼休み時間)等の仏教行事と関連する学校行事等で、学長等による法話や講話等を通して学生に伝えられている。

主な行事は次のようなものである。

① 花まつり(灌仏会)(4月)

入学式の際に、宗教部長が行事の紹介と、建学の精神の紹介を行う。

I【教育目的、教育目標について】

② 浄土真宗本願寺派本願寺への入学奉告参拝（4月）

新1年生全員と新任教職員が参加し、「建学の精神とは何か」を配付する。

③ 報恩講の集い（11月）

在学生全員が参加し、法話を聞き、学生による「私の主張」の発表を行う。

④ 物故者追悼法要（6月）

1年以内に亡くなられた教職員や学生、その近親者を偲ぶ。

⑤ 勤行（毎週月曜日昼休み時間）

全教職員、学生を対象に、僧籍者による法話を行い、月に1度は教職員による講話も行われる。

さらに、宗教部が『ともしび』（昭和54年度から平成19年度までは短期大学部宗教委委員会が80号まで発行）を年2回発行し、仏教精神の周知に努めている。『ともしび』は、在学生全員および教職員にも配付している。

【教育目的、教育目標について】

(1) 多くの短期大学が複数の学科・専攻（専攻科を含む。以下「学科等」という。）を設置しています。その場合、それぞれの学科等では建学の精神や教育理念から導き出された、より具体的な教育目的や教育目標を掲げているものと思います。（例えば、学科・専攻の設置認可の際に「設置の趣旨」等で示されたもの等）。ここでは全学的に示された教育目的や教育目標並びにそれぞれの学科等が設定している具体的な教育目的や教育目標を記述して下さい。

全体

学則第1章総則第1条に「本学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、建学の精神にのっとり宗教的情操を基調として、教養を培い、広く知識を授けるとともに、深い専門の学術技芸を教授研究し、もって社会に有為な人材を育成することを目的とする。」と明記している。

幼児教育学科第一部・第三部

倫理観に裏打ちされた豊かな教養と幅広い専門的知識・技術を体系的に修得させることにより、教育・保育機関、家庭、地域社会などにおいて、次代を担う子どもたちの最善の利益を保障し、健やかな発達を援助し、教育に貢献できる人材を育成することを目的としている。

生活学科

生活学専攻

生活学を基礎教養とし、生活情報や健康教育に関する専門知識と技術を体系的に修得させることにより、企業、教育機関、家庭、地域社会などにおいて、豊かな人間生活の創造ならびに社会福祉の推進に貢献できる人材を育成することを目的としている。

生活学専攻生活情報コース

広く情報社会に対応する生活の在り方について学習する。特に生活に関する基礎的な知識と技術を学び、生活についての総合的な判断力と実践力を養うとともに、情報処理の基礎および生活への情報活用法を修得することを目指している。

I 【定期的な点検について】

生活学専攻養護教諭コース

生活と健康や看護と教育などについての基礎的な知識と技術を学ぶことにより、「豊かで活力ある健康社会」の在り方を追求し、子どもたちに対する心身の健康をサポートできる養護教諭の育成を目指している。

食物栄養専攻

生活学を基礎教養とし、栄養士法および栄養士養成施設指導要領の定めるところにより、専門的な知識と技術を修得させることにより、食生活の指導・支援を通して人々の健康増進を図ることのできる質の高い人材を育成することを目的としている。

(2) それぞれの学科等の教育目的や教育目標を、現在はどのような方法で学生や教職員に周知し、またどのような方法で学外に公表しているかを記述して下さい。

学生に対しては、学科の教育目的・教育目標を学生要覧に記載し、入学時に行われるオリエンテーション時に周知できるようにしている。また、入学時の指導担任との懇談などでも説明を行っている。

専任教員については、学科会議、専攻会議等での、教育目標、教育課程の検討の中で周知を図っている。非常勤講師に対しては幼児教育学科第一部・第三部だけではあるが、毎年1回開催される非常勤講師と学科所属の専任教員との懇談会で、学科の教育目標、学生指導等の話し合いを行っている。

学外へはホームページ上で各学科・専攻・コースの内容紹介とあわせ教育目標をわかりやすい内容で示している。

学科の教育目的・教育目標を学生に対して周知させる取組は、充分とはいえない。現状ではオリエンテーション時の説明のみであり、どのように教育目的・教育目標を学生に自覚させていくか、また、入学前の受験生に対してもよりわかりやすく周知させるかが課題である。

専任教員だけではなく非常勤講師についても、十分に学科の教育目的・教育目標を周知してもらうことは不可欠であり、専任、非常勤相互に教育目的・目標について理解を深める機会を持つことも必要と考える。

【定期的な点検等について】

(1) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検が、定期的に行われている場合はその概要を記述して下さい。また点検を行う組織、手続き等についても記述して下さい。

建学の精神および教育理念の解釈の見直しは、定期的には実施していないが、適宜検討してきた。

最近では、平成 17 年度において、建学の精神の見直しが学園理事会および全学宗教委員会（併設四年制大学との合同組織）等で行われ、現在の建学の精神の記述となった。なお、平成 18 年度から、「宗教教育研究会」を立ち上げ、建学の精神の具現化についての研究を行っている。

学科・専攻の教育目的・教育目標については、平成 19 年度に見直しが行われた。教授会において見直しが検討され、併設四年制大学と合同で構成する大学評議会（以

下「評議会」と記す)の議を経て、理事会で承認され、平成20年度学則に明記した。

(2) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検及びそれらを学生や教職員に周知する施策の実施について、理事会または短期大学教授会がどのように関与しているかを記述して下さい。

建学の精神および教育理念の解釈の見直しは、理事会が中心となり、全学宗教委員会において具体的な議論、検討がなされ、教授会、評議会等の審議を経て、決定し、学生や教職員に周知させる。

学生、教職員への周知の施策については、宗教委員会を中心に検討がなされ、教授会において審議され、施策の最終的な決定は理事会において行われる。

教育目的・教育目標の点検等については、学科および教授会において検討が行われ、評議会の議を経て、最終的に理事会の審議・承認となる。

【特記事項について】

(1) この《I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標について努力していることがあれば記述して下さい。また短期大学で独自の使い方や別の語句を使っている場合はその旨記述して下さい。

特になし。

(2) 特別な事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

〈添付資料〉建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標等についての印刷物

添付資料 I - 1 : 『学校法人聖徳学園二十年のあゆみ』抜粋

添付資料 I - 2 : 『学校法人聖徳学園創立 30 周年記念誌 翔きのときをめざして』抜粋

添付資料 I - 3 : リーフレット『本学にとって建学の精神とは何か』

添付資料 I - 4 : 『平成 18 年度宗教教育研究会報告書』抜粋

添付資料 I - 5 : 『2009 学生要覧』

〈参考資料〉

1. その他

参考資料 I - 1 : 『ともしび』通算 77 号(平成 18 年度)～通算 83 号(平成 21 年度)

参考資料 I - 2 : 『報恩講の集い“私はこちら考える”』

第 27 集(平成 18 年度)～第 29 集(平成 20 年度)

参考資料 I - 3 : 岐聖大通信『yawaragi』16号(2008春)～18号(2009春)

II【教育課程について】

《II 教育の内容》

【教育課程について】

(1) 学科等の現在の教育課程を、下の表を例に作成して下さい。なお学科等に複数の履修コースを設定し、学生に別の教育課程表として提示している場合はコースごとに記載して下さい。平成21年度に学科改組等を行った場合は、平成20年度の教育課程表を別途作成し、巻末に綴じて下さい。

教育課程(平成21年5月1日現在) 図表7

幼児教育学科第一部教育課程

| 科目の種別 | 授業科目名 | 授業形態 | | | 単位 | | | 教員配置 | | | 前年度の履修人員(クラス数) | 備考 |
|-------------|------------|------|----|----|----|----|----|------|----|-------|-----------------------|-----------------------------------|
| | | 講義 | 演習 | 実習 | 必修 | 選択 | 自由 | 専任 | 兼任 | 兼任 | | |
| 一般教育科目 | 宗教学 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 106(2) | |
| | 英語 I | | ○ | | 1 | | | ○ | | | 106(4) | |
| | 英語 II | | ○ | | 1 | | | ○ | | | 104(4) | |
| | スポーツ健康学 | ○ | | | 1 | | | | | ○ | 104(2) | |
| | スポーツ演習 | | | ○ | 1 | | | ○ | | | 106(2) | |
| | 情報処理 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 106(3) | |
| | 日本国憲法 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | 103(2) | |
| | 国際交流 | | ○ | | | 2 | | ○ | | | 14(1) | 幼児教育学科第三部・生活学科と共通開講 |
| | 英語 III | | ○ | | 1 | | | ○ | | | 1(1) | 旧カリキュラム1科目2単位が、Ⅲ、Ⅳ各1単位となった2年生共通開講 |
| | 英語 IV | | ○ | | 1 | | | ○ | | | | |
| | 中国語 I | | ○ | | | 1 | | | | ○ | 58(2) | |
| | 中国語 II | | ○ | | | 1 | | | | ○ | 5(1) | |
| | 韓国語 | | ○ | | | 1 | | | | ○ | — | 平成21年度新設 |
| | 情報処理演習 I | | ○ | | | 1 | | ○ | | | 7(1) | |
| | 情報処理演習 II | | ○ | | | 1 | | ○ | | | 0(1) | |
| | 哲学 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | 21(1) | |
| | 文学 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | 36(1) | |
| | 心理学 | ○ | | | | 2 | | ○ | | | 49(1) | |
| | 経済学 | ○ | | | | 2 | | | ○ | | 31(1) | |
| | 仏教の生命観 | ○ | | | | 2 | | ○ | | | 50(1) | |
| 現代社会論 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | 24(1) | | |
| 数学 | ○ | | | | 2 | | | ○ | | 33(1) | | |
| 自然科学概論 | ○ | | | | 2 | | - | - | - | 2(1) | 生活学科共通開講 平成21年度非開講 | |
| 生命科学 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | 70(1) | | |
| 人文学特論 | ○ | | | | 2 | | - | - | - | — | 非開講 | |
| 社会科学特論 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | 1(1) | 生活学科と共通開講 | |
| 自然科学特論 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | 1(1) | 生活学科と共通開講 | |
| 専門科目 | 基礎音楽 I | | ○ | | 1 | | | ○ | | | 106(2) | |
| | 基礎音楽 II | | ○ | | 1 | | | ○ | | | 104(2) | |
| | 基礎美術 I | | ○ | | 1 | | | ○ | ○ | | 106(4) | |
| | 基礎美術 II | | ○ | | 1 | | | ○ | ○ | | 104(4) | |
| | 基礎体育 I | | ○ | | 1 | | | ○ | | | 105(4) | 旧カリキュラム1科目2単位が、I、II各1単位となった |
| | 基礎体育 II | | ○ | | 1 | | | ○ | | | | |
| | 国語 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | 105(2) | |
| | 児童文化 | | ○ | | | 2 | | | ○ | | 107(2) | |
| | 小児保健 I | ○ | | | | 2 | | | ○ | | 106(2) | 旧カリキュラム1科目4単位が、I、II各2単位となった |
| | 小児保健 II | ○ | | | | 2 | | | ○ | | | |
| | 小児保健 III | ○ | | | | 2 | | | ○ | | 104(2) | 旧カリキュラムのIIがIIIとなった |
| | 小児保健実習 | | | ○ | | 1 | | | ○ | ○ | 100(4) | |
| | 小児栄養 I | | ○ | | | 1 | | | ○ | | 105(4) | 旧カリキュラム1科目2単位が、I、II各1単位となった |
| | 小児栄養 II | | ○ | | | 1 | | | ○ | | | |
| | 社会福祉 | ○ | | | | 2 | | | ○ | | 106(2) | |
| | 社会福祉援助技術 I | | ○ | | | 1 | | | | ○ | 101(2) | 旧カリキュラム1科目2単位が、I、II各1単位となった |
| 社会福祉援助技術 II | | ○ | | | 1 | | | | ○ | | | |

II 【教育課程について】

| 科目の種別 | 授業科目名 | 授業形態 | | | 単位 | | | 教員配置 | | | 前年度の履修人員 (クラス数) | 備考 | |
|---------------|----------------|----------|----|----|----|----|----|------|----|--------|--------------------------|----------------------------|--|
| | | 講義 | 演習 | 実習 | 必修 | 選択 | 自由 | 専任 | 兼任 | 兼任 | | | |
| 専門科目 | 児童福祉 | ○ | | | | 2 | | ○ | | | 104(2) | | |
| | 保育原理Ⅰ | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 106(2) | | |
| | 保育原理Ⅱ | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 104(2) | | |
| | 養護原理Ⅰ | ○ | | | | 2 | | ○ | | | 105(2) | | |
| | 養護原理Ⅱ | ○ | | | | 2 | | ○ | | | 20(2) | | |
| | 養護内容 | | ○ | | | 1 | | ○ | | | 102(2) | | |
| | 乳児保育Ⅰ | | ○ | | | 1 | | | | ○ | 101(2) | 旧カリキュラム1科目2単位が、Ⅰ、Ⅱ各1単位となった | |
| | 乳児保育Ⅱ | | ○ | | | 1 | | | ○ | | | | |
| | 臨床心理学 | | ○ | | | | 2 | | | ○ | 5(2) | | |
| | 精神保健 | ○ | | | | | 2 | | | ○ | 103(2) | | |
| | 家族援助論 | ○ | | | | | 2 | | ○ | | 100(2) | | |
| | 障害児保育 | | ○ | | | | 1 | | | ○ | 100(2) | | |
| | 基礎演習 | | ○ | | | 1 | | | ○ | | 105(14) | | |
| | 保育内容演習 | | ○ | | | 2 | | | ○ | | 105(10) | | |
| | 保育内容特論Ⅰ | ○ | | | | | 2 | | ○ | | — | 隔年開講により前年度開講無 | |
| | 保育内容特論Ⅱ | ○ | | | | | 2 | | | | 58(1) | | |
| | 保育内容特論Ⅲ | ○ | | | | | 2 | | | | 21(1) | | |
| | 福祉特論 | ○ | | | | | 2 | | ○ | | — | 隔年開講により前年度開講無 | |
| | 保育実習Ⅰ(保育所) | | | ○ | | | 2 | | ○ | | 104(1) | | |
| | 保育実習Ⅰ(児童福祉施設等) | | | ○ | | | 2 | | ○ | | 101(1) | | |
| | 保育実習Ⅰ(事前・事後指導) | | | ○ | | | 1 | | ○ | | 1年生 106(2) 2年生 105(2) | | |
| | 保育実習Ⅱ(保育所) | | | ○ | | | 2 | | ○ | | 93(1) | | |
| | 保育実習Ⅲ(児童福祉施設等) | | | ○ | | | 2 | | ○ | | 12(1) | | |
| | 教職に関する科目 | 保育者論 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 105(2) | |
| | | 教育学概論 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 106(2) | |
| | | 発達・学習心理学 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 104(2) | |
| | | 教育心理学 | ○ | | | | 2 | | ○ | | | 102(2) | |
| | | 青年心理学 | ○ | | | | 2 | | ○ | | | 7(1) | |
| | | 教育方法論 | ○ | | | | 2 | | | ○ | | 105(2) | |
| | | 教育相談 | ○ | | | | 2 | | | ○ | | 105(2) | |
| | | 教育課程論 | ○ | | | | 2 | | | ○ | | 105(2) | |
| | | 保育内容総論 | | ○ | | | 2 | | | | ○ | 105(2) | |
| 保育内容研究(健康) | | | ○ | | | 1 | | | ○ | | 105(2) | | |
| 保育内容研究(人間関係) | | | ○ | | | 1 | | | | ○ | 104(2) | | |
| 保育内容研究(環境) | | | ○ | | | 1 | | | ○ | | 106(2) | | |
| 保育内容研究(言葉) | | | ○ | | | 1 | | | | ○ | 104(2) | | |
| 保育内容研究(音楽表現Ⅰ) | | | ○ | | | 1 | | | ○ | | 105(2) | | |
| 保育内容研究(音楽表現Ⅱ) | | | ○ | | | 1 | | | ○ | | 77(2) | | |
| 保育内容研究(美術表現Ⅰ) | | | ○ | | | 1 | | | ○ | ○ | 105(4) | | |
| 保育内容研究(美術表現Ⅱ) | | | ○ | | | 1 | | | ○ | | 9(2) | | |
| 総合表現 | | | ○ | | | | 2 | | ○ | | 12(1) | | |
| 総合演習 | | | ○ | | | | 2 | | ○ | | 105(10) | | |
| 教育実習指導 | | | ○ | | | 1 | | | ○ | ○ | 1年生 106(2) 2年生 105(2) | | |
| 教育実習Ⅰ | | | ○ | | 2 | | | ○ | | 104(1) | | | |
| 教育実習Ⅱ | | | ○ | | 2 | | | ○ | | 99(1) | | | |

幼児教育学科第三部教育課程

(平成21年5月1日現在)

| 科目の種別 | 授業科目名 | 授業形態 | | | 単位 | | | 教員配置 | | | 前年度の履修人員 (クラス数) | 備考 |
|--------|---------|------|----|----|----|----|----|------|----|----|--------------------|----|
| | | 講義 | 演習 | 実習 | 必修 | 選択 | 自由 | 専任 | 兼任 | 兼任 | | |
| 一般教育科目 | 宗教学 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 57(1) | |
| | 英語Ⅰ | | ○ | | | 1 | | ○ | | | 58(1) | |
| | 英語Ⅱ | | ○ | | | 1 | | ○ | | | 55(1) | |
| | スポーツ健康学 | ○ | | | 1 | | | ○ | | | 57(1) | |
| | スポーツ演習 | | | ○ | 1 | | | ○ | | | 61(1) | |
| | 情報処理 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 59(1) | |

II 【教育課程について】

| 科目の種別 | 授業科目名 | 授業形態 | | | 単位 | | | 教員配置 | | | 前年度の履修人員 (クラス数) | 備考 | |
|---------|-----------|------|----|----|----|----|----|------|----|----|--------------------|---------------|----------------------------|
| | | 講義 | 演習 | 実習 | 必修 | 選択 | 自由 | 専任 | 兼任 | 兼任 | | | |
| 一般教育科目 | 日本国憲法 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 56(1) | |
| | 国際交流 | | ○ | | | 2 | | ○ | | | | 0(1) | 幼児教育学科第一部・生活学科と共通開講 |
| | 英語Ⅲ | | ○ | | | 1 | | - | - | - | | - | 非開講 |
| | 英語Ⅳ | | ○ | | | 1 | | - | - | - | | - | |
| | 中国語Ⅰ | | ○ | | | 1 | | - | - | - | | - | |
| | 中国語Ⅱ | | ○ | | | 1 | | - | - | - | | - | |
| | 韓国語 | | ○ | | | 1 | | - | - | - | | - | |
| | 情報処理演習Ⅰ | | ○ | | | 1 | | - | - | - | | - | |
| | 情報処理演習Ⅱ | | ○ | | | 1 | | - | - | - | | - | |
| | 哲学 | ○ | | | | 2 | | - | - | - | | - | |
| | 文学 | ○ | | | | 2 | | - | - | - | | - | |
| | 心理学 | ○ | | | | 2 | | - | - | - | | - | |
| | 経済学 | ○ | | | | 2 | | | ○ | | | 28(1) | |
| | 仏教の生命観 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | | - | 平成21年度より開講 |
| | 現代社会論 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | | 22(1) | |
| | 数学 | ○ | | | | 2 | | - | - | - | | - | 非開講 |
| | 自然科学概論 | ○ | | | | 2 | | - | - | - | | - | |
| | 生命科学 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | | 56(1) | |
| | 人文学特論 | ○ | | | | 2 | | - | - | - | | - | 非開講 |
| | 社会科学特論 | ○ | | | | 2 | | - | - | - | | - | |
| 自然科学特論 | ○ | | | | 2 | | - | - | - | | - | | |
| 専門科目 | 基礎音楽Ⅰ | | ○ | | | 1 | | ○ | | | | 59(1) | |
| | 基礎音楽Ⅱ | | ○ | | | 1 | | ○ | | | | 57(1) | |
| | 音楽演習 | | ○ | | | 1 | | ○ | | | | 35(1) | |
| | 基礎美術Ⅰ | | ○ | | | 1 | | | | ○ | | 57(2) | 旧カリキュラム1科目2単位が、Ⅰ、Ⅱ各1単位となった |
| | 基礎美術Ⅱ | | ○ | | | 1 | | | | ○ | | | |
| | 基礎体育Ⅰ | | ○ | | | 1 | | ○ | | | | 54(1) | 旧カリキュラム1科目2単位が、Ⅰ、Ⅱ各1単位となった |
| | 基礎体育Ⅱ | | ○ | | | 1 | | ○ | | | | | |
| | 国語 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | | 59(1) | |
| | 児童文化 | | ○ | | | 2 | | ○ | | | | 57(1) | |
| | 小児保健Ⅰ | ○ | | | | 2 | | ○ | | | | 57(1) | 旧カリキュラム1科目4単位が、Ⅰ、Ⅱ各2単位となった |
| | 小児保健Ⅱ | ○ | | | | 2 | | ○ | | | | | |
| | 小児保健Ⅲ | ○ | | | | 2 | | - | - | - | | - | 非開講 |
| | 小児保健実習 | | | ○ | | 1 | | ○ | | ○ | | 51(2) | |
| | 小児栄養Ⅰ | | ○ | | | 1 | | - | - | - | | 54(1) | 旧カリキュラム1科目2単位が、Ⅰ、Ⅱ各1単位となった |
| | 小児栄養Ⅱ | | ○ | | | 1 | | - | - | - | | | |
| | 社会福祉 | ○ | | | | 2 | | ○ | | | | 60(1) | |
| | 社会福祉援助技術Ⅰ | | ○ | | | 1 | | - | - | - | | 51(1) | 旧カリキュラム1科目2単位が、Ⅰ、Ⅱ各1単位となった |
| | 社会福祉援助技術Ⅱ | | ○ | | | 1 | | - | - | - | | | |
| | 児童福祉 | ○ | | | | 2 | | ○ | | | | 56(1) | |
| | 保育原理Ⅰ | ○ | | | | 2 | | ○ | | | | 59(1) | |
| | 保育原理Ⅱ | ○ | | | | 2 | | ○ | | | | 57(1) | |
| | 養護原理Ⅰ | ○ | | | | 2 | | ○ | | | | 57(1) | |
| | 養護原理Ⅱ | ○ | | | | 2 | | - | - | - | | - | 非開講 |
| | 養護内容 | | ○ | | | 1 | | ○ | | | | 55(1) | |
| | 乳児保育Ⅰ | | ○ | | | 1 | | - | - | - | | 51(1) | 旧カリキュラム1科目2単位が、Ⅰ、Ⅱ各1単位となった |
| | 乳児保育Ⅱ | | ○ | | | 1 | | - | - | - | | | |
| | 臨床心理学 | | ○ | | | 2 | | - | - | - | | - | 非開講 |
| | 精神保健 | ○ | | | | 2 | | ○ | | | | 55(1) | |
| | 家族援助論 | ○ | | | | 2 | | ○ | | | | 57(1) | |
| | 障害児保育 | | ○ | | | 1 | | | | ○ | | 49(1) | |
| 基礎演習 | | ○ | | | 1 | | - | - | - | | - | 非開講 | |
| 保育内容演習 | | ○ | | | 2 | | ○ | | | | 6(1) | | |
| 保育内容特論Ⅰ | ○ | | | | 2 | | ○ | | | | - | 隔年開講により前年度開講無 | |
| 保育内容特論Ⅱ | ○ | | | | 2 | | | | | | 23(1) | | |
| 保育内容特論Ⅲ | ○ | | | | 2 | | | | | | 14(1) | | |
| 福祉特論 | ○ | | | | 2 | | ○ | | | | - | 隔年開講により前年度開講無 | |

II 【教育課程について】

| 科目の種別 | 授業科目名 | 授業形態 | | | 単位 | | | 教員配置 | | | 前年度の履修人員(クラス数) | 備考 |
|------------------|----------------|------|----|----|----|----|----|------|----|-------|-------------------------------------|-----|
| | | 講義 | 演習 | 実習 | 必修 | 選択 | 自由 | 専任 | 兼任 | 兼任 | | |
| 専門に 関する 科目 | 保育実習Ⅰ（保育所） | | | ○ | | 2 | | ○ | | | 55(1) | |
| | 保育実習Ⅰ（児童福祉施設等） | | | ○ | | 2 | | ○ | | | 55(1) | |
| | 保育実習Ⅰ（事前・事後指導） | | | ○ | | 1 | | ○ | | | 53(1) | |
| | 保育実習Ⅱ（保育所） | | | ○ | | 2 | | ○ | | | 30(1) | |
| | 保育実習Ⅲ（児童福祉施設等） | | | ○ | | 2 | | ○ | | | 21(1) | |
| | 保育者論 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 56(1) | |
| | 教育学概論 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 56(1) | |
| | 発達・学習心理学 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 59(1) | |
| | 教育心理学 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 57(1) | |
| | 青年心理学 | ○ | | | 2 | | | - | - | - | - | 非開講 |
| | 教育方法論 | ○ | | | 2 | | | | | ○ | 52(1) | |
| | 教育相談 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 52(1) | |
| | 教育課程論 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 57(1) | |
| | 保育内容総論 | | ○ | | 2 | | | | | ○ | 57(1) | |
| | 保育内容研究（健康） | | ○ | | 1 | | | ○ | | | 56(1) | |
| | 保育内容研究（人間関係） | | ○ | | 1 | | | | | ○ | 59(1) | |
| | 保育内容研究（環境） | | ○ | | 1 | | | ○ | | | 59(1) | |
| | 保育内容研究（言葉） | | ○ | | 1 | | | | | ○ | 57(1) | |
| | 保育内容研究（音楽表現Ⅰ） | | ○ | | 1 | | | ○ | | | 57(1) | |
| | 保育内容研究（音楽表現Ⅱ） | | ○ | | 1 | | | ○ | | | 55(1) | |
| | 保育内容研究（美術表現Ⅰ） | | ○ | | 1 | | | | | ○ | 53(2) | |
| | 保育内容研究（美術表現Ⅱ） | | ○ | | 1 | | | | | ○ | 15(1) | |
| | 総合表現 | | ○ | | 2 | | | - | - | - | - | 非開講 |
| | 総合演習 | | ○ | | 2 | | | ○ | | | 54(4) | |
| | 教育実習指導 | | ○ | | 1 | | | ○ | | ○ | 1年生 57(1) 2年生 57(1) 3年生 53(1) | |
| | 教育実習Ⅰ | | | | ○ | 2 | | ○ | | | 57(1) | |
| 教育実習Ⅱ | | | | ○ | 2 | | ○ | | | 48(1) | | |

生活学科（生活学専攻・生活情報コース）

（平成21年5月1日現在）

| 科目の種別 | 授業科目名 | 授業形態 | | | 単位 | | | 教員配置 | | | 前年度の履修人員(クラス数) | 備考 |
|--------------------------|---------|------|----|----|----|----|----|------|----|-------|-----------------------|-----------------------------------|
| | | 講義 | 演習 | 実習 | 必修 | 選択 | 自由 | 専任 | 兼任 | 兼任 | | |
| 一般 教科 育目 科 目 | 宗教学 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 32(1) | 生活学専攻共通開講 |
| | 英語Ⅰ | | ○ | | 1 | | | ○ | | | 32(1) | |
| | 英語Ⅱ | | ○ | | 1 | | | ○ | | | 32(1) | |
| | スポーツ健康学 | ○ | | | 1 | | | ○ | | | 32(1) | 生活学専攻共通開講 |
| | スポーツ演習 | | | ○ | 1 | | | ○ | | | 33(1) | 生活学専攻共通開講 |
| | 情報処理 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 33(1) | |
| | 日本国憲法 | ○ | | | 2 | | | | | ○ | 18(1) | 生活学科共通開講 |
| | 国際交流 | | ○ | | 2 | | | ○ | | | 0(1) | 幼児教育学科第一部・第三部と共通開講 |
| | 英語Ⅲ | | ○ | | 1 | | | ○ | | | 0(1) | 旧カリキュラム1科目2単位が、Ⅲ、Ⅳ各1単位となった2年生共通開講 |
| | 英語Ⅳ | | ○ | | 1 | | | ○ | | | | |
| | 中国語Ⅰ | | ○ | | 1 | | | | | ○ | 17(1) | |
| | 中国語Ⅱ | | ○ | | 1 | | | | | ○ | 0(1) | 生活学科共通開講 |
| | 韓国語 | | ○ | | 1 | | | | | ○ | - | 平成21年度新設 |
| | 情報処理演習Ⅰ | | ○ | | 1 | | | ○ | | | 33(1) | |
| | 情報処理演習Ⅱ | | ○ | | 1 | | | ○ | | | 27(1) | |
| | 哲学 | ○ | | | 2 | | | | | ○ | 0(1) | 生活学科共通開講 |
| | 文学 | ○ | | | 2 | | | | | ○ | 2(1) | 生活学科共通開講 |
| | 心理学 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 9(1) | 生活学科共通開講 |
| 経済学 | ○ | | | 2 | | | | | ○ | 24(1) | 生活学科共通開講 | |
| 仏教の生命観 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 5(1) | 生活学科共通開講 | |
| 現代社会論 | ○ | | | 2 | | | | | ○ | 3(1) | 生活学科共通開講 | |
| 数学 | ○ | | | 2 | | | | | ○ | 6(1) | 生活学科共通開講 | |
| 自然科学概論 | ○ | | | 2 | | | - | - | - | 0(1) | 生活学科共通開講 平成21年度非開講 | |

II【教育課程について】

| 科目 の 種別 | 授業科目名 | 授業形態 | | | 単位 | | | 教員配置 | | | 前年度の 履修人員 (7/75数) | 備考 | |
|---|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------------------------|-------|------------------------|
| | | 講 義 | 演 習 | 実 習 | 必 修 | 選 択 | 自 由 | 専 任 | 兼 担 | 兼 任 | | | |
| | 生命科学 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 16(1) | 生活学科共通開講 |
| | 人文学特論 | ○ | | | | 2 | | | — | — | — | — | 非開講 |
| | 社会科学特論 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 6(1) | 幼児教育学科第一部・ 生活学科共通開講 |
| | 自然科学特論 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 14(1) | 幼児教育学科第一部・ 生活学科共通開講 |
| 専 門 に 関 連 す る 目 的 科 目 | 生活経営論 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 33(1) | |
| | 生活環境論 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 24(1) | |
| | 衣生活論Ⅰ | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 33(1) | |
| | 食生活論Ⅰ | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 32(1) | |
| | 住生活論 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 33(1) | |
| | 家族関係論 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 24(1) | |
| | 生活保障論 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 24(1) | |
| | 生活と福祉 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 24(1) | |
| | 健康生活論 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 1(1) | |
| | 生活文化論 | ○ | | | | 2 | | | — | — | — | — | 非開講 |
| | 生活社会論 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 4(1) | |
| | 児童学 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 14(1) | |
| | 衣生活論Ⅱ | ○ | | | | 2 | | | — | — | — | — | 非開講 |
| | 衣生活造形演習 | | ○ | | | 2 | | | — | — | — | — | 非開講 |
| | 食生活論Ⅱ | ○ | | | | 2 | | | — | — | — | — | 非開講 |
| | 調理学及び実習 | | ○ | | | 2 | | | | | ○ | 19(1) | |
| | コンピュータ概論 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 33(1) | |
| | プログラミング論 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 33(1) | |
| | プログラミングⅠ | | ○ | | | 1 | | | | | ○ | 32(1) | |
| | プログラミングⅡ | | ○ | | | 1 | | | | | ○ | 17(1) | |
| | システム設計 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 17(1) | |
| | データベース論 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 4(1) | |
| | ビジネス社会入門 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 33(1) | |
| | 生活調査 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 25(1) | |
| | 生活情報論 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 33(1) | |
| | 情報社会論 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 8(1) | |
| | プレゼンテーション論 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 33(1) | |
| | プレゼンテーション演習 | | ○ | | | 1 | | | | | ○ | 24(1) | |
| | ウェブデザインⅠ | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 32(1) | |
| | ウェブデザインⅡ | | ○ | | | 2 | | | | | ○ | 27(1) | |
| | ウェブデザイン演習 | | ○ | | | 2 | | | | | ○ | 12(1) | |
| | ウェブプログラミング演習 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 13(1) | |
| マルチメディア演習 | | ○ | | | 2 | | | | | ○ | 18(1) | | |
| デザイン論 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 21(1) | | |
| 基礎演習 | | ○ | | | 1 | | | | | ○ | 33(4) | | |
| 生活情報演習 | | ○ | | | 1 | | | | | ○ | 32(4) | | |
| 生活情報専門研究Ⅰ | | ○ | | | 2 | | | | | ○ | 24(4) | | |
| 生活情報専門研究Ⅱ | | ○ | | | 2 | | | | | ○ | 24(4) | | |

生活学科（生活学専攻・養護教諭コース）

（平成21年5月1日現在）

| 科目 の 種別 | 授業科目名 | 授業形態 | | | 単位 | | | 教員配置 | | | 前年度の 履修人員 (7/75数) | 備考 | |
|----------------------------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------------------------|-------|------------------------|
| | | 講 義 | 演 習 | 実 習 | 必 修 | 選 択 | 自 由 | 専 任 | 兼 担 | 兼 任 | | | |
| 一 般 教 育 科 目 | 宗教学 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 21(1) | 生活学専攻共通開講 |
| | 英語Ⅰ | | ○ | | | 1 | | | | | ○ | 19(1) | |
| | 英語Ⅱ | | ○ | | | 1 | | | | | ○ | 17(1) | |
| | スポーツ健康学 | ○ | | | | 1 | | | | | ○ | 18(1) | 生活学専攻共通開講 |
| | スポーツ演習 | | | ○ | | 1 | | | | | ○ | 19(1) | 生活学専攻共通開講 |
| | 情報処理 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 17(1) | |
| | 日本国憲法 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 18(1) | 生活学科共通開講 |
| | 国際交流 | | ○ | | | 2 | | | | | ○ | 0(1) | 幼児教育学科第一部・第三部 と共通開講 |

II 【教育課程について】

| 科目の種別 | 授業科目名 | 授業形態 | | | 単位 | | | 教員配置 | | | 前年度の履修人員(クラス数) | 備考 |
|-----------|---------|-------|----|----|----|----|----|------|----|-------|------------------------|-------------------------------------|
| | | 講義 | 演習 | 実習 | 必修 | 選択 | 自由 | 専任 | 兼任 | 兼任 | | |
| 一般教育科目 | 英語Ⅲ | | ○ | | | 1 | | ○ | | | 1 (1) | 旧カリキュラム1科目2単位が、Ⅲ、Ⅳ各1単位となった2年生共通開講 |
| | 英語Ⅳ | | ○ | | | 1 | | ○ | | | | |
| | 中国語Ⅰ | | ○ | | | 1 | | | | ○ | 3(1) | 食物栄養専攻と共通開講 |
| | 中国語Ⅱ | | ○ | | | 1 | | | | ○ | 0(1) | 生活学科共通開講 |
| | 韓国語 | | ○ | | | 1 | | | | ○ | - | 平成21年度新設 |
| | 情報処理演習Ⅰ | | ○ | | | 1 | | ○ | | | 17(1) | |
| | 情報処理演習Ⅱ | | ○ | | | 1 | | - | - | - | - | 非開講 |
| | 哲学 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | 0(1) | 生活学科共通開講 |
| | 文学 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | 0(1) | 生活学科共通開講 |
| | 心理学 | ○ | | | | 2 | | ○ | | | 20(1) | 生活学科共通開講 |
| | 経済学 | ○ | | | | 2 | | | ○ | | 14(1) | 生活学科共通開講 |
| | 仏教の生命観 | ○ | | | | 2 | | ○ | | | 0(1) | 生活学科共通開講 |
| | 現代社会論 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | 7(1) | 生活学科共通開講 |
| | 数学 | ○ | | | | 2 | | | ○ | | 10(1) | 生活学科共通開講 |
| | 自然科学概論 | ○ | | | | 2 | | - | - | - | 0(1) | 生活学科共通開講 平成21年度非開講 |
| | 生命科学 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | 10(1) | 生活学科共通開講 |
| | 人文学特論 | ○ | | | | 2 | | - | - | - | - | 非開講 |
| | 社会科学特論 | ○ | | | | 2 | | | | | 9(1) | 幼児教育学科第一部・生活学科共通開講 |
| | 自然科学特論 | ○ | | | | 2 | | | ○ | | 16(1) | 幼児教育学科第一部・生活学科共通開講 |
| | 専門科目 | 生活経営論 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | - |
| 生活環境論 | | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 36(1) | |
| 衣生活論Ⅰ | | ○ | | | 2 | | | | ○ | | 35(1) | |
| 食生活論Ⅰ | | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 21(1) | |
| 住生活論 | | ○ | | | 2 | | | ○ | | | - | 平成20年度非開講 |
| 児童学 | | ○ | | ○ | | 2 | | ○ | | | 19(1) | 食物栄養専攻と共通開講 |
| 解剖生理学 | | ○ | | | 2 | | | | | ○ | 21(1) | |
| 微生物学 | | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 19(1) | |
| 免疫学 | | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 21(1) | |
| 基礎薬理学 | | ○ | | | 2 | | | ○ | | | - | 平成20年度教育課程における新設科目。 平成20年度は開講無し。 |
| 衛生学 | | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 19(1) | |
| 公衆衛生学 | | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 21(1) | |
| 精神保健 | | ○ | | | 2 | | | | | ○ | 21(1) | |
| 小児保健 | | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 30(1) | |
| 看護学Ⅰ | | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 21(1) | 旧カリキュラム1科目4単位が、Ⅰ、Ⅱ各2単位となった |
| 看護学Ⅱ | | ○ | | | 2 | | | ○ | | | | |
| 看護学Ⅲ | | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 1年生 19(1) 2年生 36(1) | 旧カリキュラム看護学Ⅱ |
| 看護学実習Ⅰ | | | | ○ | 1 | | | ○ | | | 18(2) | |
| 看護学実習Ⅱ | | | | ○ | 1 | | | | | ○ | 36(2) | |
| 看護学臨床実習指導 | | | | ○ | 1 | | | ○ | | ○ | 1年生 18(1) 2年生 35(1) | |
| 看護学臨床実習 | | | | ○ | 2 | | | ○ | | | 35(1) | |
| 救急処置 | | | ○ | | | 2 | | ○ | | | 19(2) | |
| 医学概論 | | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 21(1) | |
| 歯科衛生学 | | ○ | | | 2 | | | | | ○ | 17(1) | |
| 社会福祉概論 | | ○ | | | 2 | | | | | ○ | - | 平成20年度教育課程における新設科目。 平成20年度は開講無し。 |
| 生活保健情報統計 | | ○ | | | 2 | | | ○ | | | - | |
| カウンセリング演習 | | | ○ | | | 1 | | ○ | | | - | |
| 健康教育論 | | ○ | | | 2 | | | ○ | | | - | |
| 健康管理概論 | | ○ | | | 2 | | | ○ | | | - | |
| 基礎演習 | | | ○ | | 1 | | | ○ | | | 18(3) | |
| 養護問題演習 | | | ○ | | 2 | | | ○ | | | 36(4) | |
| 養護教諭特別演習Ⅰ | | | ○ | | 1 | | | ○ | | | 20(4) | |
| 養護教諭特別演習Ⅱ | | | ○ | | 1 | | | ○ | | | - | |
| 養護教諭特別演習Ⅲ | | ○ | | 1 | | | ○ | | | - | | |
| 自由科目 | 学校保健 | ○ | | | 2 | | ○ | | | 20(1) | | |
| | 学校保健実習 | | | ○ | 1 | | ○ | | | 35(2) | | |
| | 養護概説 | ○ | | | 2 | | ○ | | | 20(1) | | |
| | 健康相談活動 | ○ | | | 2 | | ○ | | | 18(1) | | |

II【教育課程について】

| 科目の種別 | 授業科目名 | 授業形態 | | | 単位 | | | 教員配置 | | | 前年度の履修人員(クラス数) | 備考 |
|----------|----------|------|----|----|----|----|----|------|----|------|------------------------|-------------|
| | | 講義 | 演習 | 実習 | 必修 | 選択 | 自由 | 専任 | 兼任 | 兼任 | | |
| 教職に関する科目 | 教職概論 | ○ | | | | 2 | | ○ | | | 36(1) | 食物栄養専攻と共通開講 |
| | 教育学概論 | ○ | | | | 2 | | ○ | | | 21(1) | 食物栄養専攻と共通開講 |
| | 発達・学習心理学 | ○ | | | | 2 | | ○ | | | 20(1) | 食物栄養専攻と共通開講 |
| | 保健科教育法 | ○ | | | | 2 | | ○ | | | 6(1) | |
| | 教育方法論 | ○ | | | | 2 | | | ○ | | 18(1) | |
| | 道德教育研究 | ○ | | | | 1 | | ○ | | | 7(1) | 食物栄養専攻と共通開講 |
| | 特別活動 | ○ | | | | 1 | | ○ | | | 7(1) | 食物栄養専攻と共通開講 |
| | 生徒指導論 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | 17(1) | 食物栄養専攻と共通開講 |
| | 教育相談 | ○ | | | | 2 | | ○ | | | 36(1) | 食物栄養専攻と共通開講 |
| | 総合演習 | | ○ | | | 2 | | ○ | | | 36(3) | |
| | 養護実習指導 | | | ○ | | 1 | | ○ | | | 1年生 18(1) 2年生 35(1) | |
| | 養護実習 | | | | ○ | 3 | | ○ | | | 35(1) | |
| | 教育実習指導 | | | ○ | | 1 | | ○ | | ○ | 7(1) | 食物栄養専攻と共通開講 |
| 教育実習 | | | | ○ | 4 | | ○ | | | 7(1) | | |

生活学科（食物栄養専攻）

（平成 21 年 5 月 1 日現在）

| 科目の種別 | 授業科目名 | 授業形態 | | | 単位 | | | 教員配置 | | | 前年度の履修人員(クラス数) | 備考 | |
|--------|-----------|--------|----|----|----|----|----|------|----|----|----------------|--|----------|
| | | 講義 | 演習 | 実習 | 必修 | 選択 | 自由 | 専任 | 兼任 | 兼任 | | | |
| 一般教養科目 | 宗教学 | ○ | | | | 2 | | ○ | | | 51(1) | | |
| | 英語 I | | ○ | | | 1 | | ○ | | | 51(1) | | |
| | 英語 II | | ○ | | | 1 | | ○ | | | 50(1) | | |
| | スポーツ健康学 | ○ | | | | 1 | | ○ | | | 50(1) | | |
| | スポーツ演習 | | | ○ | | 1 | | ○ | | | 51(1) | | |
| | 情報処理 | ○ | | | | 2 | | ○ | | | 51(1) | | |
| | 日本国憲法 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | 35(1) | 生活学科共通開講 | |
| | 国際交流 | | ○ | | | 2 | | ○ | | | 0(1) | 幼児教育学科第一部・第三部と共通開講 | |
| | 英語 III | | ○ | | | 1 | | ○ | | | 1(1) | 旧カリキュラム 1 科目 2 単位が、Ⅲ、Ⅳ 各 1 単位となった 2 年生共通開講 | |
| | 英語 IV | | ○ | | | 1 | | ○ | | | | | |
| | 中国語 I | | ○ | | | 1 | | | | ○ | 27(1) | 養護教諭コースと共通開講 | |
| | 中国語 II | | ○ | | | 1 | | | | ○ | 17(1) | 生活学科共通開講 | |
| | 韓国語 | | ○ | | | 1 | | | | ○ | - | 平成 21 年度新設 | |
| | 情報処理演習 I | | ○ | | | 1 | | ○ | | | 6(1) | | |
| | 情報処理演習 II | | ○ | | | 1 | | - | - | - | - | 非開講 | |
| | 教養科目 | 哲学 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | 2(1) | 生活学科共通開講 |
| | | 文学 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | - | 生活学科共通開講 |
| | | 心理学 | ○ | | | | 2 | | ○ | | | 7(1) | 生活学科共通開講 |
| | | 経済学 | ○ | | | | 2 | | | ○ | | 12(1) | 生活学科共通開講 |
| | | 仏教の生命観 | ○ | | | | 2 | | ○ | | | 15(1) | 生活学科共通開講 |
| 現代社会論 | | ○ | | | | 2 | | | ○ | | 20(1) | 生活学科共通開講 | |
| 数学 | | ○ | | | | 2 | | | ○ | | 5(1) | 生活学科共通開講 | |
| 自然科学概論 | | ○ | | | | 2 | | - | - | - | 0(1) | 生活学科共通開講 平成 21 年度非開講 | |
| 生命科学 | | ○ | | | | 2 | | | | ○ | 39(1) | 生活学科共通開講 | |
| 人文学特論 | | ○ | | | | 2 | | - | - | - | - | 非開講 | |
| 専門科目 | 社会科学特論 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | 12(1) | 幼児教育学科第一部・生活学科共通開講 | |
| | 自然科学特論 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | 31(1) | 幼児教育学科第一部・生活学科共通開講 | |
| | 衣生活論 | ○ | | ○ | | 2 | | | | ○ | 50(1) | | |
| | 住生活論 | ○ | | | | 2 | | | ○ | | 51(1) | | |
| | 生活環境論 | ○ | | | | 2 | | | ○ | | 45(1) | | |
| | 生活経営論 | ○ | | | | 2 | | | ○ | | 46(1) | | |
| 専門科目 | 家族関係論 | ○ | | | | 2 | | | ○ | | 0(1) | | |
| | 児童学 | ○ | | ○ | | 2 | | ○ | | | 0(1) | 養護教諭コースと共通開講 | |
| | 公衆衛生学 | ○ | | | | 2 | | | ○ | | 45(1) | | |
| | 社会福祉概論 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | 45(1) | | |
| | 解剖学 | ○ | | | | 2 | | | | ○ | 51(1) | | |
| | 生化学 | ○ | | | | 2 | | | ○ | | 51(1) | | |

II 【教育課程について】

| 科目の種別 | 授業科目名 | 授業形態 | | | 単位 | | | 教員配置 | | | 前年度の履修人員(7/7人数) | 備考 | |
|-----------|----------|------|----|----|----|----|----|------|----|----|-----------------|----------------------------|------------------------------------|
| | | 講義 | 演習 | 実習 | 必修 | 選択 | 自由 | 専任 | 兼任 | 兼任 | | | |
| 専門科目 | 生理学 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 51(1) | |
| | 生理・生化学実験 | | | ○ | | 1 | | ○ | | | | 49(1) | |
| | 医学概論 | ○ | | | | 2 | | | | | ○ | 49(1) | |
| | 食品学 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | | 51(1) | |
| | 食品学実験Ⅰ | | | ○ | | 1 | | ○ | | | | 51(1) | |
| | 食品学実験Ⅱ | | | ○ | | 1 | | ○ | | | | 0(1) | |
| | 食品衛生学 | ○ | | | 2 | | | | | | ○ | 46(1) | |
| | 食品衛生学実験 | | | ○ | | 1 | | ○ | | | | 1年生 50(1) 2年生 54(2) | |
| | 食品微生物学 | ○ | | | | 2 | | - | - | - | | 34(1) | 開講時期変更により平成21年度は不開講 |
| | 食品加工学 | ○ | | | | 2 | | ○ | | | | 43(1) | |
| | 食品加工学実習 | | | ○ | | 1 | | ○ | | | | - | 平成20年度教育課程における新設科目。 平成20年度は開講無し |
| | 栄養学総論 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | | 51(1) | |
| | 栄養学各論 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | | 46(1) | |
| | 栄養学各論実習 | | | ○ | | 1 | | ○ | | | | 44(1) | |
| | 臨床栄養学Ⅰ | ○ | | | 2 | | | ○ | | | | 50(1) | |
| | 臨床栄養学Ⅱ | ○ | | | 2 | | | ○ | | | | 46(1) | |
| | 臨床栄養学実習 | | | ○ | | 1 | | ○ | | | | 45(1) | |
| | 栄養指導論Ⅰ | ○ | | | 2 | | | ○ | | | | 51(1) | |
| | 栄養指導論実習Ⅰ | | | ○ | | 1 | | ○ | | | | 49(1) | |
| | 栄養指導論Ⅱ | ○ | | | 2 | | | ○ | | | | 46(1) | |
| | 栄養指導論実習Ⅱ | | | ○ | | 1 | | ○ | | | | 42(1) | |
| | 公衆栄養学 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | | 45(1) | |
| | 調理学 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | | 51(1) | |
| | 調理学基礎実習 | | | ○ | 1 | | | ○ | | | | 51(1) | |
| | 調理学実習 | | | ○ | 1 | | | ○ | | | | 51(1) | |
| | 給食管理 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | | 51(1) | |
| | 給食管理実習指導 | | ○ | | | 1 | | ○ | | | | 1年生 49(1) 2年生 46(1) | |
| | 給食管理実習Ⅰ | | | ○ | | 1 | | ○ | | | | 50(1) | 旧カリキュラム1科目4単位が、Ⅰ・Ⅱ各1単位、Ⅲ2単位となった |
| | 給食管理実習Ⅱ | | | ○ | | 1 | | ○ | | | | | |
| | 給食管理実習Ⅲ | | | ○ | | 2 | | ○ | | | | | |
| 栄養士のための化学 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | | 29(1) | | |
| 学校栄養教育論Ⅰ | | ○ | | | 1 | | | | ○ | | 15(1) | | |
| 学校栄養教育論Ⅱ | | ○ | | | 1 | | | | ○ | | 8(1) | | |
| 基礎演習 | | ○ | | 1 | | | ○ | | | | 51(5) | | |
| 食生活演習Ⅰ | | ○ | | 1 | | | ○ | | | | 46(5) | 旧カリキュラム1科目2単位が、Ⅰ、Ⅱ各1単位となった | |
| 食生活演習Ⅱ | | ○ | | 1 | | | ○ | | | | | | |
| 教職に関する科目 | 教職概論 | ○ | | | 2 | | ○ | | | | 7(1) | 養護教諭コースと共通開講 | |
| | 教育学概論 | ○ | | | 2 | | ○ | | | | 16(1) | 養護教諭コースと共通開講 | |
| | 発達・学習心理学 | ○ | | | 2 | | ○ | | | | 7(1) | 養護教諭コースと共通開講 | |
| | 家庭科教育法 | ○ | | | 2 | | ○ | | | | 1(1) | | |
| | 教育方法論 | ○ | | | 2 | | | ○ | | | 7(1) | | |
| | 道徳教育研究 | ○ | | | 1 | | ○ | | | | 0(1) | 養護教諭コースと共通開講 | |
| | 特別活動 | ○ | | | 1 | | ○ | | | | 0(1) | 養護教諭コースと共通開講 | |
| | 生徒指導論 | ○ | | | 2 | | | | ○ | | 16(1) | 養護教諭コースと共通開講 | |
| | 教育相談 | ○ | | | 2 | | ○ | | | | 7(1) | 養護教諭コースと共通開講 | |
| | 総合演習 | | ○ | | 2 | | ○ | | | | 7(1) | | |
| | 栄養教育実習指導 | | | ○ | | 1 | | | | ○ | | 7(1) | |
| | 栄養教育実習 | | | ○ | | 1 | | ○ | | | | 7(1) | |
| | 教育実習指導 | | ○ | | | 1 | | ○ | | ○ | | 0(1) | 養護教諭コースと共通開講 |
| | 教育実習 | | | ○ | | 4 | | ○ | | | | 0(1) | |

Ⅱ【教育課程について】

(2) 教養教育の取組み、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等について特に強調したいことがあれば記述して下さい。

仏教精神を基調として宗教的情操を養うことを指針としているため、教養教育の柱として、全学科において「宗教学」を1年次に必修とし、選択の教養科目として「仏教の生命観」を設けている。

教養教育は、豊富な科目構成を目指すため、共通科目として15科目、教養科目として12科目を設けている。全学科とも、免許・資格取得のための科目数が非常に多いため、教養教育に充当できる時間数が限られてしまい、2科目から3科目の並列開講を実施しており、学生の選択の幅を広げることが難しい。

海外の文化を体験し、国際化の時代に対応できる学生の育成を目指し、「国際交流」の科目を設け、約2週間の日程でオーストラリアでの海外研修を行っている。

専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置については、各学科で以下のように特徴を持った教育を実施している。

幼児教育学科第一部・第三部

幼児教育学科第一部では62科目のうち必修32科目、選択30科目、同第三部では63科目のうち必修30科目、選択33科目のほぼ同程度のバランスのとれた専門科目を設けている。幼稚園教諭免許および保育士証を取得するために必要な科目が中心となっている。

特に表現を重視した科目として、人形劇を制作し発表する「児童文化」を卒業必修科目として設けており、学生の表現力のみならず協調性や責任感など、人間性を高める指導を心がけている。

また、毎年異なる内容で展開される「保育内容特論Ⅰ」「保育内容特論Ⅱ」「保育内容特論Ⅲ」および、「福祉特論」を設けており、固定的な内容ではなく、現在の保育に関わる問題や幼稚園・保育所などのニーズに答えることができるような内容にしている。

さらに、少人数で展開される「基礎演習」「総合演習」「保育内容演習」を設けており、現在の保育に関わる問題などを取り上げ、教員と学生との間で活発な意見交換を行い、自分の意見をまとめ相互に伝え合うことをねらいとした内容となっている。特に「保育内容演習」では、各自一つのテーマを深く追究し、問題提起から考察までを卒業研究として報告書にまとめさせている。

授業形態のバランスは、講義24科目、演習30科目(第三部31科目)、実習・実技8科目であり、講義と演習・実習・実技の割合は、約4:6である。演習科目を充実させることで、自らの意見をまとめて報告したり、他の人の意見に耳を傾けたりすることで、幅広い知見を身につけることができる教育課程にしている。

幼児教育学科第一部・第三部では、卒業時に幼稚園教諭二種免許状および保育士証が取得できるよう教育課程が構成されている。しかし在学中に進路を変更し、免許・資格を取得せずに卒業のみを目指す学生も少数ではあるが存在する。そのような学生が必ずしも免許・資格取得をしなくても卒業できるよう配慮している。

生活学科

生活学専攻生活情報コース

生活系・情報系の科目を専門科目として38科目設けている。授業形態は、講義25科目、演習13科目とし、講義により身に付けた知識を、演習により、より広く深く習得させている。必修18科目、選択20科目と、ほぼ同程度のバランスとしている。必修科目において核となる生活系・情報系基礎科目を履修した上で、各自の興味・将来の進路に合わせ、生活系・情報系応用科目を選択し履修できるようにしている。1年後期の「生活情報演習」から、2年前後期の「生活情報専門研究Ⅰ」「生活情報専門研究Ⅱ」まで1年半に渡りゼミナールを設け、少人数で継続した指導を行い、各自で設定したテーマについて、卒業研究として報告書にまとめている。

専任教員は生活系2名、情報系2名で専門科目を担当し、非常勤講師が担当する科目は6科目（16%）と少なく、科目間の連携の取れた教育内容としている。

生活学専攻養護教諭コース

専門科目を37科目設けており、生活学全般にわたる広い知識を身に付けられるように工夫されている。養護教諭二種免許状・中学校教諭二種免許状（保健）取得については、免許法施行規則で定められた単位数よりも多く履修することにより、専門性の高い養護教諭を養成できるような教育を行っている。さらに、選択科目として「歯科衛生学」、「カウンセリング演習」等の科目を設けることにより、学生が養護教諭として必要な知識・技術についてさらに学びたいという意欲に応えられるように工夫している。

授業形態のバランスは、講義26科目、演習6科目、実習5科目で、講義科目と演習科目および実習科目の比が約7：3となっている。

専門科目の教科に関する科目33科目中、必修科目が16科目、選択科目が17科目となっており、必修科目と選択科目がほぼ同じ割合である。また、本コースの特徴としては、卒業に必要な科目としてはみなされない自由科目4科目（7単位）を設けている。自由科目は、養護教諭二種免許状と中学校教諭二種免許状（保健）の必修科目であり、教職に関する科目と同様に位置づけて、教職の専門科目の強化をはかっている。

食物栄養専攻

専門科目を46科目設けている。授業形態は、講義26科目、演習6科目、実験・実習14科目で、講義と演習・実験・実習のバランスはほぼ5：4である。栄養士免許証に加え、教職（中学校教諭二種免許状（家庭）、栄養教諭二種免許状）の取得に必要な14科目を開設している。

栄養士免許証付与のため、厚生労働省から開講すべき教育分野と単位数が指定されている。本学では31科目（50単位）を開設している。

専門科目における必修・選択のバランスは、必修科目20科目に対して選択科目は26科目であるが、卒業資格と栄養士免許証取得のためには38科目が必修となり専門科目のうち83%の履修が必要である。

栄養士の専門教科内容では、栄養士法施行規則に基づいた6教育分野から1年前期は講義を中心とし基礎的な科目を設けている。後期は前期を踏まえ実習・実験を配置し、学習効果を高めるようにカリキュラムを組んでいる。2年次には、さらに応用科

II 【教育課程について】

目を配置し、1年後期から2年前期に開講している「給食管理実習」（学内実習）を含め、校外実習にむけて意欲を高めている。また1年次に「基礎演習」、2年次には「食生活演習」（ゼミナール）を開講し、専任教員の指導の基に積極的に研究活動を行い、栄養士としての資質の向上に努めている。

栄養士必修科目の31科目中5科目を除き専任教員が担当している。栄養士養成の専任教員の人数は、定員に対する基準より多く配置しており、きめ細かい教育および指導ができるよう配慮している。

(3) 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格を示してください。また教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会を設けている場合は、その免許・資格名とどのような履修方法であるかを記述してください。

当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格等は表に示したようになっている。

当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格等 図表 8

| | | | |
|-----------|--------|--|--|
| 幼児教育学科第一部 | | ①幼稚園教諭二種免許状 | ②保育士証 |
| 幼児教育学科第三部 | | ③社会福祉主事任用資格 | |
| 生活学科 | 生活学専攻 | 生活情報コース | ①情報処理士認定証 ※所定の単位を修得することで、中学校教諭二種免許状（家庭）を取得することが可能 |
| | | 養護教諭コース | ②ウェブデザイン実務士認定証 ①養護教諭二種免許状 ②中学校教諭二種免許状（保健） ③社会福祉主事任用資格 ④健康管理士一般指導員 ⑤ピアヘルパー |
| | 食物栄養専攻 | ①栄養士免許証 ③中学校教諭二種免許状（家庭） ⑤フードサイエンティスト | ②栄養教諭二種免許状 ④健康管理士一般指導員 |

教育課程に関係なく取得する機会を設けている免許・資格

浄土真宗本願寺派教師資格

科目等履修生制度を利用し併設四年制大学で所定の単位を履修することにより取得できる。

その他の免許・資格

「《IV教育目標の達成度と教育の効果》【資格取得の取組について】(1) p.55」及び「《V学生支援》【進路支援について】(2) p.72」に記述した。

(4) 選択科目を学生が適切に判断して選択できるように、学生要覧やガイダンス等でどのように指導しているかまた学生が希望する選択科目を履修しやすいように、時間割上どのような工夫を施しているか等について記述して下さい。

入学時に学生に配付される学生要覧には、各学科・専攻・コースの教育課程が明記されており、さらに各学科・専攻・コースで取得できる免許・資格等についての履修科目を記載している。また、入学時および各学期始めに行うオリエンテーションにおいて、学生要覧の記載に基づいて選択科目の履修について詳しく説明を行っている。

短期大学部事務室では、随時学生からの相談に応じている。さらに、指導担任等も科目履修についての相談に応じている。

卒業に必要な一般教育科目（共通科目および教養科目）16単位（幼児教育学科第三部は14単位）以上のうち、6科目（共通科目）8単位（幼児教育学科第三部は4科目

Ⅱ【教育課程について】

6 単位) が卒業必修である。選択科目 8 単位については、教養科目 3 科目 6 単位以上を含む 21 科目 (非開講科目を除けば 18 科目、生活学科生活学専攻生活情報コースは 19 科目) を 2 年間 (幼児教育学科第三部は、6 科目を 3 年間) にわたり履修できるように教育課程を編成している。教養科目は、人文科学系、社会科学系、自然科学系の分野から 1 科目以上を選択できるように時間割を編成している。

幼児教育学科第一部の専門科目 (50 単位以上履修) では、卒業必修科目は 32 科目 48 単位であり、卒業に必要な残り 2 単位のみが選択となっている。実際には幼稚園教諭二種免許状、保育士資格を取得するためにそれぞれ 37 単位、63 単位が必要となり、開設している選択科目 30 科目のほとんどを履修することになる。資格等の取得による制約が大きく、選択科目のほとんどを履修することになる。幼児教育学科第三部についても同様の状況にある。したがって、開講しているすべての科目が履修できるよう時間割編成を行っている。

生活学科生活学専攻生活情報コースの専門科目 (48 単位以上履修) では、卒業必修科目は 18 科目 33 単位であり、残り 15 単位以上は選択履修ができる。選択科目は 20 科目から選択履修できることになっている。学習内容の積み重ね、開講時期のアンバランスを避けるなど時間割編成での工夫を行い、すべての選択科目が履修できるようになっている。

生活学科生活学専攻養護教諭コースの専門科目 (48 単位以上履修) では、専門科目での卒業必修科目は 16 科目 30 単位であり、残り 18 単位以上は選択履修ができる。17 科目 29 単位から選択履修できることになっている。養護教諭コースでは、ほとんどの学生が養護教諭免許状を取得するために、教職に関する科目を履修しており、教職に関する科目とあわせた履修時間割の編成となる。したがって、開講科目数が多くなるが、すべての選択科目が履修できるように時間割編成を行っている。

生活学科食物栄養専攻の専門科目 (48 単位以上履修) では、卒業必修科目は 20 科目 35 単位であり、13 単位以上が選択履修できる。開設されている選択科目は 26 科目 38 単位あるが、そのほとんどの科目が栄養士免許取得に必要な科目である。食物栄養専攻では、栄養教諭および中学校二種免許状 (家庭) を取得できる時間割を編成しており、養護教諭コース同様、開講科目数は多くなるが、そのすべてを履修できるように時間割編成を行っている。

(5) 卒業要件単位数及びその他の卒業要件 (必須単位の修得、学生納付金の納付等) を示して下さい。また、学生にはどのような方法で卒業要件を周知させているかを記述して下さい。

卒業要件単位数 (必修単位を含む) 図表 9

幼児教育学科第一部

| 区 分 | 科 目 区 分 | | 卒業要件単位 |
|--------|----------|----------|---------|
| 一般教育科目 | 共通科目 | 必修 8 単位 | 16 単位以上 |
| | 教養科目 | 6 単位以上 | |
| 専門科目 | 教科に関する科目 | 必修 48 単位 | 50 単位以上 |
| | 教職に関する科目 | | |
| | 計 | | 66 単位以上 |

II 【教育課程について】

幼児教育学科第三部

| 区 分 | 科 目 区 分 | | 卒業要件単位 |
|--------|----------|----------|---------|
| 一般教育科目 | 共通科目 | 必修 6 単位 | 14 単位以上 |
| | 教養科目 | 6 単位以上 | |
| 専門科目 | 教科に関する科目 | 必修 45 単位 | 50 単位以上 |
| | 教職に関する科目 | | |
| | 計 | | 64 単位以上 |

生活学科生活学専攻生活情報コース

| 区 分 | 科 目 区 分 | | 卒業要件単位 |
|--------|----------|----------|---------|
| 一般教育科目 | 共通科目 | 必修 8 単位 | 16 単位以上 |
| | 教養科目 | 6 単位以上 | |
| 専門科目 | 教科に関する科目 | 必修 33 単位 | 48 単位以上 |
| | 計 | | 64 単位以上 |

生活学科生活学専攻養護教諭コース

| 区 分 | 科 目 区 分 | | 卒業要件単位 |
|----------|--------------------------------|----------|---------|
| 一般教育科目 | 共通科目 | 必修 8 単位 | 16 単位以上 |
| | 教養科目 | 6 単位以上 | |
| 専門科目 | 教科に関する科目 | 必修 30 単位 | 48 単位以上 |
| | 自由科目（卒業要件に含まず） | | |
| 教職に関する科目 | 養護教諭二種免許状、中学校二種免許状（保健）取得に必要な科目 | | 任意 |
| | 計 | | 64 単位以上 |

生活学科食物栄養専攻

| 区 分 | 科 目 区 分 | | 卒業要件単位 |
|----------|--------------------------------|----------|---------|
| 一般教育科目 | 共通科目 | 必修 8 単位 | 16 単位以上 |
| | 教養科目 | 6 単位以上 | |
| 専門科目 | 教科に関する科目 | 必修 35 単位 | 48 単位以上 |
| 教職に関する科目 | 栄養教諭二種免許状、中学校二種免許状（家庭）取得に必要な科目 | | 任意 |
| | 計 | | 64 単位以上 |

幼児教育学科第一部および幼児教育学科第三部ならびに生活学科の卒業要件単位は表に示した通りである。また、修業年数は2年以上で、授業料などの納付金がすべて納付されていることも条件である。

卒業要件は学生要覧に記載し、年度当初および学期はじめのオリエンテーションにおいて周知している。また、前学期までの成績確認書の配付時などに履修単位の確認、卒業までの履修計画のチェックなどの指導を短期大学部事務室が中心に行っている。

学納金の未納者については、随時納入を促す文書を送付している。学期ごとの一括納入が難しい学生に対しては延納の方法を指導している。

(6) 教育課程の見直し、改善について、学科等の現状を記述してください。なおこの項はできれば学科等の責任者(学科長、学科主任等。以下、「学科長等」という)が記述してください。

幼児教育学科長

平成19年度より成績評価においてGPA制度を導入したことにより、教育課程においても Semester 制を導入し、通年科目で分割可能な科目を分割するなどの見直しを行った。

より充実した保育者養成を行うために、「保育内容特論Ⅰ」と「福祉特論」、「保育内容特論Ⅱ」と「保育内容特論Ⅲ」を隔年で開講している。幼児教育・保育の基礎的な内容だけではなく、自然活動体験、レクリエーション活動体験、障がい児を持つ親の立場からの障がい児教育、心理学の立場からの障がい児教育など、幼児教育・保育に

関する今日的な問題等も取り上げている。

また、幼稚園教育要領・保育所保育指針の改定に伴い、教育課程の見直し・改善について検討する必要があると考えている。

生活学科長

生活学専攻生活情報コース

学生の希望進路の多様化、情報技術の革新と生活の変化に対応するために、特に情報分野を中心に見直しを行っている。平成 16 年度からは、インターネット関連技術教育の強化を目的とした『ウェブデザイン実務士』資格を取得するためのカリキュラムを導入した。本資格取得の教育課程は、ホームページのデザイナー・クリエイターの養成を目的としたもので、従来のエンドユーザー育成教育寄りに加えて、情報コンテンツ開発者寄り教育も併せて行うようにした。その結果、学生の選択の幅が増え、多様な要求に応えることができるようになった。

平成 19 年度は、選択科目を中心に教科の見直し作業を行った。また、学生の卒業後の職業に役立つ資格・検定の選択の仕方や支援方法についても検討を重ねている。

本コースの学生は一般企業の事務職に就くことが多いが、それに対応する専門教科が手薄であったので、その充実を図る専門教育の見直しを行っており、平成 22 年度から教育課程の一部改編を行う予定である。

生活学専攻養護教諭コース

平成 17 年度より社会福祉主事任用資格を取得できるようにした。平成 19 年度は、養護教諭としての力量を高めるために開講科目を検討し、さらに教育課程を見直して平成 20 年度より『健康管理士一般指導員』および『ピアヘルパー』の受験資格が取得できるようにした。平成 22 年度に向けては、必修科目の見直しを行い、幅広く資格取得が可能な教育課程の検討をしている。

食物栄養専攻

平成 14 年度からの栄養士養成のカリキュラム変更に伴い、開講科目・開講時期について見直しを行い、「生化学」、「栄養学」等の授業内容が理解できるよう選択科目として「栄養士のための化学」を開講した。

平成 17 年度には栄養教諭教職課程を導入した。平成 19 年度は、栄養士の業務が管理栄養士との棲み分けにより給食管理にシフトしてきたことから、食品学関係科目の検討を開始し、平成 20 年度より『フードサイエンティスト称号』取得のために必要な「食品微生物学」「食品加工学実習」を選択科目として開講した。さらに健康管理士一般指導員の受験資格取得のための「薬剤学」「東洋医学」を集中講義として開講した。

平成 21 年 1 月に全国栄養士養成施設協会から出された「栄養士養成課程コアカリキュラム(試案)」を受け、より充実した栄養士養成の教育課程にするため、現在シラバスの見直しを行っている。資格取得希望者が少なくなっていた中学校教諭二種免許状(家庭)の取得については、平成 22 年度から廃止されることになった。それに伴って関連の教職科目を削除し、栄養士養成のゆとりあるかつ充実した教育課程となるよう検討している。

Ⅱ【授業内容・教育方法について】

【授業内容・教育方法について】

(1) シラバスあるいは講義要項を作成・配布する際に配慮していることや学生への周知方法等を記述して下さい。

内容は、「授業科目名」「開講学科・専攻・コース」「教員名」「講義区分」「概略」「評価方法・基準」「各週の授業計画」「テキスト」「テキスト ISBN」「参考文献」「参考 URL」の 11 項目よりなっている。

作成において配慮していることは、学生にわかりやすい各回の授業計画内容や評価方法・基準の内容とすることである。

具体的には、平成 20 年度から以下の内容の基準を加えた。

①(授業の)「概略」の内容について

<授業の概略>と<到達目標>に分けた説明内容。

②「評価方法・基準」の内容について

例として「試験結果(60%)、授業への参加度(30%)、提出物(10%)」などの評価項目のウェイトの明確化。

環境問題を考慮したペーパーレス化および IT 化を考慮して配付は行わず、ホームページ上で閲覧する方式をとっている。保存用の製本も行っている。

(2) 学生の履修態度、学業への意欲等について、学科長等はどのように把握し受け止めているか記述して下さい。

幼児教育学科長

幼児教育学科第一部・第三部入学後、最初の実習指導の授業で実施している資格取得希望調査によると、ほぼ 100%の学生が幼稚園教諭二種免許状および保育士証の両方の取得を希望している。そして、卒業する学生の 95%以上が、卒業と同時に幼稚園教諭二種免許状、保育士証を取得している。

卒業に必要な単位数は 66 単位(第三部は 64 単位)であるが、これらの免許、資格を卒業要件とはしていない。しかし、ほとんどの学生が 90 単位以上を修得し、これらの資格、免許を取得していることは、学生が卒業後の幼稚園、保育所、児童福祉施設等への就職をはっきりと意識し、目的を持って学業に臨んでいると考えられる。したがって、授業への出席状況も概ね良好であり、学生の履修態度、学習意欲とも特に問題はないと受け止めている。

生活学科長

生活学科では、資格に似合った教育レベル維持を目指して、一定の学力のある生徒の選抜を望んでいるが、定員確保のためには難しくなっている。特に生活学専攻生活情報コースは、特定の職業や資格を目指したコースではないため、入学してくる学生の目標や能力は多岐に渡っている。入学時点における学生の情報処理能力の個人差が大きく、受講態度や学習意欲にも差があり、学業の意欲を高めるために、学生個々の能力に応じて、より専門性の高い教科や資格を選択制とすることで対応を図っている。

生活学専攻養護教諭コースおよび食物栄養専攻の学生は、養護教諭二種免許状、栄養士証等の資格取得を目的として入学してくるため履修科目全体にわたって学習意欲が旺盛であるが、教科内容が充分理解できない学生も増加傾向にあり、二極化している。学習意欲の低下が履修態度に反映するので、対策として、教員は分かりやすい授

Ⅱ【教育改善への努力について】

業に心がけ、個別の指導で補う等を実践し、さらに学業への意欲を向上させるために模擬授業等の指導を徹底している。食物栄養専攻では、履修態度や学業への意欲が高い学生には、他の資格取得のための支援を行っている。

就職が決まると履修態度が悪くなる学生や学業不振や健康状態が不良で欠席がちな学生を把握した専任教員は、専攻・コース会議で報告し、対応を検討している。直接的な働きかけとしては、指導担任や専門ゼミ担当の専任教員が学業面、生活面においてきめ細かく指導することで、学業不振や進路変更等での退学者、留年者を減らすことに努力している。専攻・コースの学生の実態に応じて支援をしており、多くの学生は希望資格を取得し卒業している。

【教育改善への努力について】

(1) 学生による授業評価を行っている場合はその概要を記述して下さい。行っていない場合にはその事由等を記述して下さい。

平成 17 年度後期より行っている。平成 18 年度は前期開講科目を対象に行い、平成 19 年度並びに 20 年度は後期開講科目を対象に行った。平成 21 年度は 7 月に行う予定である。

全科目を「スポーツ演習」「講義・外国語科目」「演習・実験・実習」「基礎ゼミ・基礎セミナー」(併設四年制大学と同時に行っているため、本学の基礎演習がこの名称の分類となっている)の 4 分野に分類し、それぞれの分野ごとに 21 のアンケート項目と自由記入欄を設け、卒業研究以外で履修登録 10 人以上の全ての科目で学生による授業評価を行っている。

結果は、科目ごと・上記 4 分野ごと(「スポーツ演習」「講義・外国語科目」「演習・実験・実習」「基礎ゼミ・基礎セミナー」)、教員ごとで集計され、図書館で閲覧できるようにしている。

また、専任教員は、各担当科目の中で 1 科目を選び、集計結果に対する自己所見を作成しており、その科目の集計結果と自己所見を、学内向けホームページで公表している。

(2) 短期大学全体の授業改善(ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動及びSD活動等)への組織的な取組み状況について記述して下さい。また短期大学の責任者(以下「学長等」という)は授業改善の現状について、どのように受け止めているかを記述して下さい。

FD 活動は、併設四年制大学および大学院研究科と合同で開始された。平成 17 年 6 月 8 日第 3 回評議会において FD 委員会を設置し、その構成は、学長・研究科長(2 名)・学部長(3 名)・短期大学部長・教務部長・自己点検評価委員長・事務局長・両キャンパス事務部長(2 名)・学部事務室長(4 名)から構成された。同時に本学においても FD 推進部会が設けられ、その活動を開始した。その後、毎年度 1~2 回開催し、以下の FD 活動を行っている。

全学的に毎年 2 回実施している FD 活動の一つは、学内講師による「FD サロン」である。それは、平成 17 年度後期から本学・併設四年制大学の学部・大学院研究科

Ⅱ【教育改善への努力について】

が順次担当し、昨年度末までに 6 回実施している。第 3 回は本学が担当し、平成 18 年 7 月に春日晃章助教授により『私の考える－楽しい授業、楽しい研究への取り組み』として、授業に対する姿勢・進め方・工夫、さらには研究機関として本学に望まれる今後の FD 活動・問題等が提起された。平成 20 年度（第 7 回）は、『授業評価アンケートと学生の意識及び生活の実態に関する分析評価と今後の改善策について』として、平成 19 年度後期に行った授業評価アンケート集計結果をもとに本学と併設四年制大学 3 学部より専任教員の中で発表者が 1 名出てそれぞれの学部の分析内容の発表を行った。

また、別途毎年 1 回「FD 研修会」を他大学の学長等の学外講師を迎えて実施している。平成 17 年には、池田輝政名城大学副学長、18 年には齋藤諦淳武蔵野大学学長、19 年には高倉翔明海大学学長に大学に必要な FD 活動、私立大学の課題、大学改革などについて講演と懇談が行われた。第 4 回（平成 19 年 3 月）までの「FD サロン」と第 2 回（平成 18 年 3 月）までの「FD 研修会」の内容を『Faculty Development 報告集』に掲載している。

平成 20 年度には、6 名の著名な外部評価員による併設四年制大学を含む運営・教学・財務体制や併設四年制大学 3 学部の教育内容に関する評価報告会が実施された。

本学の FD 推進部会においては、平成 20 年度は、上述の本学と併設四年制大学合同で行った第 7 回 FD サロンの内容のうち、本学分を担当した長野郁也准教授が専任教員と事務職員を対象に発表する活動を 7 月に行った。

さらに、平成 18 年度から平成 20 年度にかけて、FD 委員会が基軸になって、学生の授業評価を授業の改善に役立てる試みとして実施している。

平成 20 年度より教員評価の実施を行っている。平成 21 年度も試行期間として行っているが、対象は専任教員で、自己評価に基づき、短期大学部長と学長が評価を決定する。

SD 活動については事務職員の合同研修会を毎年実施し、さらに担当部門の学外研修にも職員を派遣している。『学校法人聖徳学園教育職員及び事務職員の学外研修に関する規程』に基づき、岐阜県私立短期大学協会によって毎年実施される教務事務担当者・厚生補導研修会やその他の研修会等に積極的に職員が参加するようにしている（SD 活動の詳細については、《Ⅷ管理運営》【事務組織について】(6) p.104 参照）。

学長

FD 活動は、教員の総意を尊重して行っているため、授業の改善状況は遅々としているが、教員の意識改革には十分に役立っている。

学生の授業に対する要望は、学生による授業評価の他に、平成 17 年度から本学と併設四年制大学の学生代表を含めた全学協議会(学生と教職員役職者との意見交換会)が毎年 1 回開催されているが、この会合においても、授業に関する要望が増えてきている。これらは協議会で議された後、学部長や学部の学生委員の専任教員によって持ち帰られ、要望に応えられるように図られている。

平成 17 年から FD 活動が意外に円滑に実施されるようになった事実は、専任教員の教育に対する意識の改善が急速に伸展していることを物語っているように思う。

(3) 担当授業について教員間の意思の疎通や協力体制、または兼任教員との意思の疎通について、学科長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

幼児教育学科長

月1回行われる定例の学科会議および適宜行われる臨時学科会議には、学科に所属する専任教員全員が参加し、教員間の意志疎通を図り、協力体制を維持していくための協議を行っている。その他、担当教科および業務の会議などは随時頻繁に行われており、学科教員間の意志疎通を図ることによって、教育活動に関する協力体制を構築している。

また、毎年1回程度非常勤講師との懇談会を実施し、教育活動に対する意見を交換している。平成20年度は2回の懇談会を開催し、非常勤講師との意志の疎通を図ることができた。

生活学科長

専攻・コースにおいて、それぞれ月1回以上の会議を開催し、教育目標に対応した教育内容、教育環境、学生支援等について討議し、専任教員間の意志疎通を図り、協力体制を構築している。

生活学専攻では、学生支援等に関わるさまざまな日常的な問題について、電子メールを媒体とした専任教員間の意思疎通により、できる限り早い対応を図っている。さらに、生活情報コースの学生を対象とした授業の多くで e-Learning システムを採用しているため、参加専任教員が他の専任教員の授業内容を閲覧することが可能であり、コース内での科目の連携も容易に行える。

食物栄養専攻は、栄養士養成カリキュラムの関連性から、講義内容、実験内容において科目間の必要以上の重複や実験操作での専任教員間の食い違いがないよう確認している。

非常勤講師との意思の疎通については、担当科目依頼時に、教育目的、講義内容を伝え、その後は学生および非常勤講師からの要望がある時点で検討を行い、授業の円滑化を図っている。要望がない非常勤講師については、関連科目との調整や整合性を確認する機会がないため、今後は、専攻・コースの教員と毎年度初めに意志の疎通を図る会議が必要と考える。

【特記事項について】

(1) この「Ⅱ教育の内容」の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、他の教育機関との単位互換制度、習熟度別授業、情報・メディア教育、国際理解教育、海外研修制度、インターンシップ、女子教育の伝統継承と発展への取組み等、学科等において努力していることがあれば記述して下さい。

情報・メディア教育

生活学科生活学専攻生活情報コースにおいて平成17年度より、e-Learningシステムを導入して教育方法の刷新化を図っている。コースの全専任教員は教材の提示、レポート課題の授受、テストの実施、授業評価（アンケート）などの用途にこのシステムを活用している。コース学生全員にノート型パソコンを貸与し、学生はキャンパス内外でこのシステムへアクセスでき、授業の予習・復習に活用している。

Ⅱ【特記事項について】 資料

国際理解教育

この「《Ⅱ教育の内容》」の領域の【教育課程について】(2) p.19」の他に、「《Ⅶ社会的活動》【国際交流・協力への取組みについて】(1) p.87」に記述した。

単位互換制度

岐阜県と県内17大学等からなる大学連合である「ネットワーク大学コンソーシアム岐阜」が形成されている。参加大学等間で「包括的単位互換制度」を設けている。この制度は、参加大学等の学生であれば、各大学等が開講している授業科目の中から希望する科目を履修し、単位を修得すれば、所属する大学の単位として認定されるものである。本学としても、授業を提供している。

受講料免除で、本学学生が他大学等の科目を履修したり、他大学等の学生が本学の提供科目を履修したりできる制度であるが、過去3年間は本学からも他大学等からも受講生がなく、制度利用の活性化を図る必要があると考える。

(2) 特別の事由や事情があり、この「Ⅱ教育の内容」の評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし

〈添付資料〉

1. 学生要覧等、学習等について学生に配布している印刷物
添付資料Ⅰ－5と同じ
2. シラバスあるいは講義要項
添付資料Ⅱ－2：『平成21年度授業計画（SYLLABUS）』

〈参考資料〉

1. 選択科目の履修について記載している印刷物
添付資料Ⅰ－5と同じ
2. 学生による授業評価票
参考資料Ⅱ－2：『授業評価アンケート報告書』平成18年度～20年度・マークシート
3. FD活動の組織（FD委員会等）についての規程
参考資料Ⅱ－3：『岐阜聖徳学園大学・岐阜聖徳学園大学短期大学部 ファカルティ・デベ
ロップメント委員会規程』（学校法人聖徳学園例規集）
4. その他
参考資料Ⅱ－4－1：『保育内容演習要旨集』平成20年度
参考資料Ⅱ－4－2：『Faculty Development 報告集』
参考資料Ⅱ－4－3：『平成21年度単位互換履修生募集ガイド』
ネットワーク大学コンソーシアム岐阜

《Ⅲ 教育の実施体制》

【教員組織について】

(1) 現在の専任教員数を下表を例にして作成して下さい。

専任教員等の人数（平成 21 年 5 月 1 日現在） 図表 10

| 学科・専攻名 | 専任教員数 | | | | | 設置基準で定める教員数 | | 助手 | 〔ハ〕 | 備考 |
|------------|-------|-----|----|----|----|-------------|-------|----|-----|---------|
| | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計 | 〔イ〕 | 〔ロ〕 | | | |
| 幼児教育学科第一部 | 4 | 2 | 3 | 0 | 9 | 8 (3) | — | 1 | 0 | 教育学・保育学 |
| 幼児教育学科第三部 | 1 | 1 | 1 | 0 | 3 | 2 (1) | — | 0 | 0 | 教育学・保育学 |
| 生活学科生活学専攻 | 3 | 2 | 2 | 0 | 7 | 4 (2) | — | 0 | 0 | 家 政 |
| 生活学科食物栄養専攻 | 2 | 2 | 1 | 0 | 5 | 4 (2) | — | 3 | 0 | 家 政 |
| (小計) | 10 | 7 | 7 | 0 | 24 | 18 (8) | — | 4 | 0 | |
| 一般教育教職 | 3 | 2 | 1 | 0 | 6 | — | — | 0 | 0 | |
| (ロ) | | | | | | — | 5 (2) | | | |
| (合計) | 13 | 9 | 8 | 0 | 30 | 18 (8) | 5 (2) | 4 | 0 | |

(2) 短期大学の教員にふさわしい資格と資質の有無については、訪問調査の際に、教員の個人調書（①履歴書、②研究業績書、③担当授業科目名、④その他）を提示していただきます。したがって個人調書をこの報告書に添付する必要はありません。

(3) 教員の採用、昇任が適切に行われている状況を記述して下さい。その際、選考基準等を示した規程等があれば訪問調査の際にご準備をお願いいたします。

教員の採用について

専任教員の採用は、公募方式をとっている。専任教員の採用が必要と認められる科目・職名などの採用条件などについて短期大学部長と当該学科長等とで協議し、学長に報告する。学長は理事長と協議し承認を得られた後、選考の開始を短期大学部長に通知する。その後、教授会において公募内容を決定する。採用候補者については、『教育職員採用候補者選考規程』に基づき、審査教授会において資格審査を行い、適格と判定した採用候補者について、学長に報告する。学長は理事長に申請する。理事長は採用決定し学長に通知する。平成 20 年度、平成 21 年度とも 3 名の専任教員を採用した。

教員の昇格について

昇格の手続きは、『教育職員昇格候補者審査規程』に基づいて行っている。昇格対象者については、「関連教授が資料及び推薦の理由を付して短期大学部長に提出する」ことになっている。昇格候補者の資格審査は、審査教授会が行い、人格、識見、業績および経歴を総合的に勘案して行われる。審査教授会において適格と判断された場合、短期大学部長が学長に報告し、学長はこれを理事長に申請する。理事長は、昇格者を決定し、昇格時期を付記し、学長に通達する。なお、平成 20 年度については、2 名が准教授から教授へ昇格した。平成 21 年度の昇格者はいなかった。

Ⅲ【教員組織について】

(4) 教員の年齢構成について下表を例に現状を記載して下さい。

専任教員等の年齢構成表（短期大学部全体）（平成21年4月1日現在） 図表 11

| 区分 | 年齢ごとの専任教員数（助教以上） | | | | | | | 助手等の平均年齢 | 備考 |
|---------------|------------------|-------|-------|-------|-------|------|------|----------|----|
| | 70以上 | 60～69 | 50～59 | 40～49 | 30～39 | 29以下 | 平均年齢 | | |
| 合計人数 (30人) | 0 | 5 | 12 | 7 | 6 | 0 | 49.2 | 40.3 | |
| 割合 | 0.0% | 16.7% | 40.0% | 23.3% | 20.0% | 0.0% | | | |

【注意】1. 上表の助手等とは、助手に加えて助手以外の者で教育研究活動に直接従事する教職員（副手、補助職員、技術職員等）を含む。

(5) 専任教員は、(a)授業、(b)研究、(c)学生指導、(d)その他教育研究上の業務に対して意欲的に取り組んでいるか、また上記4つの分野の業務取組み状況にはどのような傾向があるかを学長等が記述して下さい。その際、過去3ヶ年（平成18年度～20年度）程度の教員の担当コマ数（担当コマ基準、平均担当コマ数等を含む）、教員の研究業績、教員が参画する学生指導の業務、教員が参画するその他の教育研究上の業務概要を示して下さい。

専任教員平均担当コマ数 図表 12

| 区 分 | 18年度 | | 19年度 | | 20年度 | |
|------------|------|-----|------|-----|------|-----|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 幼児教育学科第一部 | 8.1 | 7.4 | 8.2 | 7.3 | 7.5 | 6.7 |
| 幼児教育学科第三部 | 6.5 | 5.7 | 7.3 | 6.0 | 7.2 | 6.4 |
| 生活学科 | 7.1 | 6.6 | 7.1 | 6.8 | 7.8 | 7.2 |
| 一般教育・教職 | 5.8 | 6.5 | 6.9 | 7.0 | 7.0 | 6.5 |
| 全学 | 7.0 | 6.7 | 7.4 | 6.9 | 7.5 | 6.8 |
| 全学（前・後期平均） | 6.9 | | 7.2 | | 7.2 | |

短期大学部長

授業

専任教員の担当授業時間数は、原則として1週7コマ（14時間）となっている。平成20年度では、短期大学部全体では、7.2コマであり、平成19年度と同様に超過傾向にある。特に、平成20年度は生活学科の持ちコマが増加しており、生活学科の専任教員の負担が一層増している。

専任教員一人ひとり、学生の実情に対応し、よりよい授業を目指すために授業準備に今まで以上に時間をかけ、授業内外での学生指導についてもきめ細かく行っており、そのために割かれる労力と時間は年々増加してきている。また、校務分掌の業務量も増加することと相俟って、専任教員の負担感が増してきているのが現状といえる。

平成14年度から、超過持ちコマ分について「増担当」が支給されるようになったが、担当授業数の適正化について検討を行う必要がある。

研究

研究業績の状況については、「領域《VI研究》の【教員の研究活動全般について】p.78」を参照されたい。専任教員個々は努力をしていると評価したい。授業の準備、

学内の校務分掌や学生指導等で多くの時間と労力を割かれている状況を改善する方策を検討していく必要がある。

学生指導

学生指導については、「領域≪V学生支援≫の【学習支援について】p.64」および「【学生生活支援体制について】p.66」にあるように、専門科目（情報処理関連科目、ピアノ実技等々）の学習に際して、入学までの学習内容にばらつきが見られるため、理解度、習熟度に対応した指導を行うなど、きめ細かな指導を行っている。学生の学習上の問題、悩み等に対しては、指導担任、ゼミ担当専任教員等が指導助言を行っている。学友会活動、課外活動等についても、学生委員会および各部顧問等の教職員が中心となりバックアップを行っている。

その他教育研究上の業務

専任教員は、本学のみならず多忙である。教育・研究活動および学内の校務分掌など多種多様な職務を日々行っている。さらに社会貢献活動等にも積極的に関わっている。（領域≪VI研究≫【教員の研究活動全般について】図表 36 p.78 参照）

(6) 助手、副手、補助職員、技術職員等を十分に、あるいは可能な限り配置しているか、また助手等が教育研究活動等において適切に機能しているかを学長等が現状を記述して下さい。

幼児教育学科第一部・第三部（所属は幼児教育学科第一部）では、助手を1名配置しており、主に音楽関係の授業科目の補助業務を担当している。また、6名（平成21年度は5名）のピアノレッスンを担当する音楽技能指導員（非常勤）との連絡等、および幼児教育学科の科内業務を担当している。

生活学科食物栄養専攻には3名の助手を配置している。この3名については栄養士養成教育を行う上で義務づけられているものである。3名とも管理栄養士資格を有している。食物栄養専攻および生活学科内の業務も担当している。

(7) 2以上の校地（校地が隣接していないものの極めて近接しており、学生に対する日常的な学習相談、進路指導、厚生補導等が支障なく行うことができる体制にある場合など例外的な場合以外）において教育研究を行う場合は、それぞれの校地の専任教員の配置状況について記述して下さい。

Ⅲ【教育環境について】

【教育環境について】

(1) 校舎・校地一覧表を下の表を例に作成して下さい。校舎について、まず設置基準第31条（通信教育学科を置く短期大学の場合は短期大学通信教育設置基準第10条を含む）の規定による短期大学全体の基準面積（基準面積を算出する計算式を含む）を示して下さい。また校舎を法人が設置する他の学校と共用している場合は、他の学校の校舎の基準面積も記載して下さい。さらに校舎の配置図、用途（室名）、専用・共用を示した各階の図面を準備しておいて下さい。なお、主要校舎については訪問調査の際にご案内いただきます。

校舎・校地一覧表（平成21年5月1日） 図表 13

| 区 分 | 収容定員 | 校舎 | | | 校地 | | |
|--------------------------|-------|----------------------|-----------------------|-----------------------|------------------------|-----------------------|-----------------------|
| | | 基準面積 | 現有面積 | 差異 | 基準面積 | 現有面積 | 差異 |
| 岐阜聖徳学園大学 短期大学部 | 590 人 | 5,150 m ² | 7,987 m ² | 2,837 m ² | 5,900 m ² | 0 m ² | -5,900 m ² |
| 併設 岐阜聖徳学園大学 経済情報学部 | 800 人 | 3,801 m ² | 14,921 m ² | 11,120 m ² | 8,000 m ² | 47,496 m ² | 39,496 m ² |
| 計 | | | 22,908 m ² | | | 47,496 m ² | |
| 基準面積計算式 | | 下 記 | | | 収容定員×10 m ² | | |

校舎・校地はともに、併設四年制大学経済情報学部との共用施設であり、共用施設は主たる併設四年制大学経済情報学部の現有面積に含めている。

岐阜聖徳学園大学短期大学部

幼児教育学科第一部（教育学・保育学関係）、収容定員：200 人

幼児教育学科第三部（教育学・保育学関係）、収容定員：150 人

基準校舎面積（「短期大学設置基準」別表第二イより算出）350 人まで 3,100 m²
生活学科（家政関係）、収容定員：240 人

基準校舎面積（「短期大学設置基準」別表第二ロより算出）300 人まで 2,050 m²
・ ・ 合計校舎基準面積：5,150 m²

岐阜聖徳学園大学

併設四年制大学教育学部（教育学・保育学関係）、収容定員：1,200 人

基準校舎面積（「大学設置基準」第37条の2の規定により、複数学部を置く大学に該当することから、別表第三イより算出）

801 人以上の場合の面積 $(1,200 - 800) \text{ 人} \times 1,322 \div 400 + 4,958 = 6,280 \text{ m}^2$

併設四年制大学外国語学部（文学関係）、収容定員：600 人

基準校舎面積（「大学設置基準」別表第三ハより算出）

600 人までの面積 2,975 m²

併設四年制大学経済情報学部（経済学関係）、収容定員：800 人

基準校舎面積（「大学設置基準」別表第三ハより算出）

800 人までの面積 3,801 m²

(2) 校地・校舎について、他の学校等との共有部分がある場合は、教育研究上の支障が生じないように、どのような措置をとっているかについても記述して下さい。

本学と併設四年制大学のうち同じキャンパスの経済情報学部との共用部分があるが、校舎の教室については、実技館・1号館・2号館を本学専用としている。体育実技（ス

ポーツ演習) で使用する体育館は合同で使用しているが、毎年授業時間割を作成する段階で、調整を図っている。

補講等では、3号館・4号館の教室を使用する場合もあるが、短期大学部事務室と併設四年制大学経済情報学部事務室が連携を取り支障が生じないように調整を行っている。

(3) 教育研究に使用する情報機器を設置するパソコン室、マルチメディア室、学内 LAN、LL 教室及び学生自習室の整備状況(機種、台数等を含む)について記述して下さい。またその使用状況(使用頻度等)についても記述して下さい。なお、2以上の校地において教育研究を行う場合においては、校地ごとに記述して下さい。

コンピュータ教室の一覧を表に示した。

コンピュータ教室一覧表 図表 14

| 名 称 | 設 置 情 報 機 器 | 台数 |
|------------|-----------------------------------|----|
| 第1コンピュータ教室 | デスクトップパソコン FMV-D5260 (富士通) | 1 |
| | モノクロレーザプリンタ DocuPrint 405 (ゼロックス) | 1 |
| | イメージスキャナ CanoScanLiDE 90 (Canon) | 1 |
| | LAN 接続用情報コンセント | 40 |
| | 画面転送システム | 1 |
| | DVD プレーヤ DMR-XP22V-K (Panasonic) | 1 |
| 第2コンピュータ教室 | デスクトップパソコン FMV-D5260 (富士通) | 63 |
| | モノクロレーザプリンタ DocuPrint 405 (ゼロックス) | 2 |
| | イメージスキャナ CanoScanLiDE 90 (Canon) | 1 |
| | DVD プレーヤ DMR-XP22V-K (Panasonic) | 1 |
| | 書画カメラ P30S (エルモ) | 1 |
| | 画面転送システム | 1 |
| 第3コンピュータ教室 | デスクトップパソコン FMV-D5260 (富士通) | 49 |
| | モノクロレーザプリンタ DocuPrint 405 (ゼロックス) | 2 |
| | イメージスキャナ CanoScanLiDE 90 (Canon) | 1 |
| | DVD プレーヤ DMR-XP22V-K (Panasonic) | 1 |
| | 書画カメラ P30S (エルモ) | 1 |
| | 画面転送システム | 1 |

表のうち、第1コンピュータ教室は後述する貸与ノートパソコンの利用を前提とした演習室であるため、指導用のパソコン1台のみ設置している。

第1コンピュータ教室

生活学科生活学専攻生活情報コースの学生が授業において使用している。所属する学生に対しては、図表15に示すノートパソコンを入学時から卒業時まで貸与し、コンピュータを使用する同コースの授業は全て第1コンピュータ教室で実施している。平成21年度前期の授業の使用率は52%である。

第2コンピュータ教室

主に共通科目である「情報処理」および「情報処理演習Ⅰ」において使用している。また、DVD・ビデオ閲覧を伴う授業、更に各種検定試験の実施会場としても使用している。平成21年度前期の授業の使用率は48%である。

Ⅲ【教育環境について】

第3 コンピュータ教室

主に学生自習室として開放しており、開室時間に希望する学生が利用できるようになっている。また、公開講座、オープンキャンパス等の学外向けセミナーの実施会場としても使用している。

無料貸与パソコン

生活学科生活学専攻生活情報コースの学生に、下記パソコンを各人に1台貸与している。他の学科・専攻・コースの学生にも1週間を限度として、ノートパソコンを無料で貸し出している。

貸与ノートパソコン一覧 図表 15

| ノートパソコン機種名 | 台数 | 貸与対象者 |
|------------|----|-------|
| FMV-B8210 | 11 | 2年生 |
| FMV-B8260 | 19 | 2年生 |
| FMV-B8370 | 40 | 1年生 |
| FMV-B8210 | 9 | その他 |
| FMV-B8260 | 1 | その他 |

学内LAN について

有線・無線の各LANを有している。有線LANは100Mbpsの帯域幅を持つものであり、各コンピュータ教室のパソコンが有線LANで接続されている(第1コンピュータ教室には40本のLANケーブルが机上に設置され、ノートパソコンを接続できるようになっている)。

無線LANは802.11bの規格に準拠した11Mbpsの帯域幅を持つものであり、各フロアにアクセスポイントが設置されていて、学内のどの場所でもインターネット接続を行うことができる。

(4) 授業用の機器・備品の整備状況及び整備システム(管理の状況、整備計画等を含む)について、その概要を記述して下さい。2以上の校地において教育研究を行う場合においては、校地として記述して下さい。なお機器・備品の整備状況については訪問調査の際に校舎等をご案内いただく際にご説明いただきます。

授業用の機器・備品の整備状況表を表に示した。

授業用の機器・備品の整備状況表 図表 16

| 教室 | 収容定員 | マイク | プロジェクタ | モニター | ビデオ | DVD | OHP | OHC | スクリーン | パソコン | LAN配線 | その他 |
|----------------|------|-----|--------|------|-----|-----|-----|-----|-------|------|-------|-----------|
| 230 講義室 | 130 | ○ | | ○ | ○ | | | | ○ | | | |
| 231 講義室 | 72 | ○ | ○ | | ○ | | | | ○ | | | |
| 232 講義室 | 136 | ○ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 244 講義室 | 130 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| 245 講義室 | 72 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| 246 講義室 | 136 | ○ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 252 第3コンピュータ教室 | 48 | ○ | | | | ○ | | | | ○ | ○ | プリンタ・スキャナ |

Ⅲ【教育環境について】

| 教室 | | 収容定員 | マイク | プロジェクタ | モニター | ビデオ | DVD | OHP | OHC | スクリーン | パソコン | LAN配線 | その他 |
|-----|------------|------|-----|--------|------|-----|-----|-----|-----|-------|------|-------|------------------------------------|
| 253 | 第1コンピュータ教室 | 40 | ○ | | | | ○ | | | | ○ | ○ | プリンタ・スキャナ・画像転送システム |
| 254 | 第2コンピュータ教室 | 62 | ○ | | | | ○ | | | | ○ | ○ | プリンタ・スキャナ・書画カメラ・電子ホワイトボード・画像転送システム |
| 264 | 講義室 | 45 | | | ○ | ○ | | | | ○ | | | |
| 265 | 講義室 | 130 | ○ | ○ | | ○ | | | | ○ | | | |
| 266 | 講義室 | 72 | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | | | |

ピアノ

020 第1音楽教室, 021 第2音楽教室, 011 第3音楽教室, ピアノレッスン室7室, ピアノ練習室15室

人形劇ステージ

010 児童文化実習室

ベッド

111 看護学実習室

調理器具

120 第1調理学実習室, 121 食品加工学実習室, 集団給食実習館

貸与パソコン

生活学科生活学専攻・生活情報コース学生70台

短期大学部事務室で管理し、貸出可能な機器・備品

貸与パソコン10台、携帯プロジェクター1台、携帯DVDプレーヤ2台、DVD・ビデオプレーヤ1台、携帯CD・MDラジカセ1台

整備計画

プロジェクター

平成19年度は244・265の2講義室、平成20年度は245・266の2講義室に設置した。平成21年度は、1台を230講義室に設置する計画である。

パソコン

平成20年度は、第2コンピュータ教室(254)のパソコンをリース期限終了に伴い、買い取りで入れ替えを行った。

生活学科生活学専攻生活情報コースの学生への貸与ノートパソコンについて、平成21年度入学生分(43台)を買い取りで新調した。

情報機器、ソフトウェアの設置計画、設置起案、運用ルールの策定等を協議・実施する委員会として情報教育・管理運営委員会を設置している。また、機器トラブルやプリンタ用紙・トナー等の消耗品の交換・補給、貸与パソコンの貸与等の運用業務を短期大学部事務室および情報システム室が対応している。情報機器の管理保守は専門業者に委託しているが、タイムラグがあるので情報システム室に兼務事務職員を配置し緊急の対応をしている。

(5) 校地・校舎の安全性、障害者への対応、運動場、体育館、学生の休息場所等について記述して下さい。訪問調査の際にご案内いただき、ご説明願います。

校舎は、耐震補強工事を平成19年度に1号館、平成20年度に講堂兼体育館、また建物整備で最後に残っていた集団給食実習館を平成20年度に改築したことにより全ての建物が耐震基準を満たした。

障がい者への対応として、点字表示、点字ブロック、2号館に自動扉、障がい者ト

Ⅲ【図書館・学習資源センター等について】

エレ、エレベータ 2 基を設置している。また、2 号館と 1 号館は各階渡り廊下でつながっており、車いすでの移動も可能である。ただし、音楽実技館（2 階建て）と講堂兼体育館（平屋建て）におけるスロープ等の設置に至っていない。

運動場は 24,889 m²・体育館兼講堂は 1,804 m²が共用であり、スポーツ演習の授業の外クラブ活動に利用している。学生の休息場所として屋内では 2 号館 1 階ロビー、学生会館 2 階ホールにテーブルと椅子、ソファを置き、屋外の中庭にはベンチが設置してある。また、学生会館のテラスにはベンチのほか自動飲料販売機を設置してある。

【図書館・学習資源センター等（以下「図書館等」という。）について】

(1) 図書館等の概要について、全体の配置図、座席数、年間図書館予算、購入図書等選定システム、図書等廃棄システム、司書数、情報化の進捗状況等を含めて記述して下さい。なお図書館等には訪問調査の際にご案内いただきます。

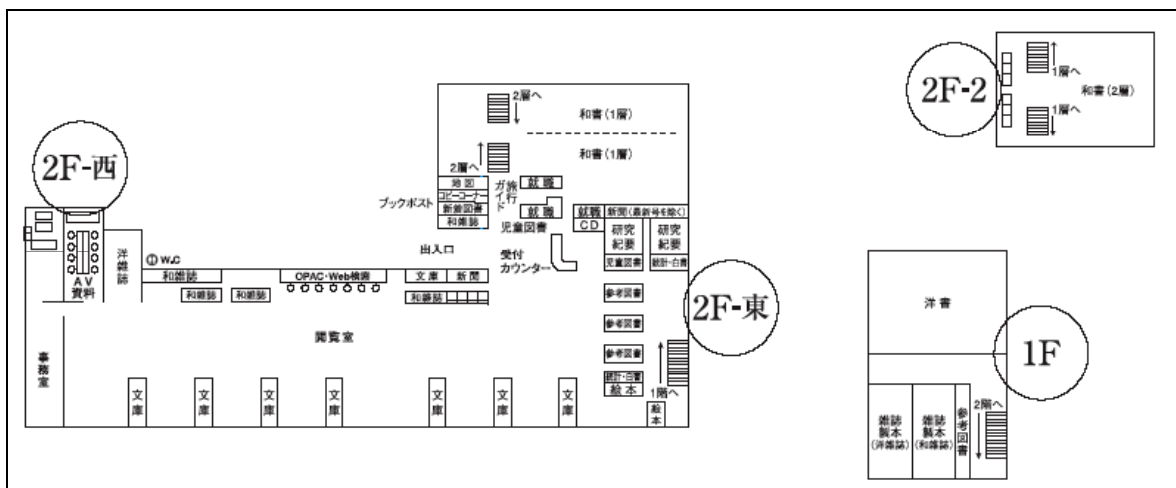
図書館の配置等

岐阜キャンパス図書館は、併設四年制大学経済情報学部との共用であり、サービス、蔵書、施設、設備、運営等について大学と一体的な運営を行っている。図書館の総面積は 1,088 m²で、専有している 4 号館 2 階部分に閲覧室、情報検索コーナー、視聴覚室、事務室等 960 m²を有するとともに、1 階に書庫 128 m²を有している。

座席数は 176 席あり、岐阜キャンパスの学生収容定員 1,419 名（短期大学部 590 名、経済情報学部 800 名、大学院生 29 名）に対する割合は 12.4%となっている。1 日平均入館者が 82 名であることを考慮すれば十分な余裕があると考えられる。したがって現在のところ座席数についての問題は認められない。平成 20 年度末現在の蔵書数は 127,411 冊であり、図書収容可能冊数は 132,639 冊となっている。また平成 20 年度の図書受入冊数は 4,158 冊であり、今後、蔵書数の増加が見込まれるため、図書収容能力の向上について検討が必要であるが、予算との関連もあり実現に至っていない。

また、館内の視聴覚室には、ビデオ、LD、DVD、CD、カセット等を整備し、個人あるいはグループで利用できるようにしている。

岐阜キャンパス図書館配置図 図表 17



年間図書予算

岐阜キャンパス図書館の年間図書予算額を表に示す。平成 20 年度の予算は、平成 18 年度と比較して約 38 万円減額している。

平成 20 年度図書予算 図表 18

| | 図書費 | 雑誌費 | 合計 |
|----------|-----------|-----------|-----------|
| 平成 18 年度 | 6,100,000 | 2,900,000 | 9,000,000 |
| 平成 19 年度 | 5,800,000 | 2,900,000 | 8,700,000 |
| 平成 20 年度 | 5,800,000 | 2,813,397 | 8,613,397 |

単位：円

限られた予算内での図書の重点的選定などにより、予算減額のマイナス面を補っていきたい。

購入図書等選定システム

図書等の選定システムについては、大別すると、①専任教員推薦②学科推薦③学生からのリクエスト④図書館選定の 4 つの方法に分類される。①専任教員推薦については、年 2 回学生用図書を専任教員推薦という形式で募集している。専任教員 1 人につき年間で 10 万円という金額が割り当てられている。②学科推薦については、年 1 回 30 万円を限度として学科選定図書を学科推薦という形式で募集している。③学生からのリクエストについては、リクエスト用紙で希望を取る形式で募集している。④図書館選定については、参考図書、継続図書、専門以外の基本図書、話題の図書等を図書館で選定して購入している。いずれの選定方法についても重複チェック後購入している。購入図書等選定システムについては円滑に進んでいる。

図書等廃棄システム

図書等の廃棄については、『図書調達管理規程』に基づいて行われている。蔵書点検後、3 年間不明な図書、破損の著しい図書、資料価値を失った図書については除籍する。学術雑誌については製本し、永久保存している。また、娯楽雑誌は 2 年間保存し、リサイクルしている。

司書数

図書館職員は 5 名おり、内訳については、羽島キャンパス図書館と兼務が 1 名、専任職員 1 名、嘱託職員 1 名、派遣職員が 2 名である。そのうち、司書は 4 名である。

情報化の進捗状況等

平成 10 年 5 月に図書システムを導入した。その結果、蔵書検索、閲覧管理、蔵書管理、目録登録等が運用可能となった。平成 16 年 9 月にシステムの更新を行った。なお、OPAC 端末は合計 7 台設置されている。資料検索については、CiNii (サイニイ)、朝日新聞データベース聞蔵 (きくぞう) II、MAGAZINE PLUS、日経テレコン 21 等が利用可能である。情報公開については、平成 10 年度よりホームページを公開し、蔵書検索、開館日の公開、短期大学部関連サイトへのリンク (家政学・医療・福祉・健康・栄養分野) を行っている。なお、携帯電話からも蔵書検索が可能である。また、平成 20 年 6 月より文献複写、現物貸借に関する料金の相殺サービスに加入している。

Ⅲ【図書館・学習資源センター等について】

(2) 図書館等に備えられている蔵書数（和書、洋書、学術雑誌数、AV資料数等）を下表を例に作成して下さい。

平成 20 年度の蔵書冊数、雑誌数および AV 資料数を表に示した。平成 20 年度末現在の蔵書数は 127,411 冊であり、その内訳は和書 110,717 冊、洋書 16,694 冊である。また、平成 20 年度現在購読している雑誌種は 278 種であり、そのうち和雑誌は 213 種、洋雑誌は 65 種である。なお、短期大学部についての蔵書数は、90,436 冊（和書・洋書）である。この他にも他大学および他短期大学等の紀要やすでに購読を中止した学術雑誌のバックナンバーも所蔵している。平成 20 年度の AV 資料数は 3,432 点である。図書、雑誌および AV 資料については、その他に併設大学所蔵分についても利用が可能である。

また、蔵書数 127,411 冊を学生収容定員 590 名で割ると一人当たり約 216 冊となり、量的整備という側面からは蔵書数は十分に満たされている。

図書館蔵書数（平成 21 年 5 月 31 日現在） 図表 19

| 区分 | 和書 | 洋書 | 学術雑誌 | AV 資料 |
|------|-----------|----------|-------|---------|
| 冊（種） | 110,717 冊 | 16,694 冊 | 278 種 | 3,432 点 |

図書館蔵書数のうち短期大学部の蔵書数（平成 21 年 5 月 31 日現在） 図表 20

| 区分 | 和書 | 洋書 | 学術雑誌 | AV 資料 |
|------|----------|---------|-------|---------|
| 冊（種） | 81,347 冊 | 9,089 冊 | 138 種 | 2,996 点 |

(3) 図書館等には学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書等は整備されているか。

また学生の図書館等の利用は活発かを、図書館等の責任者（図書館長等）が現状をどのように捉えているかを記述して下さい。

授業に関連する参考図書を充実させるため、専任教員選定と学科選定の枠を儲けている。これらで購入した図書は下記表の通りであり、幼児教育および生活学に関する図書・資料は充実し、学生の要望に充分対応できる状況である。図書館所蔵資料のみならず、特に幼児教育学科第一部・第三部の実習に関わる図書および資料（絵本、紙芝居）は実習指導室においても充実しており、学生が自由に閲覧でき、紙芝居においては実習等で使用できるよう貸出等も行っている。

教員選定図書（平成 19 年度～20 年度） 図表 21

| | 選定額（円） | 冊数（冊） |
|----------|-----------|-------|
| 平成 19 年度 | 1,023,779 | 276 |
| 平成 20 年度 | 1,401,392 | 333 |

学科選定図書（平成 19 年度～20 年度） 図表 22

| | 選定額（円） | 冊数（冊） |
|----------|---------|-------|
| 平成 19 年度 | 255,000 | 81 |
| 平成 20 年度 | 791,115 | 62 |

学生用の一般図書は、学生からのリクエスト用紙をカウンターに備えて、要望を受け入れている。平成 20 年度の受付件数は 26 冊（40,945 円）であった。また、図書館としては、学生が興味を持ちそうな話題の図書や専任教員・学科選定で取り上げられない分野の図書を中心に整備している。

本図書館は、前述したごとく、併設四年制大学経済情報学部と共同利用しているので、本学学生のみ利用状況は把握できないが、平成 19・20 年度の図書館利用は下

記表の通りである。

図書館利用状況（平成19年度～20年度） 図表 23

| | 開館日数（日） | 入館者数（人） | 貸出冊数（冊） |
|--------|---------|---------|---------|
| 平成19年度 | 262 | 22,906 | 5,558 |
| 平成20年度 | 252 | 20,693 | 6,726 |

学生の図書館利用を活発にするため、新入生に利用講習会を、ゼミに対しては文献検索方法の講習会を開催し、携帯できるサイズの開館予定表を2か月ごとに作成し、配付している。また、専任教員が授業時やレポート課題・課題研究で参考文献を紹介し、実習の教材研究でも、図書館の利用を促している。また、余暇には図書館に足を運び、開架図書を閲覧、読書習慣をつけるよう勧めているが、図書館の親しみある雰囲気作り、新刊や話題本の展示コーナーの工夫など、更なる図書館の努力も必要であろう。

(4) 図書館等からの学内外への情報発信、他の図書館等との連携等、現在の図書館活動について図書館長等がどのように受け止めているかを記述して下さい。

学内外への情報発信は、岐阜キャンパス図書館のホームページから行っている。蔵書検索などはこのページから行うことができる。利用者向けサービスとして「書籍リクエスト」「レポート、論文の書き方」などの欄を設けている。平成18年4月から卒業生に対する遠隔利用サービスとして、「図書の郵送貸し出し」と「郵送による文献複写サービス」を始めた。貸し出し期間は1か月、貸し出し冊数は一人5冊までである。図書館の一般公開も行っている。

他の図書館等との連携は、私立大学図書館協会、東海地区大学図書館協議会、岐阜県図書館協会、岐阜県大学図書館協議会に加盟し、近隣大学図書館との交流には積極的に参加している。

また、国立情報学研究所の目録・所蔵情報総合目録データベース構築事業に参画している。継続的事业である文献複写、現物貸借の相互協力の利用は下表の通りである。なお、平成20年6月より、文献複写・現物貸借に関する料金のILL相殺サービスに加入したので、利用がよりスムーズに運ぶようになった。

相互協力業務一覧表（平成19年度～20年度） 図表 24

| | 文献複写 | | 図書貸借 | |
|--------|------|------|------|-----|
| | 依頼 | 156件 | 借受 | 5冊 |
| 平成19年度 | 受付 | 38件 | 貸出 | 3冊 |
| | 依頼 | 121件 | 借受 | 14冊 |
| 平成20年度 | 受付 | 284件 | 貸出 | 11冊 |

本図書館のみでは蔵書や情報に限界があるので、前述（【図書館・学習資源センター等について】(1) 情報化の進捗状況等）した以外にも、さらなる情報システムの導入に努め、学内外と情報の交流ができるようにし、図書館の充実を図るべきだと考える。

Ⅲ【特記事項について】 資料

【特記事項について】

(1) この《Ⅲ教育の実施体制》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば外国人教員の採用、授業の公開、学習評価活動等、努力していることがあれば記述して下さい。

授業科目「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」および「国際交流」を担当する教員として、外国人一名が専任教員（教授）として所属している。

(2) 特別の事由や事情があり、この《Ⅲ教育の実施体制》の評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし

〈参考資料〉

1. 教員の個人調書（①履歴書、②研究業績書、③担当授業科目等、④その他）

参考資料Ⅲ－1：教員個人調書

2. 教員選考基準を示した規程等

参考資料Ⅲ－2－1：『岐阜聖徳学園大学・岐阜聖徳学園大学短期大学部 教育職員採用候補者 選考規程』（学校法人聖徳学園例規集）

参考資料Ⅲ－2－2：『岐阜聖徳学園大学・岐阜聖徳学園大学短期大学部 教育職員昇格候補者審査規程』（学校法人聖徳学園例規集）

3. 校舎、校地に関する図面（全体図、校舎等の位置を示す配置図、用途（室名）を示した各階の図面、校地間の距離、校地間の交通手段等）

参考資料Ⅲ－3：校舎、校地に関する図面

4. 図書館等の規程

参考資料Ⅲ－4－1：『図書館規程』（学校法人聖徳学園例規集）

参考資料Ⅲ－4－2：『図書館利用規程』（学校法人聖徳学園例規集）

参考資料Ⅲ－4－3：『図書文献複写規程』（学校法人聖徳学園例規集）

参考資料Ⅲ－4－4：『図書調達管理規程』（学校法人聖徳学園例規集）

5. その他

参考資料Ⅲ－5－1：『図書館利用のご案内』

参考資料Ⅲ－5－2：『平成14年6月13日付け聖徳本第106号 学長宛文書「専任教育職員の授業責任担当コマ数の超過担当コマに係わる手当の支給及び大学院担当手当について（お願い）」』

《IV 教育目標の達成度と教育の効果》

【単位認定について】

(1) 次の「単位認定の状況表」を例に、単位認定の方法と評価の実態を記載して下さい。なお、この表は平成20年度卒業生が入学時より卒業までに履修した科目について作成して下さい。

単位認定の状況表の項目「主な単位認定の方法」において、評価が受講態度・小テスト・学期末試験等による複数の評価基準に基づく場合は、「総合評価」と記載とした。レポートのみを単位認定方法としている科目の評価内容は、「講義内容の理解度を50%、自分の見解を論理的に表明する能力を50%とする」などである。

項目「履修人員」以下が「-」の表示は非開講科目である。項目「履修人員」は「0」で、「主な単位の認定方法」以下が「-」の表示の科目は、履修人員0人の科目である。

成績の最終評価の基準は、秀が100～90点、優が89点～80点、良が79点～70点、可が69点～60点、不可が59点以下となっている。なお、学期末試験の受験資格は①当該授業科目の履修登録していること、②授業への出席が3分の2以上であること、③学納金を納付していることである。

正規の試験を病気や事故などのやむを得ない理由により受験できなかったときは、願い出て追試験を受けることができる。追試験の成績評価は通常の成績評価と同じとする。学期末試験を受験して、基準に達せず不合格となった科目については、担当教員が認める場合に限り再試験を受けることができ、この際の成績評価は最高で可評価としている。

また、平成19年度入学生から評価状態の基準としてGPA(Grade Point Average)制度を導入している。これは、評価をグレードポイント(秀=4、優=3、良=2、可=1、不可=0、失格=0)に置き換え、単位数を掛け、対象科目の合計単位数で割った1単位あたりの平均点で、入学時から卒業までの成績を客観的にモニターできる方法である。

幼児教育学科第三部の平成20年度卒業生は、平成18年度入学でGPA制度の対象前であり、評価も「秀」はない(優=100～80点)。

単位認定の状況表 (平成20年度卒業生) 図表 25

幼児教育学科第一部の単位認定の状況表

(平成20年度卒業生)

| 種別 | 授業科目名 | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 % | | | 最終評価 % | | | | |
|----------------|----------|------|------|-----------|----------|------|-------|--------|-------|------|-----|------|
| | | | | | 本試 | 再試等 | 計 | 秀 | 優 | 良 | 可 | 不可 |
| 一般 教育 科目 | 宗教学 | 講義 | 102 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 81.4 | 13.7 | 3.9 | 1.0 | 0.0 |
| | 英語 I | 演習 | 101 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 37.6 | 56.4 | 5.0 | 1.0 | 0.0 |
| | スポーツ健康学 | 講義 | 102 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 86.3 | 11.8 | 1.9 | 0.0 | 0.0 |
| | スポーツ演習 | 実技 | 101 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 55.5 | 37.6 | 5.9 | 1.0 | 0.0 |
| | 情報処理 | 講義 | 102 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 21.6 | 72.5 | 4.9 | 1.0 | 0.0 |
| | 日本国憲法 | 講義 | 101 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 27.7 | 57.4 | 13.9 | 1.0 | 0.0 |
| | 国際交流 | 演習 | 2 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 50.0 | 50.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 英語 II | 演習 | 1 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | フランス語 I | 演習 | 6 | 学期末試験 | 66.7 | 0.0 | 66.7 | 0.0 | 33.4 | 33.3 | 0.0 | 33.3 |
| | フランス語 II | 演習 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 中国語 I | 演習 | 20 | 総合評価 | 95.0 | 0.0 | 95.0 | 25.0 | 40.0 | 15.0 | 15.0 | 5.0 | |

IV【単位認定について】

| 種別 | 授業科目名 | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 % | | | 最終評価 % | | | | | | |
|--------------|--------|----------------|--------|-----------|----------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|------|------|-----|
| | | | | | 本試 | 再試等 | 計 | 秀 | 優 | 良 | 可 | 不可 | | |
| 一般教育科目 | 共通科目 | 中国語Ⅱ | 演習 | 5 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 60.0 | 20.0 | 20.0 | 0.0 | 0.0 | |
| | | 情報処理演習Ⅰ | 演習 | 9 | 総合評価 | 77.8 | 0.0 | 77.8 | 33.3 | 44.5 | 0.0 | 0.0 | 22.2 | |
| | | 情報処理演習Ⅱ | 演習 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | 教養科目 | | 哲学 | 講義 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | | 文学 | 講義 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | | 心理学 | 講義 | 102 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 78.4 | 20.6 | 1.0 | 0.0 | 0.0 |
| | | | 経済学 | 講義 | 20 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 95.0 | 5.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | | | 仏教の生命観 | 講義 | 76 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 88.2 | 10.5 | 1.3 | 0.0 | 0.0 |
| | | | 現代社会論 | 講義 | 6 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | | | 数学 | 講義 | 26 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 38.5 | 30.8 | 19.2 | 11.5 | 0.0 |
| | | | 自然科学概論 | 講義 | 5 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 40.0 | 60.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | | | 生命科学 | 講義 | 71 | 総合評価 | 88.7 | 9.9 | 98.6 | 2.8 | 16.9 | 46.5 | 32.4 | 1.4 |
| | | | 人文学特論 | 講義 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 社会科学特論 | 講義 | 1 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | | |
| | 自然科学特論 | 講義 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | | |
| 専門科目 | 教養科目 | 基礎音楽 | 演習 | 102 | 総合評価 | 92.2 | 7.8 | 100.0 | 4.9 | 10.8 | 58.8 | 25.5 | 0.0 | |
| | | 基礎美術 | 演習 | 102 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 44.1 | 36.3 | 19.6 | 0.0 | 0.0 | |
| | | 基礎体育 | 演習 | 102 | 総合評価 | 99.0 | 1.0 | 100.0 | 1.0 | 37.3 | 48.0 | 13.7 | 0.0 | |
| | | 国語 | 講義 | 102 | レポート | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 8.8 | 33.3 | 57.9 | 0.0 | 0.0 | |
| | | 児童文化 | 演習 | 102 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 74.5 | 20.6 | 2.9 | 2.0 | 0.0 | |
| | | 小児保健Ⅰ | 講義 | 102 | 総合評価 | 85.3 | 14.7 | 100.0 | 19.6 | 20.6 | 23.5 | 36.3 | 0.0 | |
| | | 小児保健Ⅱ | 講義 | 31 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 51.6 | 19.4 | 12.9 | 16.1 | 0.0 | |
| | | 小児保健実習 | 実習 | 98 | 総合評価 | 92.9 | 7.1 | 100.0 | 9.2 | 23.5 | 36.7 | 30.6 | 0.0 | |
| | | 小児栄養 | 演習 | 102 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 20.6 | 40.2 | 21.6 | 17.6 | 0.0 | |
| | | 社会福祉 | 講義 | 102 | 総合評価 | 83.3 | 16.7 | 100.0 | 2.0 | 12.7 | 52.0 | 33.3 | 0.0 | |
| | | 社会福祉援助技術 | 演習 | 98 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 45.9 | 44.9 | 9.2 | 0.0 | 0.0 | |
| | | 児童福祉 | 講義 | 102 | 総合評価 | 90.2 | 9.8 | 100.0 | 7.9 | 18.6 | 40.2 | 33.3 | 0.0 | |
| | | 保育原理 | 講義 | 102 | 総合評価 | 90.2 | 9.8 | 100.0 | 12.7 | 15.7 | 27.5 | 44.1 | 0.0 | |
| | | 養護原理Ⅰ | 講義 | 102 | 総合評価 | 91.2 | 8.8 | 100.0 | 14.7 | 32.3 | 25.5 | 27.5 | 0.0 | |
| | | 養護原理Ⅱ | 講義 | 37 | 総合評価 | 94.6 | 0.0 | 94.6 | 21.6 | 67.6 | 2.7 | 2.7 | 5.4 | |
| | | 養護内容 | 演習 | 99 | 総合評価 | 99.0 | 0.0 | 99.0 | 4.0 | 15.2 | 73.7 | 6.1 | 1.0 | |
| | | 乳児保育 | 演習 | 98 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 2.0 | 20.4 | 56.1 | 21.5 | 0.0 | |
| | | 臨床心理学 | 演習 | 5 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | |
| | | 精神保健 | 講義 | 102 | 学期末試験 | 99.0 | 1.0 | 100.0 | 2.0 | 11.8 | 38.2 | 48.0 | 0.0 | |
| | 家族援助論 | 講義 | 98 | 総合評価 | 85.7 | 14.3 | 100.0 | 1.0 | 24.5 | 38.8 | 35.7 | 0.0 | | |
| | 障害児保育 | 演習 | 98 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 16.3 | 40.8 | 30.6 | 12.3 | 0.0 | | |
| | 関する科目 | 基礎演習 | 演習 | 102 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 50.0 | 42.1 | 6.9 | 1.0 | 0.0 | |
| | | 保育内容演習 | 演習 | 102 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 52.9 | 31.4 | 11.8 | 3.9 | 0.0 | |
| | | 保育内容特論Ⅰ | 講義 | 4 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | |
| | | 保育内容特論Ⅱ | 講義 | 11 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | |
| | | 保育内容特論Ⅲ | 講義 | 2 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | |
| | | 福祉特論 | 講義 | 28 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 85.7 | 14.3 | 0.0 | 0.0 | |
| | | 保育実習Ⅰ(保育所) | 実習 | 102 | 総合評価 | 99.0 | 0.0 | 99.0 | 0.0 | 20.6 | 76.5 | 1.9 | 1.0 | |
| | | 保育実習Ⅰ(児童福祉施設等) | 実習 | 100 | 総合評価 | 97.0 | 0.0 | 97.0 | 24.0 | 29.0 | 44.0 | 0.0 | 3.0 | |
| | | 保育実習Ⅰ(事前・事後指導) | 演習 | 97 | 総合評価 | 99.0 | 0.0 | 99.0 | 69.1 | 19.6 | 4.1 | 6.2 | 1.0 | |
| | | 保育実習Ⅱ(保育所) | 実習 | 91 | 総合評価 | 94.5 | 0.0 | 94.5 | 1.1 | 19.8 | 69.2 | 4.4 | 5.5 | |
| | | 保育実習Ⅲ(児童福祉施設) | 実習 | 13 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 30.8 | 69.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | |
| | | 教職に関する科目 | 保育者論 | 講義 | 102 | 総合評価 | 97.1 | 2.9 | 100.0 | 5.9 | 23.5 | 42.2 | 28.4 | 0.0 |
| 教育学概論 | | | 講義 | 102 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 21.6 | 37.2 | 24.5 | 16.7 | 0.0 | |
| 発達・学習心理学 | | | 講義 | 102 | 総合評価 | 91.2 | 8.8 | 100.0 | 8.8 | 17.6 | 37.3 | 36.3 | 0.0 | |
| 教育心理学 | 講義 | | 99 | 総合評価 | 99.0 | 0.0 | 99.0 | 9.1 | 38.4 | 47.5 | 4.0 | 1.0 | | |
| 青年心理学 | 講義 | | 7 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 28.6 | 57.1 | 14.3 | 0.0 | 0.0 | | |
| 教育方法論 | 講義 | | 102 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 97.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 0.0 | | |
| 教育相談 | 講義 | | 102 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 32.4 | 54.9 | 12.7 | 0.0 | 0.0 | | |
| 教育課程論 | 講義 | | 102 | 総合評価 | 97.1 | 2.9 | 100.0 | 9.8 | 20.6 | 40.2 | 29.4 | 0.0 | | |
| 保育内容総論 | 演習 | | 102 | 総合評価 | 95.1 | 4.9 | 100.0 | 29.4 | 33.3 | 15.7 | 21.6 | 0.0 | | |
| 保育内容研究(健康) | 演習 | | 102 | 総合評価 | 99.0 | 1.0 | 100.0 | 7.9 | 23.5 | 39.2 | 29.4 | 0.0 | | |
| 保育内容研究(人間関係) | 演習 | 102 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 15.7 | 50.0 | 24.5 | 9.8 | 0.0 | | | |

IV【単位認定について】

| 種別 | 授業科目名 | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 % | | | 最終評価 % | | | | |
|--------------------|---------------|------|------|-----------|----------|-----|-------|--------|-------|------|------|-----|
| | | | | | 本試 | 再試等 | 計 | 秀 | 優 | 良 | 可 | 不可 |
| 専門科目に 関する 科目 | 保育内容研究(環境) | 演習 | 102 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 10.8 | 29.4 | 51.0 | 8.8 | 0.0 |
| | 保育内容研究(言葉) | 演習 | 102 | 学期末試験 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 23.5 | 12.8 | 63.7 | 0.0 | 0.0 |
| | 保育内容研究(音楽表現Ⅰ) | 演習 | 102 | 総合評価 | 90.2 | 9.8 | 100.0 | 5.9 | 13.7 | 47.1 | 33.3 | 0.0 |
| | 保育内容研究(音楽表現Ⅱ) | 演習 | 75 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 16.0 | 12.0 | 66.7 | 5.3 | 0.0 |
| | 保育内容研究(美術表現Ⅰ) | 演習 | 102 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 60.8 | 36.3 | 2.9 | 0.0 | 0.0 |
| | 保育内容研究(美術表現Ⅱ) | 演習 | 7 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 85.7 | 14.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 総合表現 | 演習 | 12 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 総合演習 | 演習 | 102 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 21.6 | 59.8 | 18.6 | 0.0 | 0.0 |
| | 教育実習指導 | 演習 | 102 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 53.9 | 41.2 | 4.9 | 0.0 |
| | 教育実習Ⅰ | 実習 | 102 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 5.9 | 27.4 | 51.0 | 15.7 | 0.0 |
| | 教育実習Ⅱ | 実習 | 101 | 総合評価 | 97.0 | 0.0 | 97.0 | 9.9 | 37.6 | 49.5 | 0.0 | 3.0 |

幼児教育学科第三部の単位認定の状況表

(平成20年度卒業生)

| 種別 | 授業科目名 | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 % | | | 最終評価 % | | | | |
|--------------------------------|----------|------|------|-----------|----------|-------|-------|--------|-------|------|-------|-----|
| | | | | | 本試 | 再試等 | 計 | 秀 | 優 | 良 | 可 | 不可 |
| 一般 科目 | 宗教学 | 講義 | 48 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 95.8 | 4.2 | 0.0 | 0.0 |
| | 英語Ⅰ | 演習 | 48 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 56.3 | 33.3 | 10.4 | 0.0 |
| | スポーツ健康学 | 講義 | 49 | 総合評価 | 79.6 | 20.4 | 100.0 | 0.0 | 57.1 | 14.3 | 28.6 | 0.0 |
| | スポーツ演習 | 実技 | 49 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 77.6 | 16.3 | 6.1 | 0.0 |
| | 情報処理 | 講義 | 48 | 総合評価 | 97.9 | 0.0 | 97.9 | 0.0 | 81.3 | 8.3 | 8.3 | 2.1 |
| | 日本国憲法 | 講義 | 49 | 総合評価 | 98.0 | 2.0 | 100.0 | 0.0 | 83.7 | 10.2 | 6.1 | 0.0 |
| | 国際交流 | 演習 | 6 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 英語Ⅱ | 演習 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | フランス語Ⅰ | 演習 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | フランス語Ⅱ | 演習 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 中国語Ⅰ | 演習 | 2 | 総合評価 | 50.0 | 50.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 |
| | 中国語Ⅱ | 演習 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 情報処理演習Ⅰ | 演習 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 情報処理演習Ⅱ | 演習 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 哲学 | 講義 | 48 | レポート | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 35.4 | 52.1 | 12.5 | 0.0 |
| | 文学 | 講義 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 心理学 | 講義 | 4 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 経済学 | 講義 | 26 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 38.5 | 53.8 | 7.7 | 0.0 |
| | 仏教の生命観 | 講義 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 現代社会論 | 講義 | 22 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 86.4 | 13.6 | 0.0 | 0.0 |
| 数学 | 講義 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| 自然科学概論 | 講義 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| 生命科学 | 講義 | 49 | 総合評価 | 95.9 | 4.1 | 100.0 | 0.0 | 38.8 | 46.9 | 14.3 | 0.0 | |
| 人文学特論 | 講義 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| 社会科学特論 | 講義 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| 自然科学特論 | 講義 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| 専門 科目 に 関 する 科目 | 基礎音楽 | 演習 | 49 | 総合評価 | 93.9 | 6.1 | 100.0 | 0.0 | 22.4 | 63.3 | 14.3 | 0.0 |
| | 音楽演習 | 演習 | 34 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 85.3 | 11.8 | 2.9 | 0.0 |
| | 基礎美術 | 演習 | 49 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 44.9 | 32.7 | 22.4 | 0.0 |
| | 基礎体育 | 演習 | 49 | 総合評価 | 95.9 | 4.1 | 100.0 | 0.0 | 26.5 | 24.5 | 49.0 | 0.0 |
| | 国語 | 講義 | 49 | レポート | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 30.6 | 69.4 | 0.0 | 0.0 |
| | 児童文化 | 演習 | 49 | 総合評価 | 87.8 | 12.2 | 100.0 | 0.0 | 30.6 | 32.7 | 36.7 | 0.0 |
| | 小児保健Ⅰ | 講義 | 49 | 総合評価 | 79.6 | 20.4 | 100.0 | 0.0 | 28.6 | 18.4 | 53.0 | 0.0 |
| | 小児保健Ⅱ | 講義 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 小児保健実習 | 実習 | 49 | 総合評価 | 79.6 | 20.4 | 100.0 | 0.0 | 22.5 | 26.5 | 51.0 | 0.0 |
| | 小児栄養 | 演習 | 49 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 38.8 | 44.9 | 16.3 | 0.0 |
| | 社会福祉 | 講義 | 49 | 総合評価 | 79.6 | 20.4 | 100.0 | 0.0 | 26.5 | 28.6 | 44.9 | 0.0 |
| | 社会福祉援助技術 | 演習 | 49 | 総合評価 | 98.0 | 0.0 | 98.0 | 0.0 | 51.0 | 36.7 | 10.2 | 2.0 |
| | 児童福祉 | 講義 | 49 | 総合評価 | 81.6 | 18.4 | 100.0 | 0.0 | 22.4 | 38.8 | 38.8 | 0.0 |
| | 保育原理 | 講義 | 49 | 総合評価 | 91.9 | 8.2 | 100.0 | 0.0 | 2.0 | 18.4 | 79.6 | 0.0 |
| | 養護原理Ⅰ | 講義 | 49 | 総合評価 | 93.9 | 6.1 | 100.0 | 0.0 | 77.6 | 2.0 | 20.4 | 0.0 |

IV【単位認定について】

| 種別 | 授業科目名 | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 % | | | 最終評価 % | | | | |
|----------------------------------|----------------|------|------|-----------|----------|-------|-------|--------|-------|------|------|------|
| | | | | | 本試 | 再試等 | 計 | 秀 | 優 | 良 | 可 | 不可 |
| 専 門 に 関 する 科 目 | 養護原理Ⅱ | 講義 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 養護内容 | 演習 | 49 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 32.7 | 55.1 | 12.2 | 0.0 |
| | 乳児保育 | 演習 | 49 | 総合評価 | 91.9 | 6.1 | 98.0 | 0.0 | 32.7 | 30.6 | 34.7 | 2.0 |
| | 臨床心理学 | 演習 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 精神保健 | 講義 | 49 | 学期末試験 | 93.9 | 6.1 | 100.0 | 0.0 | 6.1 | 16.3 | 77.6 | 0.0 |
| | 家族援助論 | 講義 | 49 | 総合評価 | 75.5 | 24.5 | 100.0 | 0.0 | 26.5 | 30.6 | 42.9 | 0.0 |
| | 障害児保育 | 演習 | 48 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 39.6 | 27.1 | 33.3 | 0.0 |
| | 基礎演習 | 演習 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 保育内容演習 | 演習 | 6 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 保育内容特論Ⅰ | 講義 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 保育内容特論Ⅱ | 講義 | 13 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 76.9 | 23.1 | 0.0 | 0.0 |
| | 保育内容特論Ⅲ | 講義 | 10 | 総合評価 | 90.0 | 0.0 | 90.0 | 0.0 | 80.0 | 10.0 | 0.0 | 10.0 |
| | 福祉特論 | 講義 | 4 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 保育実習Ⅰ(保育所) | 実習 | 49 | 総合評価 | 98.0 | 0.0 | 98.0 | 0.0 | 24.5 | 53.1 | 20.4 | 2.0 |
| | 保育実習Ⅰ(児童福祉施設等) | 実習 | 49 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 30.6 | 65.3 | 4.1 | 0.0 |
| | 保育実習Ⅰ(事前・事後指導) | 演習 | 49 | 総合評価 | 89.8 | 8.2 | 100.0 | 0.0 | 63.3 | 20.4 | 14.3 | 2.0 |
| | 保育実習Ⅱ(保育所) | 実習 | 29 | 総合評価 | 93.1 | 0.0 | 93.1 | 0.0 | 20.7 | 65.5 | 6.9 | 6.9 |
| | 保育実習Ⅲ(児童福祉施設) | 実習 | 21 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 19.1 | 71.4 | 9.5 | 0.0 |
| | 保育者論 | 講義 | 49 | 総合評価 | 83.7 | 16.3 | 100.0 | 0.0 | 6.1 | 36.7 | 57.2 | 0.0 |
| | 教育学概論 | 講義 | 49 | 総合評価 | 89.8 | 10.2 | 100.0 | 0.0 | 73.5 | 4.1 | 22.4 | 0.0 |
| | 発達・学習心理学 | 講義 | 49 | 総合評価 | 95.9 | 4.1 | 100.0 | 0.0 | 49.0 | 28.6 | 22.4 | 0.0 |
| | 教育心理学 | 講義 | 49 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 77.6 | 16.3 | 6.1 | 0.0 |
| | 青年心理学 | 講義 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 教育方法論 | 講義 | 49 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 87.8 | 10.2 | 2.0 | 0.0 |
| | 教育相談 | 講義 | 49 | 総合評価 | 93.9 | 6.1 | 100.0 | 0.0 | 79.6 | 14.3 | 6.1 | 0.0 |
| | 教育課程論 | 講義 | 49 | 総合評価 | 81.6 | 18.4 | 100.0 | 0.0 | 30.6 | 26.5 | 42.9 | 0.0 |
| | 保育内容総論 | 演習 | 49 | 総合評価 | 87.8 | 12.2 | 100.0 | 0.0 | 40.8 | 30.6 | 28.6 | 0.0 |
| | 保育内容研究(健康) | 演習 | 49 | 総合評価 | 91.8 | 8.2 | 100.0 | 0.0 | 75.5 | 16.3 | 8.2 | 0.0 |
| | 保育内容研究(人間関係) | 演習 | 49 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 71.4 | 14.3 | 14.3 | 0.0 |
| | 保育内容研究(環境) | 演習 | 49 | 総合評価 | 77.6 | 22.4 | 100.0 | 0.0 | 12.2 | 18.4 | 69.4 | 0.0 |
| | 保育内容研究(言葉) | 演習 | 49 | 学期末試験 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 20.4 | 79.6 | 0.0 | 0.0 |
| | 保育内容研究(音楽表現Ⅰ) | 演習 | 49 | 総合評価 | 75.5 | 24.5 | 100.0 | 0.0 | 24.5 | 46.9 | 28.6 | 0.0 |
| | 保育内容研究(音楽表現Ⅱ) | 演習 | 37 | 総合評価 | 97.3 | 0.0 | 97.3 | 0.0 | 56.8 | 35.1 | 5.4 | 2.7 |
| 保育内容研究(美術表現Ⅰ) | 演習 | 49 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 59.2 | 32.6 | 8.2 | 0.0 | |
| 保育内容研究(美術表現Ⅱ) | 演習 | 15 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 73.3 | 26.7 | 0.0 | 0.0 | |
| 総合表現 | 演習 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| 総合演習 | 演習 | 49 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 63.3 | 32.6 | 4.1 | 0.0 | |
| 教育実習指導 | 演習 | 49 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 40.8 | 18.4 | 40.8 | 0.0 | |
| 教育実習Ⅰ | 実習 | 49 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 40.8 | 53.1 | 6.1 | 0.0 | |
| 教育実習Ⅱ | 実習 | 48 | 総合評価 | 97.9 | 0.0 | 97.9 | 0.0 | 33.3 | 33.3 | 31.3 | 2.1 | |

生活学科（生活学専攻・生活情報コース）の単位認定の状況表 (平成20年度卒業生)

| 種別 | 授業科目名 | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 % | | | 最終評価 % | | | | |
|----------------------------|---------|------|------|-----------|----------|-----|-------|--------|------|------|------|------|
| | | | | | 本試 | 再試等 | 計 | 秀 | 優 | 良 | 可 | 不可 |
| 一 般 教 育 科 目 | 宗教学 | 講義 | 23 | 総合評価 | 95.7 | 4.3 | 100.0 | 43.5 | 34.8 | 13.0 | 8.7 | 0.0 |
| | 英語Ⅰ | 演習 | 23 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 17.4 | 73.9 | 8.7 | 0.0 | 0.0 |
| | スポーツ健康学 | 講義 | 23 | 総合評価 | 95.7 | 4.3 | 100.0 | 60.9 | 30.4 | 4.4 | 4.3 | 0.0 |
| | スポーツ演習 | 実技 | 23 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 47.8 | 13.1 | 26.1 | 13.0 | 0.0 |
| | 情報処理 | 講義 | 23 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 47.8 | 26.1 | 13.1 | 13.0 | 0.0 |
| | 日本国憲法 | 講義 | 6 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 16.7 | 50.0 | 33.3 | 0.0 | 0.0 |
| | 国際交流 | 演習 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 英語Ⅱ | 演習 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | フランス語Ⅰ | 演習 | 10 | 学期末試験 | 90.0 | 0.0 | 90.0 | 0.0 | 30.0 | 40.0 | 20.0 | 10.0 |
| | フランス語Ⅱ | 演習 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 中国語Ⅰ | 演習 | 11 | 総合評価 | 63.6 | 0.0 | 63.6 | 9.1 | 27.2 | 27.3 | 0.0 | 36.4 |
| | 中国語Ⅱ | 演習 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |

IV【単位認定について】

| 種別 | 授業科目名 | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 % | | | 最終評価 % | | | | | | |
|-----------|--------------|---------|---------|-----------|----------|-------|-------|--------|------|-------|------|------|------|---|
| | | | | | 本試 | 再試等 | 計 | 秀 | 優 | 良 | 可 | 不可 | | |
| 一般教育科目 | 共通科目 | 情報処理演習Ⅰ | 演習 | 23 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 47.8 | 26.1 | 26.1 | 0.0 | 0.0 | |
| | | 情報処理演習Ⅱ | 演習 | 23 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 34.8 | 39.1 | 21.7 | 4.4 | 0.0 | |
| | 教養科目 | 哲学 | 講義 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | 文学 | 講義 | 1 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | |
| | | 心理学 | 講義 | 9 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 11.1 | 11.1 | 66.7 | 11.1 | 0.0 | |
| | | 経済学 | 講義 | 20 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 55.0 | 30.0 | 5.0 | 10.0 | 0.0 | |
| | | 仏教の生命観 | 講義 | 3 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 33.4 | 33.3 | 33.3 | 0.0 | |
| | | 現代社会論 | 講義 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | 数学 | 講義 | 5 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 60.0 | 0.0 | 40.0 | 0.0 | 0.0 | |
| | | 自然科学概論 | 講義 | 5 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 80.0 | 20.0 | 0.0 | 0.0 | |
| | | 生命科学 | 講義 | 13 | 総合評価 | 92.3 | 7.7 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 46.2 | 53.8 | 0.0 | |
| | | 人文学特論 | 講義 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | 社会科学特論 | 講義 | 6 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 16.7 | 83.3 | 0.0 | 0.0 | |
| | | 自然科学特論 | 講義 | 13 | 総合評価 | 61.6 | 0.0 | 61.6 | 15.4 | 15.4 | 30.8 | 0.0 | 38.4 | |
| 専門科目 | 教養科目 | 生活経営論 | 講義 | 23 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 73.9 | 17.4 | 4.4 | 4.3 | 0.0 | |
| | | 生活環境論 | 講義 | 23 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 13.0 | 43.5 | 39.1 | 4.4 | 0.0 | |
| | | 衣生活論Ⅰ | 講義 | 23 | 総合評価 | 87.0 | 13.0 | 100.0 | 17.4 | 21.8 | 30.4 | 30.4 | 0.0 | |
| | | 食生活論Ⅰ | 講義 | 23 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 13.1 | 26.1 | 30.4 | 30.4 | 0.0 | |
| | | 住生活論 | 講義 | 23 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 13.1 | 30.4 | 39.1 | 17.4 | 0.0 | |
| | | 家族関係論 | 講義 | 23 | 総合評価 | 78.3 | 21.7 | 100.0 | 43.5 | 13.1 | 13.0 | 30.4 | 0.0 | |
| | | 生活保障論 | 講義 | 23 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 39.1 | 39.1 | 21.8 | 0.0 | |
| | | 生活と福祉 | 講義 | 23 | 総合評価 | 95.7 | 4.3 | 100.0 | 26.1 | 47.8 | 8.7 | 17.4 | 0.0 | |
| | | 健康生活論 | 講義 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | 生活文化論 | 講義 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | 生活社会論 | 講義 | 4 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 75.0 | 0.0 | 0.0 | 25.0 | 0.0 | |
| | | 児童学 | 講義 | 22 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 86.4 | 9.1 | 4.5 | 0.0 | 0.0 | |
| | | 関する科目 | 衣生活論Ⅱ | 講義 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | | | 衣生活造形演習 | 演習 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 食生活論Ⅱ | | 講義 | 16 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 12.5 | 31.2 | 37.5 | 18.8 | 0.0 | |
| | 調理学及び実習 | | 演習 | 23 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 26.1 | 30.4 | 39.1 | 4.4 | 0.0 | |
| | コンピュータ概論 | | 講義 | 23 | 総合評価 | 78.3 | 21.7 | 100.0 | 17.4 | 26.1 | 21.7 | 34.8 | 0.0 | |
| | プログラミング論 | | 講義 | 23 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 52.2 | 30.4 | 8.7 | 8.7 | 0.0 | |
| | プログラミングⅠ | | 演習 | 23 | 総合評価 | 91.3 | 8.7 | 100.0 | 56.5 | 0.0 | 26.1 | 17.4 | 0.0 | |
| | プログラミングⅡ | | 演習 | 17 | 総合評価 | 76.5 | 0.0 | 76.5 | 5.9 | 23.5 | 41.2 | 5.9 | 23.5 | |
| | システム設計 | | 講義 | 17 | 総合評価 | 94.1 | 0.0 | 94.1 | 23.5 | 17.7 | 29.4 | 23.5 | 5.9 | |
| | データベース論 | | 講義 | 4 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 75.0 | 0.0 | 25.0 | 0.0 | 0.0 | |
| | ビジネス社会入門 | | 講義 | 23 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 39.1 | 52.2 | 8.7 | 0.0 | 0.0 | |
| | 生活調査 | | 講義 | 23 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 52.2 | 30.4 | 17.4 | 0.0 | 0.0 | |
| | 生活情報論 | | 講義 | 23 | 総合評価 | 95.7 | 4.3 | 100.0 | 17.4 | 43.5 | 26.1 | 13.0 | 0.0 | |
| | 情報社会論 | | 講義 | 23 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 43.5 | 56.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | |
| | プレゼンテーション論 | | 講義 | 23 | 総合評価 | 91.3 | 8.7 | 100.0 | 0.0 | 39.1 | 21.8 | 39.1 | 0.0 | |
| | プレゼンテーション演習 | | 演習 | 23 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 43.5 | 13.0 | 8.7 | 34.8 | 0.0 | |
| | ウェブデザインⅠ | | 講義 | 23 | 総合評価 | 87.0 | 13.0 | 100.0 | 8.7 | 34.8 | 21.7 | 34.8 | 0.0 | |
| | ウェブデザインⅡ | | 演習 | 23 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 13.1 | 56.5 | 21.7 | 8.7 | 0.0 | |
| | ウェブデザイン演習 | | 演習 | 11 | 総合評価 | 90.9 | 0.0 | 90.9 | 45.4 | 45.5 | 0.0 | 0.0 | 9.1 | |
| | ウェブプログラミング演習 | | 演習 | 13 | 総合評価 | 92.3 | 0.0 | 92.3 | 23.1 | 46.1 | 15.4 | 7.7 | 7.7 | |
| | マルチメディア演習 | 演習 | 18 | 総合評価 | 88.9 | 0.0 | 88.9 | 38.9 | 5.6 | 33.3 | 11.1 | 11.1 | | |
| | デザイン論 | 講義 | 20 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 45.0 | 10.0 | 20.0 | 25.0 | 0.0 | | |
| 基礎演習 | 演習 | 23 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 30.4 | 43.5 | 17.4 | 8.7 | 0.0 | | | |
| 生活情報演習 | 演習 | 23 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 4.4 | 56.5 | 34.8 | 4.3 | 0.0 | | | |
| 生活情報専門研究Ⅰ | 演習 | 23 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 65.2 | 26.1 | 8.7 | 0.0 | 0.0 | | | |
| 生活情報専門研究Ⅱ | 演習 | 23 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 52.2 | 17.4 | 30.4 | 0.0 | 0.0 | | | |

IV【単位認定について】

生活学科（生活学専攻・養護教諭コース）の単位認定の状況表 (平成20年度卒業生)

| 種別 | 授業科目名 | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 % | | | 最終評価 % | | | | |
|-----------|-----------|------|------|-----------|----------|-------|-------|--------|-------|------|------|-------|
| | | | | | 本試 | 再試等 | 計 | 秀 | 優 | 良 | 可 | 不可 |
| 一般教目育科 | 宗教学 | 講義 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 71.4 | 17.1 | 8.6 | 2.9 | 0.0 |
| | 英語 I | 演習 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 40.0 | 31.4 | 22.9 | 5.7 | 0.0 |
| | スポーツ健康学 | 講義 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 71.4 | 17.1 | 8.6 | 2.9 | 0.0 |
| | スポーツ演習 | 実技 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 25.7 | 28.6 | 37.1 | 8.6 | 0.0 |
| | 情報処理 | 講義 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 20.0 | 57.2 | 17.1 | 5.7 | 0.0 |
| | 日本国憲法 | 講義 | 35 | 総合評価 | 82.9 | 17.1 | 100.0 | 17.1 | 25.7 | 34.3 | 22.9 | 0.0 |
| | 国際交流 | 演習 | 4 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 英語 II | 演習 | 1 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | フランス語 I | 演習 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | フランス語 II | 演習 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 中国語 I | 演習 | 1 | 総合評価 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 |
| | 中国語 II | 演習 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 情報処理演習 I | 演習 | 17 | 総合評価 | 94.1 | 0.0 | 94.1 | 47.0 | 47.1 | 0.0 | 0.0 | 5.9 |
| | 情報処理演習 II | 演習 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 哲学 | 講義 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 文学 | 講義 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 心理学 | 講義 | 19 | 総合評価 | 94.7 | 5.3 | 100.0 | 78.9 | 15.8 | 0.0 | 5.3 | 0.0 |
| | 経済学 | 講義 | 8 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 75.0 | 25.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 仏教の生命観 | 講義 | 8 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 25.0 | 25.0 | 50.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 現代社会論 | 講義 | 19 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 10.5 | 31.6 | 42.1 | 15.8 | 0.0 |
| | 数学 | 講義 | 12 | 総合評価 | 91.7 | 0.0 | 91.7 | 41.8 | 33.3 | 8.3 | 8.3 | 8.3 |
| | 自然科学概論 | 講義 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 生命科学 | 講義 | 23 | 総合評価 | 87.0 | 13.0 | 100.0 | 0.0 | 13.0 | 47.8 | 34.8 | 4.4 |
| 人文学特論 | 講義 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| 社会科学特論 | 講義 | 8 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 75.0 | 25.0 | 0.0 | 0.0 | |
| 自然科学特論 | 講義 | 16 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 25.0 | 50.0 | 25.0 | 0.0 | 0.0 | |
| 専門科目に関する目 | 生活経営論 | 講義 | 35 | 総合評価 | 97.1 | 0.0 | 97.1 | 77.1 | 17.1 | 2.9 | 0.0 | 2.9 |
| | 生活環境論 | 講義 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 80.0 | 14.3 | 5.7 | 0.0 |
| | 衣生活論 I | 講義 | 35 | 総合評価 | 94.3 | 5.7 | 100.0 | 28.6 | 17.1 | 22.9 | 31.4 | 0.0 |
| | 食生活論 I | 講義 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 60.0 | 11.4 | 11.4 | 17.2 | 0.0 |
| | 住生活論 | 講義 | 35 | 総合評価 | 91.4 | 8.6 | 100.0 | 5.7 | 45.7 | 22.9 | 25.7 | 0.0 |
| | 生活情報論 | 講義 | 31 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 3.2 | 32.3 | 51.6 | 12.9 | 0.0 |
| | 児童学 | 講義 | 18 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 83.3 | 16.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 食生活論 II | 講義 | 12 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 解剖生理学 | 講義 | 35 | 学期末試験 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 88.6 | 11.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 衛生学 | 講義 | 35 | 総合評価 | 94.3 | 5.7 | 100.0 | 20.0 | 42.8 | 28.6 | 8.6 | 0.0 |
| | 公衆衛生学 | 講義 | 35 | 総合評価 | 88.6 | 11.4 | 100.0 | 14.3 | 31.4 | 42.9 | 11.4 | 0.0 |
| | 環境保健学 | 講義 | 32 | 総合評価 | 78.1 | 15.6 | 93.7 | 28.1 | 34.4 | 15.6 | 15.6 | 6.3 |
| | 微生物学 | 講義 | 35 | 総合評価 | 82.9 | 17.1 | 100.0 | 2.9 | 17.1 | 17.1 | 62.9 | 0.0 |
| | 免疫学 | 講義 | 35 | 総合評価 | 77.1 | 22.9 | 100.0 | 25.7 | 25.7 | 22.9 | 25.7 | 0.0 |
| | 精神保健 | 講義 | 35 | 学期末試験 | 94.3 | 5.7 | 100.0 | 11.4 | 22.8 | 22.9 | 42.9 | 0.0 |
| | 小児保健 | 講義 | 29 | 総合評価 | 96.6 | 0.0 | 96.6 | 34.5 | 13.8 | 27.6 | 20.7 | 3.4 |
| | 看護学 I | 講義 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 22.9 | 37.1 | 25.7 | 14.3 | 0.0 |
| | 看護学 II | 講義 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 40.0 | 42.9 | 11.4 | 5.7 | 0.0 |
| | 看護学実習 I | 実習 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 14.3 | 71.4 | 11.4 | 2.9 | 0.0 |
| | 看護学実習 II | 実習 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 42.9 | 40.0 | 11.4 | 5.7 | 0.0 |
| | 看護学臨床実習指導 | 演習 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 65.7 | 31.4 | 2.9 | 0.0 | 0.0 |
| | 看護学臨床実習 | 実習 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 20.0 | 25.7 | 37.2 | 17.1 | 0.0 |
| | 救急処置 | 演習 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 25.7 | 60.0 | 14.3 | 0.0 | 0.0 |
| | 医学概論 | 講義 | 35 | 総合評価 | 68.6 | 31.4 | 100.0 | 31.4 | 17.2 | 11.4 | 40.0 | 0.0 |
| | 歯科衛生学 | 講義 | 35 | 総合評価 | 88.6 | 11.4 | 100.0 | 45.7 | 25.7 | 8.6 | 20.0 | 0.0 |
| | 社会福祉論 | 講義 | 27 | 総合評価 | 96.3 | 0.0 | 96.3 | 18.5 | 37.1 | 29.6 | 11.1 | 3.7 |
| | 障害者福祉論 | 講義 | 14 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 42.9 | 28.5 | 14.3 | 14.3 | 0.0 |
| | 養護問題演習 | 演習 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 65.7 | 28.6 | 2.8 | 2.9 | 0.0 |
| | 基礎演習 | 演習 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 40.0 | 42.9 | 17.1 | 0.0 | 0.0 |

IV【単位認定について】

| 種別 | 授業科目名 | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 % | | | 最終評価 % | | | | | |
|----------|-------|----------|------|-----------|----------|-------|------|--------|------|------|------|------|-----|
| | | | | | 本試 | 再試等 | 計 | 秀 | 優 | 良 | 可 | 不可 | |
| 専門科目 | 自由科目 | 学校保健 | 講義 | 35 | 学期末試験 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 42.9 | 17.1 | 20.0 | 20.0 | 0.0 |
| | | 学校保健実習 | 実習 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 60.0 | 37.1 | 2.9 | 0.0 |
| | | 養護概説 | 講義 | 35 | 学期末試験 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 31.4 | 34.3 | 28.6 | 5.7 | 0.0 |
| | | 健康相談活動 | 講義 | 35 | 学期末試験 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 25.7 | 51.4 | 22.9 | 0.0 | 0.0 |
| | | 健康相談活動演習 | 演習 | 7 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 85.7 | 14.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 教職に関する科目 | 教職 | 教職概論 | 講義 | 35 | 総合評価 | 88.6 | 11.4 | 100.0 | 22.8 | 45.7 | 8.6 | 22.9 | 0.0 |
| | | 教育学概論 | 講義 | 35 | 総合評価 | 97.1 | 2.9 | 100.0 | 31.4 | 20.0 | 20.0 | 28.6 | 0.0 |
| | | 発達・学習心理学 | 講義 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 65.7 | 31.4 | 2.9 | 0.0 | 0.0 |
| | | 保健科教育法 | 講義 | 7 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 28.6 | 28.6 | 42.8 | 0.0 | 0.0 |
| | | 教育方法論 | 講義 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 34.3 | 62.8 | 0.0 | 2.9 | 0.0 |
| | | 道徳教育研究 | 講義 | 7 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 57.1 | 42.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | | 特別活動 | 講義 | 7 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 57.1 | 42.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | | 生徒指導論 | 講義 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 17.1 | 54.3 | 28.6 | 0.0 | 0.0 |
| | | 教育相談 | 講義 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 22.8 | 62.9 | 14.3 | 0.0 | 0.0 |
| | | 総合演習 | 演習 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 40.0 | 54.3 | 2.8 | 2.9 | 0.0 |
| | | 養護実習指導 | 演習 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 62.9 | 37.1 | 0.0 | 0.0 |
| | | 養護実習 | 実習 | 35 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 8.6 | 62.8 | 28.6 | 0.0 | 0.0 |
| | | 教育実習指導 | 演習 | 7 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 28.6 | 57.1 | 14.3 | 0.0 | 0.0 |
| | | 教育実習 | 実習 | 7 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 28.6 | 42.8 | 14.3 | 14.3 | 0.0 |

生活学科（食物栄養専攻）の単位認定の状況表

(平成20年度卒業生)

| 種別 | 授業科目名 | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 % | | | 最終評価 % | | | | | |
|--------|-----------|---------|------|-----------|----------|-------|-------|--------|-------|-------|------|------|------|
| | | | | | 本試 | 再試等 | 計 | 秀 | 優 | 良 | 可 | 不可 | |
| 一般科目 | 教養科目 | 宗教学 | 講義 | 45 | 総合評価 | 97.8 | 2.2 | 100.0 | 80.0 | 11.1 | 6.7 | 2.2 | 0.0 |
| | | 英語Ⅰ | 演習 | 45 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 42.2 | 28.9 | 28.9 | 0.0 |
| | | スポーツ健康学 | 講義 | 45 | 総合評価 | 97.8 | 2.2 | 100.0 | 51.1 | 33.3 | 8.9 | 6.7 | 0.0 |
| | | スポーツ演習 | 実技 | 45 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 35.6 | 42.2 | 20.0 | 2.2 | 0.0 |
| | | 情報処理 | 講義 | 45 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 28.9 | 48.9 | 17.8 | 4.4 | 0.0 |
| | | 日本国憲法 | 講義 | 38 | 総合評価 | 92.1 | 7.9 | 100.0 | 5.3 | 42.1 | 28.9 | 23.7 | 0.0 |
| | | 国際交流 | 演習 | 0 | 総合評価 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | | 英語Ⅱ | 演習 | 1 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | | フランス語Ⅰ | 演習 | 7 | 学期末試験 | 71.4 | 0.0 | 71.4 | 14.3 | 0.0 | 14.3 | 42.8 | 28.6 |
| | | フランス語Ⅱ | 演習 | 1 | 学期末試験 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | | 中国語Ⅰ | 演習 | 19 | 総合評価 | 68.4 | 0.0 | 68.4 | 26.3 | 21.0 | 5.3 | 15.8 | 31.6 |
| | | 中国語Ⅱ | 演習 | 8 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 62.5 | 12.5 | 25.0 | 0.0 | 0.0 |
| | | 情報処理演習Ⅰ | 演習 | 6 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 50.0 | 50.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | | 情報処理演習Ⅱ | 演習 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | | 哲学 | 講義 | 2 | レポート | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | | 文学 | 講義 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | | 心理学 | 講義 | 7 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 71.4 | 14.3 | 0.0 | 14.3 | 0.0 |
| | | 経済学 | 講義 | 11 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 72.7 | 18.2 | 9.1 | 0.0 | 0.0 |
| | | 仏教の生命観 | 講義 | 9 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 22.2 | 33.4 | 33.3 | 11.1 | 0.0 |
| | | 現代社会論 | 講義 | 25 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 32.0 | 52.0 | 16.0 | 0.0 |
| 数学 | 講義 | 3 | 総合評価 | 66.7 | 0.0 | 66.7 | 0.0 | 0.0 | 33.4 | 33.3 | 33.3 | | |
| 自然科学概論 | 講義 | 1 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | | |
| 生命科学 | 講義 | 40 | 総合評価 | 90.0 | 10.0 | 100.0 | 2.5 | 35.0 | 37.5 | 25.0 | 0.0 | | |
| 人文学特論 | 講義 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | | |
| 社会科学特論 | 講義 | 12 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 75.0 | 25.0 | 0.0 | 0.0 | | |
| 自然科学特論 | 講義 | 31 | 総合評価 | 96.8 | 3.2 | 100.0 | 25.8 | 51.6 | 12.9 | 9.7 | 0.0 | | |
| 専門科目 | 教科に関与する科目 | 衣生活論Ⅰ | 講義 | 45 | 総合評価 | 95.6 | 4.4 | 100.0 | 37.8 | 35.6 | 13.3 | 13.3 | 0.0 |
| | | 住生活論 | 講義 | 45 | 総合評価 | 95.6 | 4.4 | 100.0 | 6.7 | 33.3 | 40.0 | 20.0 | 0.0 |
| | | 生活環境論 | 講義 | 45 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 17.8 | 17.8 | 37.8 | 26.6 | 0.0 |
| | | 生活経営論 | 講義 | 45 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 33.3 | 37.8 | 20.0 | 8.9 | 0.0 |
| | | 家族関係論 | 講義 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |

IV 【単位認定について】

| 種別 | 授業科目名 | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 % | | | 最終評価 % | | | | |
|------------|-----------|------|------|-----------|----------|-------|-------|--------|------|------|------|------|
| | | | | | 本試 | 再試等 | 計 | 秀 | 優 | 良 | 可 | 不可 |
| 専門科目に関する科目 | 児童学 | 講義 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 公衆衛生学 | 講義 | 45 | 総合評価 | 51.1 | 48.9 | 100.0 | 2.2 | 44.5 | 0.0 | 53.3 | 0.0 |
| | 社会福祉概論 | 講義 | 45 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 40.0 | 51.1 | 8.9 | 0.0 | 0.0 |
| | 解剖学 | 講義 | 45 | 学期末試験 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 57.8 | 42.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 生化学 | 講義 | 45 | 総合評価 | 66.7 | 33.3 | 100.0 | 4.5 | 20.0 | 24.4 | 51.1 | 0.0 |
| | 生理学 | 講義 | 45 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 55.6 | 17.8 | 24.4 | 2.2 | 0.0 |
| | 生理・生化学実験 | 実験 | 45 | 総合評価 | 97.8 | 0.0 | 97.8 | 20.0 | 40.0 | 17.8 | 20.0 | 2.2 |
| | 医学概論 | 講義 | 45 | 総合評価 | 97.8 | 0.0 | 97.8 | 8.9 | 28.9 | 31.1 | 28.9 | 2.2 |
| | 食品学 | 講義 | 45 | 総合評価 | 91.1 | 8.9 | 100.0 | 6.7 | 22.2 | 37.8 | 33.3 | 0.0 |
| | 食品学実験Ⅰ | 実験 | 45 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 13.3 | 51.1 | 17.8 | 17.8 | 0.0 |
| | 食品学実験Ⅱ | 実験 | 45 | 総合評価 | 80.0 | 15.6 | 95.6 | 22.2 | 15.6 | 26.7 | 31.1 | 4.4 |
| | 食品衛生学 | 講義 | 45 | 総合評価 | 97.8 | 2.2 | 100.0 | 11.1 | 31.1 | 33.3 | 24.5 | 0.0 |
| | 食品衛生学実験 | 実験 | 43 | 総合評価 | 83.7 | 16.3 | 100.0 | 14.0 | 30.2 | 18.6 | 37.2 | 0.0 |
| | 食品加工学 | 演習 | 43 | 総合評価 | 79.1 | 16.3 | 95.4 | 0.0 | 18.6 | 34.9 | 41.9 | 4.6 |
| | 栄養学総論 | 講義 | 45 | 総合評価 | 71.1 | 26.7 | 97.8 | 15.5 | 8.9 | 17.8 | 55.6 | 2.2 |
| | 栄養学各論 | 講義 | 45 | 総合評価 | 75.6 | 24.4 | 100.0 | 6.7 | 13.3 | 28.9 | 51.1 | 0.0 |
| | 栄養学各論実習 | 実習 | 44 | 総合評価 | 97.7 | 0.0 | 97.7 | 31.8 | 20.4 | 11.4 | 34.1 | 2.3 |
| | 臨床栄養学Ⅰ | 講義 | 45 | 総合評価 | 66.7 | 33.3 | 100.0 | 8.9 | 26.6 | 17.8 | 46.7 | 0.0 |
| | 臨床栄養学Ⅱ | 講義 | 45 | 総合評価 | 73.3 | 26.7 | 100.0 | 8.9 | 15.5 | 35.6 | 40.0 | 0.0 |
| | 臨床栄養学実習 | 実習 | 44 | 総合評価 | 95.5 | 4.5 | 100.0 | 36.4 | 20.4 | 6.8 | 36.4 | 0.0 |
| | 栄養指導論Ⅰ | 講義 | 45 | 総合評価 | 73.3 | 26.7 | 100.0 | 22.2 | 11.1 | 13.4 | 53.3 | 0.0 |
| | 栄養指導論実習Ⅰ | 実習 | 45 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 6.7 | 53.3 | 28.9 | 11.1 | 0.0 |
| | 栄養指導論Ⅱ | 講義 | 45 | 総合評価 | 82.2 | 17.8 | 100.0 | 8.9 | 28.9 | 28.9 | 33.3 | 0.0 |
| | 栄養指導論実習Ⅱ | 実習 | 42 | 総合評価 | 83.3 | 16.7 | 100.0 | 21.4 | 28.6 | 21.4 | 28.6 | 0.0 |
| | 公衆栄養学 | 講義 | 45 | 総合評価 | 71.1 | 22.2 | 93.3 | 8.9 | 17.8 | 24.4 | 42.2 | 6.7 |
| | 調理学 | 講義 | 45 | 総合評価 | 91.1 | 8.9 | 100.0 | 8.9 | 31.1 | 35.6 | 24.4 | 0.0 |
| | 調理学基礎実習 | 実習 | 45 | 総合評価 | 84.4 | 15.6 | 100.0 | 31.1 | 15.5 | 35.6 | 17.8 | 0.0 |
| | 調理学実習 | 実習 | 45 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 33.3 | 17.8 | 31.1 | 17.8 | 0.0 |
| | 給食管理 | 講義 | 45 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 33.3 | 46.7 | 20.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 給食管理実習指導 | 演習 | 45 | 総合評価 | 97.8 | 0.0 | 97.8 | 8.9 | 37.8 | 46.7 | 4.4 | 2.2 |
| | 給食管理実習 | 実習 | 43 | 総合評価 | 97.7 | 0.0 | 97.7 | 18.6 | 41.9 | 34.9 | 2.3 | 2.3 |
| | 栄養士のための化学 | 講義 | 44 | 総合評価 | 75.0 | 13.6 | 88.6 | 9.1 | 20.5 | 22.7 | 36.4 | 11.4 |
| 学校栄養教育論Ⅰ | 演習 | 8 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 12.5 | 37.5 | 25.0 | 25.0 | 0.0 | |
| 学校栄養教育論Ⅱ | 演習 | 7 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 14.3 | 71.4 | 14.3 | 0.0 | |
| 基礎演習 | 演習 | 34 | 総合評価 | 35.3 | 0.0 | 35.3 | 0.0 | 32.4 | 2.9 | 0.0 | 64.7 | |
| 食生活演習 | 演習 | 45 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 33.3 | 37.8 | 24.5 | 4.4 | 0.0 | |
| 教職に関する科目 | 教職概論 | 講義 | 7 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 57.1 | 14.3 | 28.6 | 0.0 |
| | 教育学概論 | 講義 | 8 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 25.0 | 50.0 | 12.5 | 12.5 | 0.0 |
| | 発達・学習心理学 | 講義 | 20 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 50.0 | 45.0 | 5.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 家庭科教育法 | 講義 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 教育方法論 | 講義 | 7 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 道徳教育研究 | 講義 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 特別活動 | 講義 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 生徒指導論 | 講義 | 16 | 総合評価 | 68.8 | 0.0 | 68.8 | 6.3 | 31.3 | 31.2 | 0.0 | 31.2 |
| | 教育相談 | 講義 | 7 | 総合評価 | 85.7 | 14.3 | 100.0 | 0.0 | 42.8 | 28.6 | 28.6 | 0.0 |
| | 総合演習 | 演習 | 7 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 28.5 | 28.6 | 42.9 | 0.0 | 0.0 |
| | 栄養教育実習指導 | 演習 | 7 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 14.2 | 42.9 | 42.9 | 0.0 | 0.0 |
| | 栄養教育実習 | 実習 | 7 | 総合評価 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 14.3 | 14.3 | 42.8 | 28.6 | 0.0 |
| | 教育実習指導 | 演習 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 教育実習 | 実習 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |

(2) 学科長等がそれぞれの学科について、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状についてどのように受け止めているかを記述して下さい。

幼児教育学科長

単位認定は、講義系科目、実技系科目あるいは講義内容によって、担当教員の判断に任されているが、ほとんどの科目で記述試験、レポート、実技試験とともに、授業に取り組む態度などを含めた総合的な評価を行っている。いずれの場合においても、各教科の教育目標に適した方法で、適切に単位認定が行われていると受け止めている。なお、単位認定の基準は学則第 21 条に定められている。

平成 20 年度幼児教育学科第一部卒業生の単位の取得状況は、教科に関する科目および教職に関する科目の 54 科目中、総合評価 51 科目、レポートまたは学期末試験 3 科目、また再試験は 16 科目実施され、最終評価は、秀 21.0%、優 29.1%、良 34.7%、可 14.8%、不可 0.4%であった。

幼児教育学科第三部卒業生の単位の取得状況は、教科に関する科目および教職に関する科目の 48 科目中、総合評価 45 科目、レポートまたは学期末試験 3 科目、また再試験は 22 科目実施され、最終評価は優 41.7%、良 32.3%、可 25.6%、不可 0.4%であった。

第一部・第三部とも最終的には、99.6%の学生が単位を取得している。したがって、各担当教員は、学生が専門職に就くために必要な知識・技能を一定レベルに高めた上で、その習熟度に合わせて適正に評価していると受け止めている。

平成 19 年度からの GPA 制度の導入により、学生個人の習熟度を認知することができるようになったが、現在はそれを利用しての指導にまで至っていない。今後は、授業態度等に加え、GPA による習熟度を踏まえた適切な学生指導が必要であると考えている。

生活学科長

専攻・コース毎に専門科目において開講科目および授業形態が異なり単位認定・取得状況・評価の現状については若干の差がある。

平成 20 年度生活学科生活学専攻生活情報コース卒業生の単位の取得状況は、教科に関する科目の 34 科目の全てが総合評価で、再試験は 8 科目実施され、最終評価は、秀 33.0%、優 31.0%、良 20.4%、可 14%、不可 1.6%であった。

生活学科生活学専攻養護教諭コース卒業生の単位の取得状況は、教科に関する科目の及び教職に関する科目の 48 科目中、総合評価 43 科目、学期末試験 5 科目、また再試験は 12 科目実施され、最終評価は、秀 32.2%、優 37.5%、良 18.1%、可 11.9%、不可 0.3%であった。

食物栄養専攻卒業生の単位の取得状況は、教科に関する科目及び教職に関する科目の 48 科目中、総合評価 47 科目、学期末試験 1 科目、また再試験は 22 科目実施され、最終評価は秀 19.5%、優 29.1%、良 23.9%、可 24.9%、不可 2.6%であった。

不可については食物栄養専攻が他に比べて高くなっているが、これは基礎演習（選択科目）の途中放棄によるものである。秀および優の比率は、生活学専攻が高く、また、再試験率においても食物栄養専攻が高いが、特に教員の評価が厳しいわけではない。

IV 【授業に対する学生の満足度について】

教員による評価の現状は、単元終了ごとに小テストや実技テストを行って学習の到達度を見て授業に反映し、単位認定には再試験・レポート等を実施して一定のレベルに高める努力をした結果の評価で、適正に行われている。

(3) 学長等は、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状について、短期大学全体の状況をどのように受け止めているかを記述して下さい。

短期大学部長

前項(2)で指摘されているように、平成19年度入学生からGPA制度を導入した。GPA制度を導入することで、入学時から卒業までの成績を客観的に追跡評価し、的確な指導助言を行うことができる。また、学生自身が卒業までの学習計画を立てることができるなどのメリットがある。しかし、GPA制度を導入して日が浅いなどのために、有効な活用ができていないと言えない。今後、GPA制度が有効に活用され、学生の学習指導に生かされていくことを期待したい。

単位取得の状況は、幼児教育学科長、生活学科長の指摘にもあるように、最終的な単位取得状況はおおむね妥当といえる。

単位評価の状況については、教員間でのいわゆる甘い、辛いのが差が見られる。評価の観点を授業科目のシラバス上に明記し、評価基準を開示しているが、単位認定の公正さを期すために、教員間での話し合いを積み重ね、より一層公正な評価となるよう努めなければならないと考えている。

【授業に対する学生の満足度について】

(1) 各授業について、終了後に「学生の満足度」の調査を実施していればその調査の概要を記述して下さい。また調査票の様式等を訪問調査の際にご準備下さい。

各授業の学生の満足度に関する調査は「授業アンケート」の調査項目に盛り込まれている。概要は「《Ⅱ教育の内容》【教育改善への努力について】p.26」において示した。

授業アンケートの平成19年度と平成20年度の結果比較をみると、21項目でそれぞれ5段階評価において、「講義科目・外国語科目」の分類科目の全集計では、評価が上がっている項目が5項目、下がっている項目が3項目、「演習・実験・実習」の分類科目の全集計では、上がっている項目が5項目、下がっている項目が1項目、「基礎ゼミ・基礎セミナー」（併設四年制大学と同時にやっているため、本学の基礎演習などがこの名称の分類となっている）の分類科目の全集計では、上がっている項目が8項目、下がっている項目が3項目となっている。全体において、評価が上がっている項目数が上回っている。各教員が授業改善の意識を持って授業に取り組んでいる結果といえる。

(2) 担当教員が授業終了後の学生の満足度に配慮しているかについて、学科長等が現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

幼児教育学科長

平成19年度に実施された学生による授業評価アンケートの結果を踏まえ、各授業担当教員は授業の改善に取り組んだ結果により前項のような評価結果が出ていると受け

止めている。また、幼児教育学科第一部・第三部の学生による授業評価は、総体としては良好であると受け止めている。

生活学科長

平成 19 年度後期に実施された学生の授業評価アンケートの全項目評価は 5 段階評価で 2.7~4.6 であり、その中で「この授業は全体として満足のものであった」項目および「学生の反応や理解度・到達度に配慮した授業の進め方であった」項目については良好な評価であった。

各授業担当者は、学生の授業評価を受けて「アンケート結果を踏まえた授業評価」を行い改善に努めているが、一般に専門科目の講義・実験の評価が低く、実習・実技関係は高い傾向にある。評価が低い傾向にある講義・実験の担当者は、授業終了後やレポート作成時等に指導を行っており、学生の授業内容の理解度を高める努力をしている。

(3) 学長等は短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

学長

平成 17 年度より毎年 1 回、教育改善を目指して学生による授業評価を実施している。平成 18 年度から専任教員が担当の 1 科目について、学生の要望に応じて、授業の在り方等についての回答をホームページに公表している。毎年学生の授業評価の結果を通読しているが、年々学生の授業評価はよい方向に高まっている。この意味において、学生の授業評価の実施は一定の成果を上げている。

平成 20 年度『「学生の意識および生活の実態に関する意識調査」結果のまとめ』によれば、学生の生活目的は、「資格を取ったり、将来に有利な就職・職業を考えている」学生の割合は 57.8%、次いで「専門的知識・技術の習得」が 27.1%である。両者合わせて 84.9%である。また授業の履修についても、「専門知識を得るために系統立てて履修する」が 43.0%、「仕事や将来の就職に必要な科目を優先して履修する」が 40.7%と履修目的は 2 分されているが、両者合わせて 83.7%になっている。これらから、学生の目的意識は非常に高いと言える。

また生活の充足度に関しては、「かなり充実している」と「まあまあ」が占める割合は、13.4%と 74.9%であり、これも両者の合計は 88.3%になり、かなり高い。授業には「ほとんど出席している」学生の割合は、必修科目が 86.3%、選択科目が 73.8%である。

本学についての設問で、「希望の大学へ入学した」「大学に満足している」学生の割合は、78.9%と 63.0%である。大学に対する満足度が前者に比べてやや低いが、平成 16 年度からの数値を比較すると、満足度は年々高くなっている。

上記の意識調査の数値からすると、教育の成果は高い水準にあると言ってよいように思われる。これらは特に学生の意欲を高める少人数教育や学外実習等に重点をおく教育の成果であるように思う。

IV【退学、休学、留年等の状況について】

【退学、休学、留年等の状況について】

(1) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の退学、休学、留年等の数を、次の表を例にして学科等ごとに記載し、学科等の状況を明らかにして下さい。

退学者等一覧表(平成21年3月31日現在) 図表 26

幼児教育学科第一部

| 区 分 | 18年度入学 | 19年度入学 | 20年度入学 | 備考 |
|-----------|--------|--------|--------|----|
| 入学者数 | 129 | 111 | 106 | |
| うち退学者数 | 1 | 8 | 1 | |
| うち休学者数 | 0 | 0 | 2 | |
| 休学者の内復学者数 | - | - | 2 | |
| うち留年者数 | 0 | 1 | 0 | |
| 卒業生数 | 126 | 102 | | |

18年度入学の内、2名は生活学科生活学専攻生活情報コースに転科(19.4.1付け。1名は1年、1名は2年。「転科規程」による。)

幼児教育学科第三部

| 区 分 | 18年度入学 | 19年度入学 | 20年度入学 | 備考 |
|-----------|--------|--------|--------|----|
| 入学者数 | 64 | 62 | 59 | |
| うち退学者数 | 12 | 7 | 4 | |
| うち休学者数 | 0 | 0 | 0 | |
| 休学者の内復学者数 | - | - | 0 | |
| うち留年者数 | 3 | 0 | 0 | |
| 卒業生数 | 49 | | | |

生活学科(生活学専攻生活情報コース)

| 区 分 | 18年度入学 | 19年度入学 | 20年度入学 | 備考 |
|-----------|--------|--------|--------|----|
| 入学者数 | 14 | 25 | 32 | |
| うち退学者数 | 0 | 3 | 1 | |
| うち休学者数 | 0 | 0 | 1 | |
| 休学者の内復学者数 | - | - | 0 | |
| うち留年者数 | 0 | 1 | 0 | |
| 卒業生数 | 15 | 22 | | |

18年度および19年度入学において、各1名が幼児教育学科第一部18年度入学より転科(19.4.1付け。「転科規程」による。)

生活学科(生活学専攻養護教諭コース)

| 区 分 | 18年度入学 | 19年度入学 | 20年度入学 | 備考 |
|-----------|--------|--------|--------|----|
| 入学者数 | 34 | 36 | 21 | |
| うち退学者数 | 2 | 3 | 3 | |
| うち休学者数 | 0 | 0 | 0 | |
| 休学者の内復学者数 | - | - | 0 | |
| うち留年者数 | 2 | 0 | 0 | |
| 卒業生数 | 30 | 33 | | |

生活学科(食物栄養専攻)

| 区 分 | 18年度入学 | 19年度入学 | 20年度入学 | 備考 |
|-----------|--------|--------|--------|----|
| 入学者数 | 40 | 48 | 51 | |
| うち退学者数 | 2 | 3 | 1 | |
| うち休学者数 | 0 | 0 | 1 | |
| 休学者の内復学者数 | - | - | 1 | |
| うち留年者数 | 0 | 0 | 0 | |
| 卒業生数 | 38 | 45 | | |

(2) 退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者（復学者を含む）及び留年者に対する指導（ケア）の現状について学科等ごとに記述して下さい。

幼児教育学科第一部

平成 18 年度入学生の退学者 0.8%、平成 19 年度入学生の退学者は 7.2%であった。退学理由は、進路変更である。平成 20 年度入学生の平成 21 年 3 月 31 日現在の休学者は、2 名とも平成 21 年 4 月 1 日付けで復学をしている。

1 年次にはクラス担任制を取り、学生約 30 名に対して指導専任教員 1 名が配置されている。さらに、基礎演習を開講し、複数の専任教員が各 10 名程度の学生を指導している。また、2 年次には「卒業ゼミ」の指導専任教員が担任となっている。いずれも少人数に対して指導を行い、学生とのコミュニケーションを密にするための体制をとっている。

幼児教育学科第三部

平成 18 年度入学生の退学者 18.8%であった。退学理由は、体調不良と進路変更と経済上の都合である。退学者数が他に比較して多く、理由も多様であり、対策に苦慮している。

現状では、3 年間を通してクラス担任制を取っており、フレックスコース学生に対しては約 30 名、協定企業学生に対しては約 10 名に 1 名の指導専任教員を配置している。また、総合演習、ピアノレッスンなどの少人数授業の中で学生の実態を把握し学生指導に役立てている。

生活学科

平成 18 年度入学生の退学者 4.5%、平成 19 年度入学生の退学者は 8.26%であった。平成 19 年度入学生の退学者は経済的理由が 44.4%、次に進路変更と健康上の理由がそれぞれ 22.2%となっている。

経済的理由による退学を申し出た学生には、奨学金制度などの紹介をしているが、家計を助けるために退学を余儀なくされている学生もおり、現実社会の厳しさを感じる。進路変更が理由になる場合は、授業に出席しなくなることが多いので専任教員間で連絡を取り合い、本人との話し合いだけではなく必要に応じて保護者への対応も行い、学生の意思を十分に確認して退学をさせている。

図表 26 (p.53) において 3 名の留年者のうち、平成 18 年度入学生の生活学専攻養護教諭コース 2 名 (5.9%) は資格取得を目標にしているため、学生のペースに沿ってコース全体で支援し 1 名は平成 20 年度で卒業、1 名は学業を継続することになった。平成 19 年度入学生の生活学専攻生活情報コース 1 名 (4%) の留年生は、幼児教育学科第一部より転科した学生で、転科当初は学業に励んでいたが徐々に勉学意欲が薄れ、話し合いの結果、退学を希望した。

(3) 退学、休学、留年等の現状を、学科長等がどのように受け止めているかを学科等ごとに記述して下さい。

幼児教育学科長

年度ごとの退学者の増減については、まだ十分な分析はできていない。しかし、3 ヶ年をみると退学者は減少している。また、退学理由は、進路変更、体調不良および一身上

IV【資格取得の取組みについて】

の都合となっている。学習指導のあり方、専門職に就かない学生の就職指導についてが今後の検討課題であると受け止めている。

生活学科長

過去3カ年の退学者18名の退学割合の多い理由は、進路変更33.3%（6名）、経済的理由27.8%（5名）、健康上の理由11.1%（2名）である。進路変更が理由の学生は、受講科目が本人の考えていた内容とマッチしていなかったこと、資格を生かした就職の難しさなどを挙げている。学ぶことの楽しさを実感できるような授業の展開、課外活動を含め充実した学生生活の支援の必要性を感じる。経済的理由での退学者は、平成19年度入学生に多く、不況による社会的背景が影響していると考ええる。

平成20年度入学生より健康上の理由で休学者が出ている。就学意欲に体調が伴わないためである。親の希望によって進学する学生もいるので、「自分探し」、「キャリア支援」などの内容の科目が起こせたらと考える。

(4) 学長等は、短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

学長

過去3年間の退学者の特徴は、学科によって異なっている。幼児教育学科第一部・第三部の中では、退学者の比率は第三部で高いが、退学理由は一様ではない。生活学科の学生の退学者数は、上記の生活学科長の説明にあるとおり、進路変更、経済的理由、健康上の理由の順に多い。進路変更については、学生のキャリア指導を考える必要があるが、上述のように、非常にきめの細かい少人数教育を行っている。経済的理由による退学者の比率は、この3年間だけを見る限りでは、増えているとは言えない。いずれにしても、退学者数が少ないとは言えず、今後それぞれの学生の状況を把握し、きめ細かい相談・指導をはかっていく必要があると考える。

【資格取得の取組みについて】

(1) 《Ⅱ教育の内容》の【教育課程について】(3) (21ページ)で報告頂いた取得が可能な免許・資格、また教育課程とは別に取得の機会を設けている免許・資格の取得状況（取得をめざした学生数、取得者数、取得割合等）を学科等ごとに示して下さい。

教育課程とは別に取得の機会を設けている免許・資格の取得状況

教育課程外で開講された各種資格取得講座（詳細は「《Ⅴ学生支援》【進路支援について】(2) pp.72-73」参照）の受講者、受検者、合格者は以下のものである。ただし、情報処理技能検定と漢字検定は取得講座を実施していない。食生活アドバイザーに関しては食物栄養専攻の専任教員が受験のための講習会を行なっている。

教育課程とは別に取得の機会を設けている免許・資格の取得状況(平成20年度)図表 27

幼児教育学科第一部

| 検定名 | 級 | 受講者 | 受検者 | 合格者 | 合格率:% |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-------|
| 日本語文章能力検定 | 3級 | 13 | 15 | 13 | 86.7 |
| 秘書検定 | 2級 | 35 | 36 | 9 | 25.0 |
| 医療事務 | 2級 | 6 | 6 | 1 | 16.7 |
| 漢字検定 | 2級 | — | 5 | 0 | 0.0 |
| | 準2級 | — | 1 | 0 | 0.0 |

幼児教育学科第三部

| 検定名 | 級 | 受講者 | 受検者 | 合格者 | 合格率:% |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-------|
| 日本語文章能力検定 | 3級 | 1 | 1 | 1 | 100.0 |
| 秘書検定 | 2級 | 5 | 7 | 5 | 71.4 |
| 医療事務 | 2級 | 3 | 1 | 0 | 0.0 |
| F P 技能士検定 | 3級 | 1 | 1 | 0 | 0.0 |
| 漢字検定 | 2級 | — | 2 | 0 | 0.0 |
| | 準2級 | — | 11 | 0 | 0.0 |

生活学科生活学専攻生活情報コース

| 検定名 | 級 | 受講者 | 受検者 | 合格者 | 合格率:% |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-------|
| 日本語文章能力検定 | 3級 | 1 | 1 | 1 | 100.0 |
| 秘書検定 | 2級 | 1 | 5 | 2 | 40.0 |
| F P 技能士検定 | 2級 | 2 | 1 | 1 | 100.0 |
| | 3級 | 10 | 12 | 3 | 25.0 |
| 情報処理技能検定 | 1級 | — | 3 | 1 | 33.3 |
| | 2級 | — | 16 | 16 | 100.0 |
| | 3級 | — | 21 | 21 | 100.0 |
| 販売士 | 2級 | 1 | 0 | 0 | 0.0 |
| 医療事務 | 2級 | 1 | 1 | 0 | 0.0 |
| シスアド | 初級 | 3 | 2 | 0 | 0.0 |
| 漢字検定 | 準2級 | — | 1 | 0 | 0.0 |

生活学科生活学専攻養護教諭コース

| 検定名 | 級 | 受講者 | 受検者 | 合格者 | 合格率:% |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-------|
| 医療事務 | 2級 | 9 | 9 | 1 | 11.1 |
| 日本語文章能力検定 | 3級 | 0 | 1 | 0 | 0.0 |
| 秘書検定 | 2級 | 2 | 7 | 3 | 42.9 |
| 情報処理技能検定 | 3級 | — | 16 | 16 | 100.0 |
| F P 技能士検定 | 3級 | 3 | 4 | 2 | 50.0 |
| 漢字検定 | 2級 | — | 1 | 0 | 0.0 |
| | 準2級 | — | 3 | 2 | 66.7 |

生活学科食物栄養専攻

| 検定名 | 級 | 受講者 | 受検者 | 合格者 | 合格率:% |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-------|
| 秘書検定 | 2級 | 7 | 6 | 5 | 83.3 |
| 医療事務 | 2級 | 15 | 15 | 4 | 26.7 |
| 情報処理技能検定 | 2級 | — | 1 | 1 | 100.0 |
| | 3級 | — | 4 | 4 | 100.0 |
| 漢字検定 | 2級 | — | 1 | 0 | 0.0 |
| | 準2級 | — | 6 | 4 | 66.7 |
| 食生活アドバイザー | 2級 | — | 11 | 8 | 72.7 |
| | 3級 | — | 1 | 0 | 0.0 |

この他に、各学科とも「浄土真宗本願寺派教師資格」を取得することができるが、これまでに受講を希望した者はいなかった。

(2) 今後導入を検討している免許・資格があれば記述して下さい。

生活学科生活学専攻生活情報コースでは、平成22年度から「ビジネス実務士資格」を導入する予定である。また、就職委員会では、社会時事等を通じて社会常識を身につ

IV【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】

けさせることを目的に、ニュース検定講座を平成 21 年度から実施することにした。

【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】

(1) 学科等ごとに専門就職（当該学科等で学習した分野に関連する就職）の状況（専門就職数、割合等）について記述して下さい。また学科等ごとに専門就職先からの卒業生に対する評価について何か文書や資料があれば参考資料として準備して下さい。

幼児教育学科第一部

平成 20 年度卒業生の専門就職数・割合（専門職就職者数/卒業者数）は、幼稚園、保育園、福祉施設関係が 88 名、86.3%である。

幼児教育学科第三部

平成 20 年度卒業生の専門就職数・割合（専門職就職者数/卒業者数）は、幼稚園、保育園、福祉施設関係が 37 名、74.0%である。

生活学科

生活学専攻・生活情報コース

他の学科、専攻・コースのように、名称独占資格や教育職員免許状を要件とする専門職を目標としてはいない。しかし、「問題解決能力、情報発信・情報管理能力およびプレゼンテーション能力などを習得し、情報活用に優れたゼネラリストあるいは情報処理技術者などのスペシャリストを養成する」という教育目標に照らせば、100%が専門を活かした職種についているといえる。

生活学専攻・養護教諭コース

平成 20 年度卒業生の専門就職数は、養護教諭正規採用 1 名、養護教諭臨時採用 7 名、生活支援員 1 名であり、合計すると 9 名、卒業生の 26.5%が養護教諭免許を要する職種についている。そのほか、医療事務が 2 名、5.9%である。

食物栄養専攻

平成 20 年度卒業生のうち、栄養士として給食会社等に就職したものが 11 名、食品製造業に就職したものが 1 名であり、専門職就職者は合計 12 名、卒業生の 26.7%である。

(2) 卒業生に対する就職先（専門就職に限らない）及びその他の進路先（編入先等）からの評価をどのように受け止めているかについて、短期大学全体については学長等が、学科等については学科長等が記述して下さい。

学長

就職先からの評価で、一般的に高く評価されることは、勤務態度に熱意と責任感、活力があること、特に教育関係では、生徒と同僚への気遣いやコミュニケーション能力があり、好感が持てるというようなことである。さほど多くはないが、大学教育に要請されることは、社会人としての常識を身につけること、正確な事務処理能力などで、仕事や計算の正確性に問題があることが指摘される。

併設四年制大学を含めて、毎年秋に本学卒業生を採用している 90 社程度の企業の人事関係者を招いて、本学の管理職教職員や就職関係の教職員等との懇談会を開催している。そこでは率直な企業側の意見や注文、助言を得るように努めているが、興味

IV【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】

深いことは、幼児教育学科第一部・第三部の企業就職者の評価が非常に高いことである。この学科の学生は、学外実習等で社会人としての基礎力を体得し、そのような経験が学習意欲を高め、学力も高いので、それらが勤務態度に反映して、好感が持たれるためではないかと思う。

さらにこの3年間の生活学科の卒業生の就職先企業に上場企業が少しずつ増えつつあることが注目される。これは一方において、大きな企業で短期大学生の雇用が見直されていることと、他方で本学の少人数によるキャリア教育の指導や、最近の本学学生の課外活動の活発化が学生の自発的学習意欲の向上に寄与していることの成果ではないかと推測している。

幼児教育学科長

「本学卒業生の勤務状況に関する調査」（平成18年度就職委員会実施）の結果、一般的な勤務態度に関する項目、保育者としての能力に関する項目ともに「大変満足」「やや満足」の合計が7～8割を占めており、就職先からは全般的にみて高く評価されているといえる。しかし、「やや問題あり」「問題あり」の合計が、一般的な勤務態度に関する項目では「社会人としてのマナー」21.8%、「行動力」25.7%、保育者としての能力に関する項目では「音楽的能力」25.6%、「事務的能力」25.7%と2割を超えていることについては、学科における教育内容や就職支援活動の見直しの必要があると受け止めている。

また、編入学先の編入学生に対する聞き取り調査の結果は、「毎年複数人編入してくるが、全員まじめに学びを続け教育職に就いている」「途中からの編入で、学習内容や人間関係などの再構成にエネルギーを使わなければならないが、それを乗り越え成長する姿が見られる」であった。編入学生は少数ではあるが、よい評価を受けていると受け止めている。

生活学科長

就職先からの評価の聞き取り件数は少ないが、おおむね好意的で卒業生の頑張りをうれしく思う。就職先は、専門職の場合でも専門的な知識技能より、コミュニケーション能力や、幅広い人間力に期待が高いことがわかる。コミュニケーション能力を高め、人間力を磨くことは本人が自覚して日頃の生活の中で培われるものであるが、本学科では基礎演習や専攻・コース専門の演習などの少人数教育によって社会人としての一般常識（礼儀、言葉遣いなど）を含め指導に努めている。演習では、課題や研究を行い発表でのプレゼンテーションなどによって学生の人間力（教養・知識）、コミュニケーション能力を高めている。

(3) 卒業生に対して「学生時代についてのアンケート（卒業後評価等）」等を実施している場合はその概要とその結果を記述して下さい。また教育の実績や効果を確認するための卒業生との接触、同窓会等との連携等を行っている場合もその取り組みの概要と結果について記述して下さい。

幼児教育学科第一部・第三部

「聖徳会」（VII【社会的活動への取り組みについて】（4）p.84参照）との共催で『幼保新任者公開研修会』『中堅教諭・保育士研修会』を開催している。また、学科主催

IV【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】

の『岐阜保育研究会大会』、学科教員による『保育者のための実践講座』を毎年度開催している（概要は《VII社会的活動》【社会的活動への取組みについて】に記述）。このような研修会において、卒業生との接触を図りリカレント教育を行っている。

生活学科

生活学科食物栄養専攻では、例年『先輩と語る会』を行い、在学生に対し、卒業生に來学してもらい学生生活のアドバイスや就職後の職業人としての心得についての話を行う機会を設けている。専門職に就労している卒業生からは、学生時代の勉学の重要性や職場での仕事内容・改善の取り組みの様子が披露され、頼もしく感じる。

(4) 卒業生が社会からどのように評価されているか、学科長等、学長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

学長

卒業生については、就職先や社会からバイタリティーにあふれ、他を思いやる心があるとして、概して高く評価してもらっている。しかし反面、現在の若い人たちのみならず中高年層に至るまで、欠如していると言われている社会人基礎力、たとえば、社会的マナー、コミュニケーション力、主体性、協調性、チャレンジ精神、誠実性、基礎的学力、正確性などがもっとほしいという評価もある。

社会的基礎力のような力の体得には、人間性の育成をも視野に入れた広義のキャリア教育が必要である。それは、授業でのみ教えられるものでもない。教室においては、少人数による教育、基礎演習、演習や実習などが、専任教員と学生間のコミュニケーションや組織性を基礎としているので、社会人基礎力の養成には最も効果的である。その意味で、本学では、そのような教育体制を推進している。また社会の現場での学外実習に対する指導やボランティア活動にも力を注いでいる。これらは現実社会について学ぶのに効果的である。

さらに課外活動、学友会（自治会）活動等も社会性の育成にとってきわめて重要であるという観点から、その方面での学生支援を積極的に行っている。たとえば、各種のクラブ活動、大学祭（クレマチス祭）、リーダー研修会、卒業記念パーティーでの自主的活動などは、学生の社会性の育成という観点から積極的に支援している。

また短期大学の学生は、原則として2年間で専門的基礎知識や技能の学習を修了しなければならないので、四年制の学生よりは、スケジュールがタイトで、人間関係の密度が濃く、社会人基礎力を自然に体得する学生が比較的多い。

しかし、役に立つ教養や基礎学力を身につけられるように、今後、教育の方法についても、併設四年制大学との教学上の交流によって一層工夫する必要があることを痛感している。また今後は、生涯学習をも視野に入れ、卒業生をも支援する体制を確立する必要があると考えている。

幼児教育学科長

幼児教育学科第一部の卒業生の80%以上、同第三部の卒業生の70%以上が、幼稚園、保育所、福祉施設等の専門職に就職しているなか、その勤務先から全般的に高く評価されていることからわかるように、卒業生の社会的評価は良好であると受け止めて

いる。

生活学科長

一般事務においては、地元の中堅・大手企業からの求人がある。また、栄養士、養護教諭などの専門職においては、欠員が出た場合は就職課を通して、また直接専任教員に求人依頼が年度途中を含めて毎年十数件ある。これは、本学科の卒業生が社会的に評価されていることによるものと考えられる。卒業生の中には結婚等で退職する場合、後任として後輩の紹介をしてくれるものもある。専任教員との信頼関係の結果で、大変好ましいことである。

【特記事項について】

(1) この《IV教育目標の達成度と教育の効果》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教育目標の達成度と教育の効果について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし

(2) 特別な事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし

〈参考資料〉

1. 「学生の満足度」の調査票の様式

参考資料Ⅱ－2と同じ

2. 専門就職先からの卒業生に対する評価についての文章や資料

参考資料Ⅳ－2－1：『本学卒業生の勤務状況に関する調査報告書』

参考資料Ⅳ－2－2：本学卒業生の勤務状況に関する調査へのお願い（調査表）

3. 卒業生アンケートの調査票等

4. その他

参考資料Ⅳ－4－1：『「学生の意識及び生活の実態に関する意識調査」結果まとめ』

2007年度・2008年度

V【入学に関する支援について】

《V 学生支援》

【入学に関する支援について】

(1) 入学志願者に対し、短期大学は建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像をどのような方法、手段で明示しているかを記述して下さい。なおそれらが記載されている短期大学案内等の印刷物を添付して下さい。

入学志願者に対しては、建学の精神、各学科の教育目的、教育内容、特色等を大学案内、ホームページ上で明示している。学生生活の様子、具体的な教育活動の様子（卒業研究発表会等）、卒業生の職場での活躍の姿などを掲載し、教育内容、学生生活、資格取得や卒業後の進路について理解できるように努めている。

なお、建学の精神、教育理念などを具現化した学内の諸行事（報恩講、勤行等）などの情報をより多く伝えるためにホームページなどの広報活動の一層の強化が求められる。

(2) 入学志願者に対し、入学者選抜の方針、選抜方法（推薦、一般、AO入試等）をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述して下さい。なおそれらが記載されている募集要項等の印刷物を参考資料としてご準備下さい。

『入学試験要項』を5月に発行し、入学試験区分、募集人員、試験日、試験科目等を明示している。また、『入試過去問題集（入試ガイド）』を別途作成し、志願者に配付している。本学ホームページにも入試情報を載せている。

『大学案内』『入学試験要項』『入試過去問題集（入試ガイド）』などについては、各高等学校に配付するとともに、ホームページ上から資料の請求ができるようになっている。また、オープンキャンパス、各種の大学展でも資料の配付を行っている。

(3) 広報及び入試事務についての体制（組織等）の概要を記述して下さい。また入学志願者、受験生等からの問い合わせにはどのような体制で応じているかを記述して下さい。

入試に関わる広報は、入試課が担当している。

学生募集、入試選抜、広報等の方針の作成は、入試委員会が所管しており、併設四年制大学と合同の全学入試委員会（学長が委員長）および短期大学部入試委員会（以下、入試委員会）を設けている。入試委員会は、短期大学部長、学科長、教務委員長、学生委員長、就職委員長および教授会で選出された専任教員3名で構成し、事務局からは入試課長、短期大学部事務室長が参加している。

入試課には、専任職員6名、嘱託職員3名が配属されており、本学および併設四年制大学の入試業務全般に当たっている。

入学志願者、受験生、高等学校等からの問い合わせは、電話、メール、直接来学などについては入試課が対応している。また、オープンキャンパスでは、入試課職員および専任教員が面談による相談に応じている。

入試広報に限らず、広報活動全般について課題を多く抱えている。情報量の少なさ、情報提供の遅さなどが、学内外から指摘されている。広報活動の重要性、必要性につ

いての共通認識ができつつあるが、広報活動の弱さは、運営上の大きな課題である。

(4) 願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れについて、選抜方法ごとにその概要を記述して下さい。また多様な選抜を公正かつ正確に実施しているかどうか、入試事務の責任者は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。入学願書等を参考資料としてご準備下さい。

平成21年度入学試験は、「指定校制推薦入試（専願）」「公募制推薦入試（Ⅰ期日程）〔高校推薦方式・併願可〕」「公募制推薦入試（Ⅱ期日程）〔自己推薦方式・併願可〕」「公募制推薦入試（Ⅲ期日程）〔自己推薦方式・併願可〕」「一般入試（前期日程）」「一般入試（後期日程）」および「社会人特別選抜入試」を実施した。各入試の企画・運営は「入試委員会」、各入試の実施にあたっては全専任教員が担当した。合否の判定は、入試委員会で審議し、その後教授会が開催され決定される。

多様な選抜を実施しているが、公正かつ正確に実施していると考えている。しかしながら、「推薦入試」での受験者数が「一般入試」に比して多くなってきており、均質な学力を持つ学生の確保が難しくなっている。

各入試の概要は以下のようなものである。

指定校制推薦入試（専願）

各学科が指定する評定平均値以上で、学校長が推薦する現役生が対象となる。書類審査および面接による総合評価で合否を決定する。

入学願書を受領後、出願書類（入学願書、学校長の推薦書、調査書等）を審査し、審査資料を作成する。面接終了後、入試委員会、教授会で合否を決定し、合否通知を発送する。なお、指定校制推薦入試を受験する者の中で、希望する者に対して「特別選奨生」の選抜のための試験を実施している。

公募制推薦入試（Ⅰ期日程）〔高校推薦方式・併願可〕

各学科が指定する評定平均値以上の現役生および高等学校を1年以内に卒業した者で学校長が推薦した者が対象となる。小論文、面接および書類審査の総合評価で合否を決定する。

入学願書を受領後、指定校制推薦入試と同様に、出願書類の審査、審査資料の作成を行う。面接、小論文終了後、合否判定のための入試委員会、教授会で合否を決定し、合否通知を発送する。

公募制推薦入試（Ⅱ、Ⅲ期日程）〔自己推薦方式・併願可〕

評定平均値の条件はなく、高等学校等現役生および卒業生、高等学校等卒業と同等以上の学力がある者、通常の課程による12年の学校教育を終了した者および見込みの者を対象とする。自己推薦書、面接、小論文および書類審査との総合評価で合否を決定する。

平成21年度入学試験は、この方式での入試を2度実施した。合否判定の手続きは、「指定校制推薦入試」「公募制推薦入試（Ⅰ期日程）」と同様に行う。

V【入学に関する支援について】

一般入試（前期日程）

評定平均値の条件はなく、出願資格は「公募制推薦入試（Ⅱ、Ⅲ期日程）」の場合と同じである。学力試験（国語又は英語から1科目を選択）の結果および書類審査との総合評価で合否を決定する。

学力試験は2日間実施し、試験日自由選択制のため、2日間の中から受験希望日を選ぶことができる。また、2日とも受験ができる。

合否判定の手続きは、上記入試方式と同じである。

一般入試（後期日程）

出願資格は、一般入試（前期日程）と同じである。学力試験は「英語」（オーラルコミュニケーションⅠ、英語Ⅰ・英語Ⅱ）、「国語」（国語表現Ⅰ、国語表現Ⅱ、国語総合（古文、漢文を除く））、「世界史B」、「日本史B」、「数学Ⅰ・数学A」の5科目から1科目を選択する方式となっている。併設四年制大学と共通した問題で実施している。

合否判定および手続きは、一般入試（前期日程）と同じである。

社会人特別選抜入試

社会人にも修学の門戸を開くために行うものである。出願資格は、入学時点で満23歳以上であり社会人としての経歴を有しており、さらに、「一般入試」での出願資格と同様の資格を有することである。

合否判定は、面接、作文および書類審査との総合評価で行われる。合否判定の手続きは、上記の入試方式と同じである。

(5) 合格者もしくは入学手続き者に対し、入学までの間、授業や学生生活についてどのような方法、手段で情報の提供を行っているかを記述して下さい。なおそのための印刷物等があれば参考資料としてご準備下さい。

合格者で入学金の納入者には、学納金の納入通知および入学までに準備する書類等を送付している。また、入学式の案内、入学後のオリエンテーションの日程、授業開始等の日程についても通知している。

平成19年度に引き続き、20年度も入学予定者（12月までの合格者）に対して、学科・専攻・コースごとに入学者支援の取り組みを行っている。平成20年12月25日（高等学校の冬休み期間）に実施した、各学科・専攻・コースでの取り組みは以下のようであった。

幼児教育学科第一部・第三部

学科の概要説明と人形劇、総合表現の発表会のビデオ鑑賞を行い、その後、音楽研究室から入学までに準備して欲しい内容等について、説明とピアノレッスンを実施した。また、平成20年度の人形劇発表会、総合表現発表会への参加も呼びかけた。

生活学科生活学専攻生活情報コース

コースの概要説明を行い、その後、体験学習として「eラーニングシステムMoodleの体験学習」を行い、短期大学での新しい授業スタイルへの興味付けを促した。

生活学科生活学専攻養護教諭コース

「養護教諭としての実務を経験しよう」というテーマで、救急処置（AED）についての講義と実習を行い、養護教諭の役割の一端を学ぶ機会を設定した。

生活学科食物栄養専攻

「食事バランスガイドによる食事診断」をテーマに、簡易的な栄養診断ツールを用いて自分の食事の栄養バランスを診断する取り組みを行った。

(6) 入学後（入学直前を含む）、入学者に対して行っている学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要を示して下さい。

オリエンテーションを入学式後の2日間、新入生歓迎会を授業開始後の最初の土曜日に行っている。

オリエンテーション

円滑また速やかに短期大学生生活を開始できるための支援となるように、学科ごとに分けて、事務部門単位ごととそれ以外の内容で、スケジュールを組んで実施している。担当する事務部門（内容）は、短期大学部事務室（履修）、教務課（免許・資格）、学生課（課外活動等学生生活）、就職課、教育実習課（学外実習）、図書館課である。また、指導担任との懇談、学生相談室利用、ハラスメント説明、コンピュータ教室利用、生活安全講習を行っている。生活学科生活学専攻生活情報コースはノートパソコン貸与説明、生活学科食物栄養専攻は専任教員からの資格取得ガイダンスを行っている。

新入生歓迎会

学友会が主催し、クラブ紹介と入学生同士の親睦を図ることを目的として、キャンパス内で行っている。

【学習支援について】

(1) 入学時もしくは学期ごとに行っている学習や科目選択のためのガイダンス等の概要を示して下さい。

入学生と在学生とも前期と後期授業開始前に行うオリエンテーションにおいて、短期大学部事務室より説明を行っている。生活学科食物栄養専攻は、このオリエンテーションで所属専任教員よりも説明を行っている。幼児教育学科第一部、生活学科の一般教育科目の教養科目における並列開講科目（哲学・文学・心理学、経済学・現代社会論・仏教の生命観）については、初回の授業時に対象学生全員に担当教員より内容の説明を行い、履修希望科目を決定できるようにしている。また、成績確認書配付日（前期成績は9月、後期成績は3月・卒業対象学生は2月）を設定しており、学生に成績一覧表を直接渡し、単位取得状況の確認と、履修に関する相談を受け付けている。

(2) 学習や科目選択のための印刷物（学生便覧等を除く）があれば参考資料としてご準備下さい。

(3) 基礎学力不足の学生に対し補習授業等の取り組みを行っている場合は、その概要を記述して下さい。

幼児教育学科第一部・第三部

卒業後の進路となる幼稚園や保育所においては、ピアノの技能が就職の大きな要件となっている。また、ピアノの技能は、入学以前にピアノ練習をしてきた学生とそうでない学生がおり、入学時において学生のピアノ技能のばらつきが非常に大きい。そのため、技能習得の進度の遅い学生に対し、ピアノ技能指導の補習を行っている。ピ

V【学習支援について】

アノの技能指導には、専任教員4名（助手1名を含む）を含む10名（平成21年度は9名）の指導者があたっている。補習時間は、他の授業を考慮し、設定している。

学外実習に向けて知識や技能の事前準備が不十分な学生および、実習に対して大きな不安を感じている学生に対し、「教育実習指導」および「保育実習Ⅰ（事前・事後指導）」の授業時間以外に個別指導を行っている。教育実習・保育実習は、ほとんどの学生が所定の時期に行っているが、指導を行っても知識・技能や精神的に不安を持つ学生に対しては実習時期を見合わせ、個別指導を行い、不安のない状態になるのを待って実習に臨むよう指導している。実習指導には、主に4名の実習担当の専任教員が当たっている。

生活学科

生活学専攻生活情報コースでは、情報処理関連の専門科目の理解度、習熟度が、高校までの学習内容に大きく左右され、そのばらつきが大きいため、情報関連基礎の理解度が不十分な学生を対象として補習を行っている。その内容は、Word、Excelの利用技術を中心に、10コマ程度の補習である。

また、コンピュータ応用科目の学習をスムーズに進めるため、コンピュータハードウェアおよびソフトウェアの復習を中心に、30コマ程度の補習を行っている。これらの補習については、授業の空き時間、または、長期休暇などを利用して実施しており、2名の情報担当の専任教員が指導に当たっている。受講者の選定は行っていない。また、補習は学生の希望により受講させ、学生の義務となることはない。

（4）学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取組みや体制があれば記述して下さい。

例年、前期・後期毎に授業開始から3週間を経過した時点で、全教科について授業欠席状況調査を行い、欠席日数の多い学生について短期大学部事務室で把握し、教授会で報告の後、指導担任の専任教員に連絡し、個別に面談を行って、学習上の問題、悩み等に対し指導助言を行っている。調査以降は、指導担任が各教科担当者と連絡を取りながら個別の指導を行っているが、6月中にも調査を行うなど、短期大学部全体としての取組みをさらに充実させることを検討したい。

（5）進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っていれば、記述して下さい。

特別な支援体制は設けていないが、各科目において、進度の早い学生や優秀学生に対し担当教員が個別に対応することにより、さらに高度な内容について学習できるように配慮している。また、優秀な学生については、ゼミナールの中で、上位学年が履修する内容についても、テーマとして選択し、先行して取り組むように指導している。

また、幼児教育学科第一部・第三部のピアノ技能指導では、最低到達目標はどの学生にも共通であるが、進度の早い学生や優秀学生については、より難易度の高い課題に取り組めるよう配慮している。

他の科目も含め、進度別クラスでの学修体制の検討を行っているが、評価基準の統一が困難なことや担当教員数の制限など問題点が多く、今後の検討課題である。

【学生生活支援体制について】

(1) 学生生活を支援するための組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を示して下さい。

学生生活を支援するための専任教員組織として教授会のもとに学生委員会がある。また事務組織としては本学と併設四年制大学を統括する学生課がある。学生委員会は各学科の専任教員で構成され、同委員会規程で以下の項目を審議することになっている。

- (1) 厚生補導に関すること
- (2) 学友会並びに課外活動に関すること
- (3) 奨学生に関すること
- (4) 健康管理に関すること
- (5) 指定寮及び厚生施設に関すること
- (6) 賞罰に関すること
- (7) 学内広報に関すること
- (8) その他学生生活に関すること

学生委員会は月1回開催されており、上記事項の審議を行っている。学生委員会での合意事項は教授会に報告される体制となっている。なお「(6) 賞罰に関すること」については、学則第42条第1項に基づき「教授会の議を経て、学長がこれを懲戒することであり、提案の役割となっている。

学生課は学生委員会での協議事項等の議事録作成、上記事項の具体的運用および、これらに関する事務を行っている。

本学および併設四年制大学の学生委員のうち、委員長と副委員長が委員となり「全学学生委員会」が年間4～5回開催される。この委員会では、併設四年制大学を含めた全学的な立場に立ち上記項目の審議を行っている。学生課は本学および併設四年制大学相互の調整を図っている。

(2) クラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事（学園祭、短大祭等）の実施の状況を、その指導体制及び学生の活動状況を含めて記述してください。

クラブ活動の現状とその指導体制および学生の活動状況

クラブ活動は、体育系5団体と文科系9団体が活動している。専任教員が顧問となり、コーチは指導できる教職員が当たっている。クラブ活動は、学生が主体となって定期的に活動を行っている。学外での活動の場合は、所定の手続きを行って、必要に応じて、顧問・コーチ・学生課職員が引率している。学生の課外活動に要した交通費は、後援会からの助成金である学生厚生補導助成費から「交通費支払基準」により支払われている。

課外活動の手続きの流れは、クラブ長が活動起案→顧問確認印→学生課に提出→課員、部長確認・許可→実施→課外活動報告→顧問確認印→学生課に提出→課員、学生委員長、学生部長の実施内容確認となっている。

行事内容によってはクラブ顧問・コーチ・教職員が直接的、間接的に支援をしている。

V【学生生活支援体制について】

大学支援行事としては、『全国私立短期大学体育大会』、『岐阜県私立短期大学体育大会』がある。

学生の課外活動状況の詳細は参考資料『平成20年度課外活動報告書』のとおりである。

学友会の現状とその指導体制および学生の活動状況

学友会は学生の自治組織となっている。学友会活動は、年間スケジュールのもとで、学生が主体的に企画・活動している。直接的な支援窓口は学生課であるが、短期大学部事務室・学生委員会も含め支援を行っている。学友会活動については、学生の自主的な活動を奨励しているが、学外実習、就職活動があるため、行事などの準備や作業においては教職員の支援が不可欠である。学生の主体性を尊重した支援を心がけており、過干渉とならないように配慮している。

学友会主催の主な行事は、『新入生歓迎会』、『幼児教育学科第三部バスハイキング』、『フレッシュマンスタッフ研修会』、『夏祭り盆踊り大会』、『クレマチス祭(大学祭)』、『ニューリーダー研修会』、そして『卒業記念パーティ』などである。

平成 17 年度より本学と併設四年制大学の学生を対象に「学生が勉学、課外活動、社会的活動において大学の名誉に値する行為があったときに表彰することを目的」とした表彰制度として学長賞(団体)、後援会長賞(個人)を設け、学生の主体的活動を奨励している。表彰は大学祭において実施し、学長賞は1団体・後援会長賞は個人3名以内としている。平成20年度にはバドミントン部が学長賞を受賞した。

行事(大学祭等)の実施状況とその指導体制および学生の活動状況

大学祭は開学以来、クレマチス祭として実施され、学友会の下部組織である大学祭実行委員会が中心となって企画・運営が行われている。第42回となった平成20年度は、岐阜キャンパス内の併設四年制大学経済情報学部の学生も参加して岐阜キャンパスのクレマチス祭として開催された。併設四年制大学経済情報学部の学生との交流が深まっている。教職員は、クラブ、クラス、ゼミ単位の企画を支援すると共に後夜祭の企画に参加している。大学祭参加者は800名を超え、卒業生の来校も約70名あった。高校生や保護者、地域の親子参加も例年のようにみられる。在学生の参加(本年度は延べ343名が参加)を増やすのが今後の課題である。

また、第19回夏祭り盆踊り大会(地域住民も含め約700名参加)では、地域との交流も深まった。

(3) 学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置の概要について記述してください。なお訪問調査の際にご案内いただきます。

休息のための施設・空間

屋内には、2号館1階ロビー、学生会館2階ホールにテーブルと椅子、ソファが設置されている。

屋外には、体育館西側および3号館南側の芝生スペース、学生会館、4号館の間の中庭、そして学生会館1階北側に隣接するテラスに、ベンチが設置され、学生たちに「憩いの場」として利用されている。

保健室

保健室は、2号館2階にあり、養護教諭免許を有する看護師1名が常駐している。保健室に隣接して学生相談室があり、二室は中でつながっており、看護師と相談員の連携が容易となるような構造である。

食堂・売店

学生会館1階に食堂と売店が設置されており、食堂席数は693席である。営業時間は食堂が午前11時から17時まで、売店が10時から15時までとなっている。食堂は日曜日休業。売店は土・日曜日および長期休業中休業となっている。

(4) 短期大学が設置する学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舍の斡旋体制、通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）の概要を示してください。

指定寮

近隣のマンションやアパートのオーナー（寮主）が組織している寮主組合を通して学生寮を紹介している。併設四年制大学を含め男子寮として20寮、女子寮として21寮の合計41寮がある。入学予定学生に『ドミトリーガイド（寮案内）』を送付し、2～3月の期間キャンパス内に寮案内所を設置している。また、寮主組合は平成18年度よりホームページを開設している。

各指定寮の学生代表（寮長）と学生課職員が定期的に「寮長会」を開催し、各寮の施設・設備や安全性についての問題点・要望を集約している。「寮主会」は年6回程度開催され、寮長会で得られた意見・要望を伝えて、問題点などの改善に努めている。

下宿・アパート等の宿舍の斡旋体制

指定寮等以外の宿舍の斡旋はしていない。

通学のための便宜

通学方法の内訳は、図表28（複数回答）に示した。

バス通学については、「岐阜駅から本学直通のスクールバス」と「公共バス」が利用できる。「岐阜駅から本学直通のスクールバス」は、現在登校時に2便、下校時に2便の運行を実施している。

自動車通学については、学生用駐車場として近隣土地所有者に依頼して指定民間有料駐車場3カ所（計240台分）を設置し、その利用を学生に指導している。また、平成18年度後期から1回の使用料金200円の学生駐車場を2カ所計179台分設置した。現在、合計390台分の駐車場が確保されている。

自転車およびバイク通学については、駐輪場として約300台が利用できるスペースを用意している。

通学手段調査表（平成20年度） 図表 28
（複数回答） 数（％）

| 路線バス 鉄道・電車含 | 直通バス 鉄道・電車含 | 自転車 | 自動車 バイク | その他 | 不明 |
|----------------|----------------|-----------|------------|----------|--------|
| 167(32.2) | 76(14.6) | 126(24.3) | 102(19.7) | 47 (9.0) | 1(0.2) |

V【学生生活支援体制について】

(5) 平成20年度の日本学生支援機構等の外部奨学金の取得状況を記述してください。また短期大学独自の奨学金があればその概要を記述してください。

日本学生支援機構等の外部奨学金

平成20年度の日本学生支援機構奨学金等の経済的支援を受けている延べ学生数は、在籍学生594名中109名である。

日本学生支援機構奨学金では計118名が支援を受けている。第一種と第二種併用の学生は11名で、実質107名の学生が支援を受けている。これは在籍学生の18%にあたる。

その他の奨学金として、地方公共団体の奨学金、あしなが育英会の奨学金を受けている学生が2名いる。

外部奨学金取得状況（平成20年度） 図表 29

| 奨学金 | 1年 | 2年 | 3年 | 計 |
|-----------------|-----|-----|----|-----|
| 日本学生支援機構奨学金 内訳 | | | | |
| 第一種 | 15人 | 30人 | 2人 | 47人 |
| 第二種 | 34 | 31 | 6 | 71 |
| 小計 | 49 | 61 | 8 | 118 |
| 併用 | 5 | 6 | 0 | 11 |
| 日本学生支援機構奨学金の実人数 | 44 | 55 | 8 | 107 |
| 岐阜県選奨生奨学金 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| あしなが育英会 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| その他奨学金の合計 | 1 | 0 | 1 | 2 |

短期大学独自の奨学金および経済的支援

特別選奨生奨学金・修学支援奨学金・奨学金付き学資ローン・被災学生等支援奨学金の4種類がある。

特別選奨生

学業・人物の優れた学生を特別選奨生として選考し、原則として入学年度の授業料に相当する額を2年間給付する制度である。特別選奨生を希望する受験生に対して、選考試験および面接を行い、入試委員会で5名以内を選考し、教授会の議を経て学長が決定する。資格の喪失は、退学・除籍・休学および学則第42条に該当する行為があった場合、また学業成績が基準未満（1年次の成績で「秀」「優」以上が過半数に満たない場合）になった場合である。平成20年度の特別選奨生は10名（内訳：1年生5名・2年生5名）である。

修学支援奨学金

平成19年度より「主たる家計支持者の死亡」した学生の修学の援助を目的に、事由発生の翌月から月額20,000円を卒業年度まで給付する修学支援奨学金を設けた。平成20年度の該当者はいなかった。

奨学金付き学資ローン

経済的理由により修学継続が困難な者に対して、学業継続の支援を目的にして、学業資金の融資を斡旋する制度である。融資対象者は、所定の条件を満たした者で、融資金額は学納金相当額とし、融資期間は在学期間中の約定利息を奨学金として本学が

補填する。返済期間は卒業後4年以内とする。平成20年度の該当者はいなかった。

被災学生等支援奨学金

在学生および受験生が、「災害や火災」を受けたときの経済的負担を軽減するための制度である。受験生に対しては入学試験検定料の免除、合格した者には入学金を免除することがある。在学生・入学生には当該年度授業料相当額またはその一部を奨学金として給付することがある。所定の手続きをして申請があった場合は、学生委員会において審査し、学長が決定する。奨学生の規定に反する行為があったときは、学生委員会の議により給付を停止することがある。平成20年度の該当者はいなかった。

(6) 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要を示してください。

4月初旬から中旬にかけて、全学科の学生が定期健康診断を受診する。健診結果は全学生に対して個別に配付される。また、学校医が全学生の健診データをチェックし、指導が必要な場合は、保健室にて健康相談が実施されている。検尿・血圧検査等の再検については、保健室にて養護教諭免許を有する看護師が対応する体制となっている。

また、同時期に、新入生を対象とした「学生相談アンケート」を実施している。これは学生の心理的状況を把握する目的で行われており、「すぐにでも相談したい」の項目をチェックした学生には個別に連絡し、面談することになっている。

日常の健康管理、メンタルヘルスは、保健室と学生相談室にて対応している。保健室には看護師1名と救急救命士（兼任）1名が常駐している。学生相談室は3名の相談員で運営しており、内訳は、非常勤の臨床心理士1名と専任教員1名（臨床心理士資格保有者）と併設四年制大学教育学部専任教員である。相談室の開室は週3日であるが、時間的制約のため来室できない学生には、個別に配慮して対応している。なお、21年度からは、月1回、羽島キャンパス学生相談室にて嘱託精神科医による相談が開始された。

(7) 学生支援のために学生個々の情報等を記録していれば、それらはどのように保管・保護されているかを記述してください。

学生身上書（紙）

入学時に学生本人が記入し提出する。「顔写真」「生年月日」「出身高校」「高校時の課外活動」「現住所」「保護者連絡先」「家族」「住居・通学情報」が記載事項である。事務局内学生課の鍵付きロッカーに厳重に保管し、解錠は学生課職員のみが行なえるようにしている。

学生カード（紙）

上記学生身上書の記載項目の一部を短冊形式のカードに記載し、学生1人当たり3部提出する。

1部は指導担任と2部は短期大学部事務室で保管している。指導担任へは、その取り扱いについては、十分に注意するよう、教授会等で指示されている。短期大学部事務室の保管については、夜間は施錠する事務室内に保管している。

V【進路支援について】

学生相談の面談記録（紙）

学生相談室における相談の記録であり、学生相談室内の施錠されたロッカーに保管している。相談員だけが閲覧できる。

学生カルテ（電子データ）

上記「学生身上書」のデータを始め、成績評価、学納金納付状況、奨学金受給状況、健康診断結果等の学生個人についての総合的なデータベースである。

学生カルテは学内専用のネットワークにだけ接続している。各々のデータへのアクセス権は細かく設定しており、データの内容ごとに専任教員、事務職員、学生がアクセスできる。

【進路支援について】

(1) 下の進路状況表を例に、過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の就職状況等を学科等ごとに記載して下さい。また進路一覧表等の印刷物があれば参考資料としてご準備下さい。

平成18年度～20年度進路状況表（平成21年3月31日現在） 図表30

幼児教育学科第一部

| 区分 | | 18年度 | | 19年度 | | 20年度 | |
|----|---------------|------|---------------|---------------|---------------|------|--|
| a | 卒業生数 | 117人 | | 126人 | | 102人 | |
| b | 就職希望者数 | b/a | 113人 96.6 (%) | 124人 98.4 (%) | 101人 99.0 (%) | | |
| c | うち学校で斡旋した就職者数 | c/b | 76人 67.3 (%) | 99人 79.8 (%) | 79人 78.2 (%) | | |
| d | うち自己開拓分の就職者数 | d/b | 23人 20.3 (%) | 23人 18.6 (%) | 22人 21.8 (%) | | |
| e | 就職未定者 | e/b | 14人 12.4 (%) | 2人 1.6 (%) | 0人 0 (%) | | |
| f | 進学・留学希望者数 | f/a | 4人 3.4 (%) | 2人 1.6 (%) | 0人 0 (%) | | |
| g | その他 | g/a | 0人 0 (%) | 0人 0 (%) | 1人 1.0 (%) | | |

幼児教育学科第三部

| 区分 | | 18年度 | | 19年度 | | 20年度 | |
|----|---------------|------|--------------|---------------|---------------|------|--|
| a | 卒業生数 | 52人 | | 48人 | | 50人 | |
| b | 就職希望者数 | b/a | 49人 94.2 (%) | 48人 100.0 (%) | 50人 100.0 (%) | | |
| c | うち学校で斡旋した就職者数 | c/b | 33人 67.4 (%) | 35人 72.9 (%) | 37人 74.0 (%) | | |
| d | うち自己開拓分の就職者数 | d/b | 6人 12.2 (%) | 6人 12.5 (%) | 9人 18.0 (%) | | |
| e | 就職未定者 | e/b | 10人 20.4 (%) | 7人 14.6 (%) | 4人 8.0 (%) | | |
| f | 進学・留学希望者数 | f/a | 3人 5.8 (%) | 0人 0 (%) | 0人 0 (%) | | |
| g | その他 | g/a | 0人 0 (%) | 0人 0 (%) | 0人 0 (%) | | |

生活学科生活学専攻・生活情報コース

| 区分 | | 18年度 | | 19年度 | | 20年度 | |
|----|---------------|------|---------------|---------------|--------------|------|--|
| a | 卒業生数 | 25人 | | 15人 | | 22人 | |
| b | 就職希望者数 | b/a | 25人 100.0 (%) | 15人 100.0 (%) | 21人 95.5 (%) | | |
| c | うち学校で斡旋した就職者数 | c/b | 23人 92.0 (%) | 12人 80.0 (%) | 19人 90.4 (%) | | |
| d | うち自己開拓分の就職者数 | d/b | 2人 8.0 (%) | 1人 6.7 (%) | 1人 4.8 (%) | | |
| e | 就職未定者 | e/b | 0人 0 (%) | 2人 13.3 (%) | 1人 4.8 (%) | | |
| f | 進学・留学希望者数 | f/a | 0人 0 (%) | 0人 0 (%) | 1人 4.5 (%) | | |
| g | その他 | g/a | 0人 0 (%) | 0人 0 (%) | 0人 0 (%) | | |

生活学科生活学専攻・養護教諭コース

| 区分 | 18年度 | 19年度 | 20年度 |
|-----------------|--------------|-------------|-------------|
| a 卒業生数 | 32人 | 30人 | 34人 |
| b 就職希望者数 | 32人 100.0(%) | 29人 96.7(%) | 29人 85.3(%) |
| c うち学校で斡旋した就職者数 | 14人 43.8(%) | 13人 44.8(%) | 14人 48.3(%) |
| d うち自己開拓分の就職者数 | 11人 34.4(%) | 11人 37.9(%) | 12人 41.4(%) |
| e 就職未定者 | 7人 21.8(%) | 5人 17.3(%) | 3人 10.3(%) |
| f 進学・留学希望者数 | 0人 0(%) | 1人 3.3(%) | 4人 11.8(%) |
| g その他 | 0人 0(%) | 0人 0(%) | 1人 2.9(%) |

生活学科・食物栄養専攻

| 区分 | 18年度 | 19年度 | 20年度 |
|-----------------|--------------|-------------|-------------|
| a 卒業生数 | 37人 | 38人 | 45人 |
| b 就職希望者数 | 37人 100.0(%) | 36人 94.7(%) | 42人 93.3(%) |
| c うち学校で斡旋した就職者数 | 30人 81.1(%) | 31人 86.1(%) | 33人 78.6(%) |
| d うち自己開拓分の就職者数 | 5人 13.5(%) | 2人 5.6(%) | 6人 14.3(%) |
| e 就職未定者 | 2人 5.4(%) | 3人 8.3(%) | 3人 7.1(%) |
| f 進学・留学希望者数 | 0人 0(%) | 2人 5.3(%) | 2人 4.5(%) |
| g その他 | 0人 0(%) | 0人 0(%) | 1人 2.2(%) |

(2) 学生の就職を支援する組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を記述して下さい。

就職支援組織

就職支援のための教職員の組織としては、「就職委員会」と併設四年制大学と合同の「就職委員会」がある。前者は、教授会で選出された6名の委員（専任教員）から構成され、原則として月1回の委員会を開催している。就職課事務職員2名も担当事務部署として出席する。この委員会では、就職指導、就職情報、就職斡旋に関することを審議している。

また、併設四年制大学と合同の就職委員会は、学長から任命された就職部長を委員長とし、本学と併設四年制大学の各学部就職委員会の委員長・副委員長の計9名で構成される。ここでは、本学と併設四年制大学の就職対策に関する事柄について審議を行っている。

事務組織としては、併設四年制大学と共同の就職課職員として事務職員4名が岐阜キャンパス就職指導室に配置され学生の就職支援にあっている。

そのほか、ゼミ担当専任教員や就職委員と連携を取りながら学生の個別指導の徹底を図っている。

就職試験対策等

岐阜キャンパス就職課では、以下のような就職支援活動を行っている。このほかに、就職先の紹介、履歴書執筆指導などを随時行なっている。

V 【進路支援について】

就職試験対策一覧表 図表 31

| | | |
|---------------------------------------|------------------------------------|--|
| 幼児教育学科第一部・生活学科 1年生 幼児教育学科第三部2年生 | 4月・9月 10月～11月 2月～3月 1月・2月 | 就職ガイダンス 個人面談・企業向け就職対策講座（自己PR・面接マナー・内定者報告会） SPI就職対策講座・本学主催企業ガイダンス 就職合宿 |
| 幼児教育学科第一部・生活学科 2年生 幼児教育学科第三部3年生 | 4月・9月 4～5月 5月・7月 5月 | 就職ガイダンス 個人面談 幼保就職講座 本学主催企業ガイダンス |

さらに、専任教員や学外講師による職種別就職対策講座や資格取得支援講座も実施している。専任教員による講座としては、幼児教育学科第一部・第三部学生を対象とする「就職試験受験教室」がある。学外講師による講座は以下のようなものである。いずれも受講料はテキスト代程度に低く抑えられている。

資格取得支援講座・受験対策講座（平成20年度） 図表 32

| 講座名 | 時期 | コマ数 |
|-------------|--------|-----|
| 秘書技能検定2級 | 4月～6月 | 15 |
| 日本語文章能力検定3級 | 4月～6月 | 12 |
| 3級FP技能士検定 | 9月～10月 | 16 |
| 2級FP技能士検定 | 8月～9月 | 30 |
| 初級シスアド | 9月 | 30 |
| 販売士2級 | 9月 | 22 |
| 医療事務講座 | 8月～9月 | 30 |
| 公務員試験対策講座 | 3月～4月 | 41 |
| 教職採用試験講座 | 2月～3月 | 37 |
| 養護教諭採用試験講座 | 6月～7月 | 9 |

本学主催企業ガイダンス

年に2回、企業ガイダンスを開催している。地元企業を中心として延べ140社ほどが参加し、本学学生と面談をする。大学と会場を結ぶ送迎バスを準備するなどして学生の参加を促している。平成20年度の参加者は生活学科学生を中心として各回80名ほどであった。

企業懇談会

年に1回、企業ガイダンス参加企業の人事担当者と教職員との懇談会を開催している。平成20年度は90社の人事担当者と学長・短期大学部長・就職委員をはじめとする教職員と情報交換を行った。

(3) 就職支援室、就職資料室等の現状を示し、学生にどのように就職情報等を提供しているかを記述して下さい。

就職支援室として、指導室・情報室の2室を設けている。就職指導室は、岐阜キャンパス3号館2階北側にあり、数十名収容の教室程度のスペースを確保している。また就職情報室は、就職指導室に隣接しており、パーティション付き個人面談ブース、就職委員会等各種会議、学生同士の打ち合わせ等のスペースを確保している。

就職情報が全学生に平等に提供されるよう、学生のメールアドレス登録制によりイ

インターネット配信による情報提供を実施している。また就職指導室には、11台のパソコンを設置し、さらに2つのコンピュータ教室の授業時間以外の使用を自由にし、学生が学内において就職情報をタイムリーに取得できるよう便宜を図っている。

(4) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の就職状況について、就職率及び就職先を学長等、学科長等はどのように受け止めているかを記述して下さい。

短期大学部長

過去3ヶ年の就職率（就職者数/卒業生数）は、年々上昇しており、平成20年度では91.7%となっている。また、専門性を生かすことができる職場への就職の割合は、幼児教育学科第一部・第三部ならびに生活学科生活学専攻生活情報コースで高くなっているが、同養護教諭コース、生活学科食物栄養専攻は減少傾向にあり、早急な方策が必要と考えられる。

就職先のほとんどが地元であり、様々な職業を通して、地域社会に貢献できる人材を育成し、輩出していくことが求められている。そのためには、就職先からの卒業生に対する評価を真摯に受け止め、また、卒業生自身からも学習内容についての意見等を受け止め、学習内容やキャリア支援のあり方等について常に検討し、地域社会に有用な人材の養成に努めていかなければならないと考える。

幼児教育学科長

過去3ヶ年の就職率（就職者数/卒業生数）は、第一部においては平成18年度84.6%、平成19年度96.8%、平成20年度99.0%と推移している。第三部においては、平成18年度75.0%、平成19年度85.4%、平成20年度92.0%と推移している。いずれも上昇しており、就職状況は良好であると受け止めている。また、平成20年度における幼稚園・保育園など保育専門職への就職率は、第一部86.3%、第三部74.0%である。そして、過去3ヶ年の卒業生のうち、7.1%（35名）が公立保育職正規採用であるということは評価に値するものであると受け止めている。

生活学科長

生活学科の就職率（就職者数/卒業生数）は、平成18年度より90.4%、84.3%、84.2%と推移している。全国平均の就職率より高い岐阜県と比較しても5～10ポイントは高く就職意欲の高さを感じる。就職先については、生活学専攻・生活情報コースは一般事務職が専門職であり、平成18年度100%、平成19年度86.7%、平成20年度90.9%と高い。生活学専攻養護教諭コースでは養護教諭資格を生かした就職率は平成18年度より34.4%、40.0%と安定した増加傾向にあったが、平成20年度は26.5%と低い。食物栄養専攻においても、栄養士として就職した割合は平成18年度より37.8%、42.1%と増加傾向にあったが、平成20年度は26.7%と著しく低い。平成20年度の養護教諭、栄養士の専門職としての就職率の低下の原因については、学生の資質・能力の問題か社会的情勢によるものかなど、今後究明する必要がある。その他は地域の有力企業に一般事務職として就職しており、全体の就職率としては高く評価している。

V【多様な学生に対する支援について】

(5) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の進学（四年制大学、専門学校等）及び海外留学の実績について、その支援はどのような方法、体制で行ったかを記述して下さい。

併設四年制大学への編入学制度を設けており、出願期間前に説明会を実施している。各大学からの編入学募集要項等は、就職課で自由に閲覧できるようにしている。平成20年度卒業生においては、他大学等への編入学試験受験者は5名おり、3名が合格し編入した。なお、過年度卒業生（平成17年度）の1名も合格した。

海外留学については、最近3年間の実績はない。

進学及び留学の実績（平成18年度～20年度） 図表 33

| 区 分 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 計 |
|----------------|------|------|------|---|
| 大学（併設四年制大学）（人） | 1 | 1 | 0 | 2 |
| 大学（人） | 2 | 2 | 1 | 5 |
| 他短期大学（人） | 1 | 0 | 2 | 3 |
| 専門学校等（人） | 3 | 2 | 4 | 9 |
| 海外留学（人） | 0 | 0 | 0 | 0 |

【多様な学生に対する支援について】

(1) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の留学生・社会人・帰国子女・障害者・長期履修学生・科目等履修生の受け入れ状況を示し、その学習支援、生活支援はそれぞれどのような方法、体制で行っているかを記述して下さい。なお、学生数はいずれの年度も5月1日時点とします。

多様な学生の受け入れ状況（平成18年度～20年度） 図表 34

| 種 別 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 計 |
|-----------|------|------|------|----|
| 留学生（人） | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 社会人（人） | 3 | 2 | 5 | 10 |
| 帰国子女（人） | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 障害者（人） | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 長期履修学生（人） | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 科目等履修生（人） | 0 | 3 | 1 | 4 |

社会人の定義（受験資格）：（平成20年度入試の場合）

平成20年4月1日の時点で満23歳以上の者で社会人として経歴を有し、次のいずれかに該当する者

1. 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び平成20年3月卒業見込みの者
2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成20年3月修了見込みの者
3. 学校教育法施行規則第69条の規定により高等学校又は中等教育学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成20年3月31日までにこれに該当する見込みの者

社会人学生に対しての特別な学習支援は行っていないが、大学をすでに卒業している新入生については、学生が入学する前に他の短期大学、大学等の教育施設において修得した単位を、本学での履修により修得したものとみなし、30単位を限度として認めている。

【特記事項について】

(1) この「V 学生支援」の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、学生の個人情報保護への取組み、成績不良者への支援、長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等、学生支援について努力していることがあれば記述して下さい。

学生の個人情報保護への取組み

個別の学生に対する連絡において、掲示板に学籍番号のみの表示をし、該当の事務部署の窓口に来てもらうようにしている。学籍番号を掲示する連絡方法については、事前に学生の同意を取っている。平成20年度からは、メールアドレスを利用した連絡のシステム化を図っている。

成績確認書の配付、証明書の受け渡し等においては、学生証で本人確認を行っている。

成績不良者への支援および長期欠席者への援助

指導担任が中心となると共に短期大学部事務室も補助する形で、対象学生を把握し可能な限り連絡を取り、援助できるように心掛けている。

学生に対する表彰制度等

卒業時における表彰 図表 35

| 表彰名 | 表彰母体 | 表彰基準 |
|-----------------|-----------------|---|
| 聖徳学園賞 | 本学 | 卒業生全員中成績1番 |
| 本願寺賞 | 浄土真宗本願寺派 | 同 2番 |
| 日本仏教保育協会賞 | (社) 日本仏教保育協会 | 幼児教育学科第一部で仏教系の幼稚園・保育所に就職が内定している者の中の成績1番 |
| 全国保育士養成協議会会長表彰 | (社) 全国保育士養成協議会 | 幼児教育学科第三部で児童福祉施設の「保育士」として就職する者の中の成績1番 |
| 全国栄養士養成施設協会会長表彰 | (社) 全国栄養士養成施設協会 | 生活学科食物栄養専攻で栄養士資格を取得する者の中の成績1番 |
| 短期大学部長賞 | 本学 | 上記の賞以外の各学科・専攻・コースの成績上位者 |

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

V 資料

〈参考資料〉

1. 募集要項、入学案内等

入学試験要項

添付資料Ⅶ-1と同じ

参考資料Ⅴ-1-1：入学願書

参考資料Ⅴ-1-2：過去2年間出願高等学校一覧及び入試問題集『入試ガイド』

2. 入学手続き者に対する入学までの情報提供のための印刷物等

参考資料Ⅴ-2-1：『入学手続Ⅰ・Ⅱ』

3. 学習や科目選択のための印刷物

添付資料Ⅰ-5と同じ

4. 学習支援のための学生の個人情報を記録する様式

参考資料Ⅴ-4-1：学生身上書

参考資料Ⅴ-4-2：健康管理カード

参考資料Ⅴ-4-3：学生カード

5. 進路一覧表等の実績（過去3ヶ年）についての印刷物

参考資料Ⅴ-5：『2009就職状況レポート』

6. その他

参考資料Ⅴ-6-1：時間割

参考資料Ⅴ-6-2：『一般教育科目 並列開講科目の登録方法について（学生連絡文書）』

参考資料Ⅴ-6-3：授業欠席状況調査

参考資料Ⅴ-6-4：『学生相談室のご案内』

参考資料Ⅴ-6-5：『平成20年度課外活動報告書』

参考資料Ⅴ-6-6：『事務システム権限一覧』

《VI 研究》

【教員の研究活動全般について】

(1) 次の「専任教員の研究実績表」を例にして過去3ケ年（平成18年度～20年度）の専任教員の研究状況を記載しその成果について記述して下さい。

専任教員の研究実績表（平成18年度～20年度） 図表 36

| 学科等名 | 氏名 | 職名 | 研究業績 | | | | | 国際的 活動の 有無 | 社会的 活動の 有無 | 備考 |
|--------------------|---------|------|------|-----|------------|--------------|-----|------------------|------------------|----|
| | | | 著作数 | 論文数 | 学会等 発表数 | 展覧会・ 演奏会等 | その他 | | | |
| 幼児教育 学科第 一部 | 小島 基弘 | 教授 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 無 | 有 | |
| | 田中まさ子 | 教授 | 3 | 3 | 1 | 0 | 0 | 無 | 有 | |
| | 林 秀雄 | 教授 | 1 | 1 | 0 | 0 | 9 | 無 | 有 | |
| | 仲野 悦子 | 教授 | 1 | 4 | 4 | 0 | 0 | 無 | 有 | |
| | 児玉 俊郎 | 准教授 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 | 無 | 有 | |
| | 熊田 武司 | 准教授 | 0 | 3 | 0 | 53 | 6 | 無 | 有 | |
| | 丸山 京子 | 専任講師 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 無 | 有 | |
| | 石田 開 | 専任講師 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 無 | 無 | |
| 幼育第 児学三 教科部 | 山下 晋 | 専任講師 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 有 | 有 | |
| | 阪田 順子 | 教授 | 1 | 2 | 0 | 0 | 9 | 無 | 有 | |
| | 徳広 圭子 | 准教授 | 3 | 3 | 0 | 0 | 2 | 無 | 有 | |
| 生 活 学 科 | 鍵小野美和 | 専任講師 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 無 | 無 | |
| | 梅津 博紀 | 教授 | 1 | 9 | 2 | 0 | 2 | 無 | 有 | |
| | 新田 米子 | 教授 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 無 | 有 | |
| | 高木 瞳 | 教授 | 1 | 2 | 0 | 0 | 1 | 有 | 有 | |
| | 前田 尚子 | 教授 | 2 | 4 | 0 | 0 | 1 | 無 | 有 | |
| | 鷺野 嘉映 | 教授 | 0 | 4 | 4 | 0 | 0 | 無 | 無 | |
| | 齋藤 治俊 | 准教授 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 無 | 有 | |
| | 古橋 優子 | 准教授 | 1 | 4 | 2 | 0 | 0 | 無 | 有 | |
| | 本多 恭子 | 准教授 | 0 | 11 | 5 | 0 | 0 | 無 | 有 | |
| | 糟谷 咲子 | 准教授 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 無 | 無 | |
| | 西脇 泰子 | 専任講師 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 無 | 無 | |
| 一教 般職 教 育 | 長谷川 信 | 専任講師 | 0 | 8 | 2 | 0 | 0 | 無 | 無 | |
| | 田崎 勝成 | 専任講師 | 0 | 4 | 1 | 0 | 0 | 無 | 有 | |
| | 寺澤 幸恭 | 教授 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 無 | 無 | |
| | G. ホワイト | 教授 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 無 | 無 | |
| | 蜷川 祥美 | 教授 | 0 | 3 | 1 | 0 | 1 | 有 | 有 | |
| | 横井 仁史 | 准教授 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 無 | 無 | |
| 長野 郁也 | 准教授 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 無 | 有 | | |
| | 松田 繁樹 | 専任講師 | 1 | 9 | 31 | 0 | 0 | 無 | 無 | |

研究業績については、個々の専任教員によって差異が見られ、全体としては十分に満足のいく成果を上げているとはいえないが、多くの授業を担当し、その準備にも時間を割き、あわせて学内の分掌等に割かれる時間とエネルギーを考慮すれば、多くの専任教員は精一杯の努力をしていると思われる。

研究活動の少ない専任教員については、研究時間の確保や外部資金の導入等の工夫

VI【教員の研究活動全般について】

を行い、研究成果を上げることが期待される。個々の専任教員の努力と併せて大学としての多面的なバックアップをはかることも求められる。

(2) 教員個人の研究活動の状況を公開していれば、その取組みの概要を記述し、公開している印刷物等を訪問調査の際にご準備下さい。

教職員一覧

本学ホームページの教育職員一覧に各専任教員の研究活動の状況として「2003年3月以前の主な学術業績」「2003年4月以降の主な学術業績」に分けた内容で、著書、論文、学会発表、作品発表について掲載公開している。同じ内容で『教育職員一覧 2009』として、学内に製本配付している。

岐阜聖徳学園大学短期大学部研究紀要

「【研究のための条件について】 p.80」に記載。

(3) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の科学研究費補助金（以下「科研費」という。）の申請・採択等、外部からの研究資金の調達状況（件数）を一覧表にして下さい。

外部研究資金の申請・調達状況（平成18年度～20年度） 図表 37

| 外部資金調達先等 | | 平成18年度 | | 平成19年度 | | 平成20年度 | |
|------------|-----------------------------|--------|----|--------|----|--------|----|
| | | 申請 | 採択 | 申請 | 採択 | 申請 | 採択 |
| 科学研究費補助金 | | 6 | 2 | 2 | 1 | 4 | 1 |
| その他の外部研究資金 | (株)山田養蜂場 「みつばち研究助成」 | — | — | — | — | 1 | 1 |
| | 教学研究資金助成(財団法人 本願寺教学助成財団) | — | — | — | — | 1 | 1 |

(4) 学科等ごとのグループ研究や共同研究、短期大学もしくは学科等の教育に係る研究の状況について記述して下さい。

幼児教育学科

幼児教育学科第一部・第三部では、『岐阜保育研究会』を主催している。平成20年度は18回の『保育者のための実践講座』と1回の研究大会（第9回）を開催した。その中で、岐阜県内外の保育者や卒業生に対して、グループ研究・共同研究ではないが、各専任教員の研究成果の教授や発表を行っている。

生活学科

生活学科としてのグループ研究・共同研究は行っていない。

【研究のための条件について】

(1) 研究費（研究旅費を含む）についての支給規程等（年間の支出限度額等が記載されているもの）を整備していれば訪問調査時に拝見します。なお、規程等を整備していない場合は、過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の決算書から研究に係る経費を項目（研究費、研究旅費、研究に係る施設、機器・備品等の整備費、研究に係る図書等）ごとに抽出し一覧表にして参考資料として準備して下さい。

研究費の項目別決算額（平成18年度～20年度） 図表 38

| 科目 \ 年度 | | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 |
|-------------|-------|------------|------------|------------|
| 研 究 費 | 印刷製本費 | 141,712 | 186,429 | 312,080 |
| | 雑費 | 487,077 | 406,819 | 461,091 |
| | 修繕費 | 29,820 | 102,480 | 76,615 |
| | 諸会費 | 1,339,385 | 1,208,455 | 1,266,530 |
| | 消耗品費 | 7,178,114 | 7,275,473 | 7,741,087 |
| | 通信運搬費 | 575,180 | 146,779 | 162,810 |
| | 公租公課 | 0 | 0 | 15,000 |
| | 支払報酬 | 174,583 | 10,000 | 0 |
| | 保守点検料 | 31,500 | 36,750 | 0 |
| | 賃借料 | 0 | 97,500 | 0 |
| | 計 | 9,957,371 | 9,470,685 | 10,035,213 |
| 研究旅費 | | 3,160,470 | 3,093,440 | 2,119,980 |
| 機器備品 | | 1,287,400 | 1,007,125 | 1,207,622 |
| 図書 | | 809,987 | 1,462,100 | 1,104,589 |
| 合計 | | 15,215,228 | 15,033,350 | 14,467,404 |

単位：円

(2) 教員の研究成果を発表する機会（学内発表、研究紀要・論文集の発行等）の確保について、その概要を説明して下さい。なお過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の研究紀要・論文集を訪問調査の際に拝見いたしますのでご準備下さい。

研究紀要

毎年度、紀要委員会より発行している。毎年9月末日を締め切りとし、翌年2月末日に刊行している。平成20年度は、平成21年2月27日に第四十一集を発行した。専任教員単独研究論文を6本、共同研究論文を3本掲載した。228カ所に送付した。

学術研究助成

応募専任教員に対し、厳正な審査を経て、年間220万円以内の研究助成を行い、助成を受けた専任教員は研究完了後2年以内に、その研究成果を、学会誌、本学研究紀要その他に発表するようになっている。

学術図書出版助成

応募専任教員に対し、厳正な審査を経て、併設四年制大学と合わせて300万円以内の学術図書出版助成を行い、学術図書の出版助成をしている。

学内発表

幼児教育学科第一部・第三部の主催する岐阜保育研究会において、年1回『保育研究大会』を開催し、学内のみならず、学外にも広く研究成果を発表している。

VI【研究のための条件について】

(3) 教員の研究に係る機器、備品、図書等の整備状況について、平成20年度の決算よりその支出状況を記述して下さい。また訪問調査の際の校舎等案内時に教員の研究に係る機器、備品、図書等の状況を説明して下さい。

機器・備品等の整備状況（平成20年度） 図表 39

| 分類 | 数量 | 取得価格 |
|--------|-----|------------|
| OA機器関係 | 33 | 9,441,832 |
| 機械 | 231 | 2,416,669 |
| 器具 | 22 | 12,202,111 |
| 標本 | 38 | 6,279 |
| 模型 | 7 | 110,419 |
| 計 | 331 | 24,177,310 |

単位：円

平成20年度図書整備状況 整備 36,627,750円 除却 487,972円

(4) 教員の教員室、研究室または研修室、実験室等の状況を記述して下さい。なお訪問調査の際に研究室等をご案内願います。

専任教員は、一人一部屋の研究室が割り当てられている。

2号館7階に集中して配置している他、音楽関係は実技館2階、美術関係は1号館4階、情報関係は2号館5階、生活学科生活学専攻養護教諭コースは1号館1階、生活学科食物栄養専攻は1号館3・2階に配置している。

研究室一覧 図表 40

| 幼児教育学科第一部 | | | 幼児教育学科第三部 | | | 生活学科生活学専攻 | | |
|---------------|-------|-------|---------------|-------|-------|--------------|-------|-------|
| 室名 | 場所 | 面積㎡ | 室名 | 場所 | 面積㎡ | 室名 | 場所 | 面積㎡ |
| 美術（小島）研究室 | 1号館4階 | 36.58 | レッスン室1（阪田）研究室 | 実技館2階 | 31.50 | 学校保健学（齋藤）研究室 | 1号館1階 | 33.36 |
| 田中研究室 | 2号館7階 | 17.40 | 徳広研究室 | 2号館7階 | 17.40 | 看護学（田崎）研究室 | 1号館1階 | 33.36 |
| 林研究室 | 2号館7階 | 17.40 | 鍵小野研究室 | 2号館7階 | 17.40 | 糟谷研究室 | 2号館5階 | 30.16 |
| 児玉研究室 | 2号館7階 | 17.40 | | | | 長谷川研究室 | 2号館5階 | 30.16 |
| 熊田研究室 | 2号館7階 | 17.40 | | | | 新田研究室 | 2号館7階 | 17.40 |
| 石田研究室 | 2号館7階 | 17.40 | | | | 前田研究室 | 2号館7階 | 17.40 |
| 山下研究室 | 2号館7階 | 17.40 | | | | 鷺野研究室 | 2号館7階 | 17.40 |
| レッスン室2（仲野）研究室 | 実技館2階 | 33.75 | | | | | | |
| レッスン室3（丸山）研究室 | 実技館2階 | 33.75 | | | | | | |
| 生活学科食物栄養専攻 | | | 一般教育・教職 | | | | | |
| 室名 | 場所 | 面積㎡ | 室名 | 場所 | 面積㎡ | | | |
| 栄養指導（西脇）研究室 | 1号館2階 | 50.40 | 寺澤研究室 | 2号館7階 | 17.40 | | | |
| 生化・栄養学（梅津）研究室 | 1号館3階 | 33.12 | G.おひ研究室 | 2号館7階 | 17.40 | | | |
| 食品学（高木）研究室 | 1号館3階 | 32.76 | 蛭川研究室 | 2号館7階 | 17.40 | | | |
| 調理学（古橋）研究室 | 1号館3階 | 32.76 | 横井研究室 | 2号館7階 | 17.40 | | | |
| 臨床栄養学（本多）研究室 | 1号館3階 | 33.12 | 長野研究室 | 2号館7階 | 17.40 | | | |
| | | | 松田研究室 | 2号館7階 | 17.40 | | | |

実験室等としては、生活学科食物栄養専攻の専任教員が主に研究として使用する下記の部屋があるとともに、主に授業で使用する実験室・実習室も研究の場として使用している。

実験室等一覧 図表 41

| 室名 | 場所 | 面積㎡ |
|-------|-------|-------|
| 共同実験室 | 1号館3階 | 33.12 |
| 実験準備室 | 1号館3階 | 33.12 |
| 測定室 | 1号館3階 | 32.76 |

VI【特記事項について】資料

(5) 教員の研修日等、研究時間の確保の状況について記述して下さい。

就業規則に基づき、専任教員は、1週間に4日以上の出勤を原則としている。多くの専任教員が1日の研修日をとっている。業務に支障のない限り、学外での研修を行うことができる。研修日は、本人の希望を基に調整することになっているが、水曜日は学内の会議日となっており、研修日は水曜日を除く曜日となっている。

しかし、時間割の都合、公務が多忙などにより研修日を確保できない専任教員も存在する。また、研修日を設定してあっても、実習先への訪問などのために研修時間を確保できない場合も多々ある。今後、研究時間、研修日を確保するために、授業、校務等との調整をどのようにしていくかが課題である。

【特記事項について】

(1) この「VI研究」の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教員の研究について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし

(2) 特別な事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし

〈参考資料〉

1. 教員個人の研究業績書（過去3ヶ年）

参考資料Ⅲ-1と同じ

2. 教員の研究活動について公開している印刷物等（過去3ヶ年）

参考資料VI-2-1：『教育職員一覧』2007～2009年度

参考資料VI-2-2：HP記載「<http://www.shotoku.ac.jp/gakubu/tandai/index.html>」

3. 研究費（研究旅費を含む）等の支給規程等（規程がない場合は実績の一覧表）

参考資料VI-3-1：支給実績一覧表

参考資料VI-3-2：『短期大学部研究助成規程』（学校法人聖徳学園例規集）

参考資料VI-3-3：『学術図書出版助成金交付規程』（学校法人聖徳学園例規集）

4. 過去3ヶ年の研究紀要・論文集

参考資料VI-4：『岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要』第三十九集（2007）～第四十一集（2009）

Ⅶ【社会的活動への取組みについて】

《Ⅶ 社会的活動》

【社会的活動（国際的活動は別項で記述）への取組みについて】

(1) 社会的活動への取組みについて、その理念や方針等、教育・研究における位置づけについて、短期大学ではどのように考え、また今後どのように取組む予定かを記述して下さい。

学則第58条「生涯教育」では、「地域の生涯教育の一環として、公開講座等本学の教育研究、施設設備を社会人に開放することができる。」となっている。公開講座委員会規程が、平成4年4月1日施行された。第1回の公開講座が、平成5年11月20日に実施され、以後、毎年本学主催の公開講座が実施されている。また、本学と併設四年制大学とが参加したエクステンションセンターが平成16年度開設され、本学としては、独自主催の公開講座とエクステンションセンター主催の講座とを提供している。

また、幼児教育学科第一部・第三部主催の『岐阜保育研究会大会』および『保育者のための実践講座』を平成12年度から開催している。『岐阜保育研究会大会』は、年1回開催され、地域の保育者および乳幼児を持つ保護者を対象に、共に子育てについて学びあうことを目的としたものである。『保育者のための実践講座』は、地域の保育者を対象とした研修会であり、幼児教育学科第一部・第三部の教員が講師を務め、現職保育者の研鑽を積む場となっている。

このような取組は、本学が教育、研究の場であると同時に、生涯学習機関としての役割を担うことが社会から求められていることから生まれたものである。生涯学習に対する社会的ニーズに答えることは、本学が社会との連携、協力を行うことであり、そのことによって、本学の教育、研究の推進が図られ、同時に、研究等の成果を社会に還元することに繋がるものとする。

しかしながら、現状を見ると、本学が擁する教育環境や知的資源を、十分に提供できているとはいえない。より開かれた大学をめざすためにも、多様な学習機会を提供し、地域社会との交流を深め、地域の人々の生涯学習を支援することが必要であると考えている。

(2) 社会人受け入れの状況について、生涯学習の観点から短期大学では社会人の受け入れを今後どのように考えているかを記述して下さい。

社会人入試を取り入れており、また、科目等履修生制度を設け、社会人の学習支援を行っている。さらに、公開講座を平成5年度から開講し、社会人の生涯学習の支援を行ってきている。

社会人入試、科目等履修生制度は、個人のキャリア形成のニーズに対応しており、少しずつではあるが、社会人の入学者が増えてきている。社会人学生は、目的意識がはっきりしており、まわりの学生に対して好影響を与えている。学生全体の学習効果にとっても社会人学生の存在は大きく、社会人の受入れを制約させる理由はないと考えている。今後は、18歳人口の減少がさらに加速し入学生の確保が一層厳しくなることが予想される。一方で、職業人のキャリアアップが求められ、新たな資格取得や知

VII 【社会的活動への取組みについて】

識を身に着けようとする社会人が増加すると思われる。そのような多様な要求を持った社会人に対応できる体制を整えることは急務といえる。

(3) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)に短期大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況を記述して下さい。

公開講座は、公開講座委員会で企画し毎年行っている。本学が行った過去3ヶ年の実施状況を下表に示した。

生涯学習は、併設四年制大学と合同でエクステンションセンターが企画し行っており、本学の専任教員も講座を担当している。

平成21年度からの生涯学習と公開講座は、エクステンションセンターが企画して本学と併設四年制大学が合同の形式で開催することになっている。

正規授業の解放は、各年度3科目程度の科目をネットワーク大学コンソーシアム岐阜の授業と兼ねる形で行っている(《Ⅱ教育の内容》【特記事項について】p.28参照)。

公開講座状況(平成18年度～20年度) 図表 42

| 年 度 | 開催日 | 講 座 名 | 受講者数：人 |
|--------|------------|----------------------------------|--------|
| 平成18年度 | 平成18年8月19日 | 『コンピュータで楽しむ』 インターネット | 23 |
| | 平成18年9月2日 | 『コンピュータで楽しむ』 写真 | 36 |
| | 平成18年9月9日 | 『コンピュータで楽しむ』 起業 | 10 |
| | 平成18年9月16日 | 岐阜県産の食材を使って | 34 |
| 平成19年度 | 平成19年9月15日 | 日常生活と健康管理－健康度(骨密度、体脂肪)を測定してみませんか | 26 |
| | 平成19年9月15日 | 仏教の生命観 | 29 |
| 平成20年度 | 平成20年9月6日 | 心の健康～メンタルヘルスケア～ | 25 |
| | 平成20年9月13日 | コンピュータで楽しむ写真 | 22 |
| | 平成20年9月27日 | 玄奘三蔵、求法(ぐぼう)の旅 | 18 |

(4) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の短期大学と地域社会(自治体、商工業、教育機関、その他団体等)との交流、連携等の活動について記述して下さい。

幼稚園・保育園と連携した支援活動

在学生の教育実習・保育実習を円滑に行うために、学生の専門職就職を高めるために、そしてさらには学生が就職した幼稚園・保育園とのより密接な連携を保つことを目的として、本学と岐阜県内幼稚園・保育園123園からなる「聖徳会」という組織を作っており創設以来20年余が経過している。「聖徳会」では、特に卒業生支援活動に力を入れており、『幼保新任者公開研修会』と『中堅教諭・保育士研修会』を毎年開催している。『幼保新任者公開研修会』は、幼稚園、保育園への就職内定者を対象に、学科と聖徳会が主体となり、2日間の研修を企画・実行するもので、平成11年度より開始したものである。幼稚園教諭と保育士が共に学ぶという点に、また現場の問題と教育・研究上の問題を互いに出し合い、そこから研修内容を作りだしていく点に、本研修の意義がある(参加者：100名前後)。『中堅教諭・保育士研修会』は、平成15年度に「聖徳会10年経験者研修会」としてスタートした研修会で、平成17年度より本研修会の名称に改めたこの研修会の目的は、変革する社会に対応するため職場環境の

VII【学生の社会的活動について】

改善に努める工夫、および職場のリーダーとしての資質向上を図ることである。参加者の研修課題をもとにテーマや内容が決められ、問題解決のための資料提供やグループ討議など参加型研修である（参加者：20名前後）。

岐阜保育研究大会

平成12年度より幼児教育学科第一部・第三部主催で、保育に関わる人々に対し研究発表等を含めた研究大会を年1回開催しており、平成20年度で9回の開催になった。参加者は約500名にのぼる。教員・学生・卒業生の働きも大きく、地域社会との関わりも深くなってきている。

保育者のための実践講座

平成12年度より、主に地域の保育関係者のために、幼児教育学科第一部・第三部の全専任教員が担当し、年間10数回にわたり、実践のための講座を設けている。平成20年度は、18講座の内2講座の会場を学外に設け、出張講座を開催した。県下の保育関係者の本講座に対する信頼度も徐々に増している。

栄養士関係研修

生活学科食物栄養専攻では、社団法人岐阜県栄養士会と連携して栄養士・管理栄養士の卒後教育として生涯学習研修会の企画と、本学施設での研修会開催に協力してきている。栄養士養成校として栄養士・管理栄養士の資質向上を支援する大学として、社会的に評価・認知されつつある。

【学生の社会的活動について】

(1) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況を記述して下さい。

学生が個人的に実施あるいは参加しているボランティア活動等の状況は把握できていない。学生による地域活動、地域貢献、ボランティア活動はクラブ活動として展開されている。

この活動に位置づく活動を実施したクラブは図表43に記載した4つのクラブである（「保育内容研究会ピッコロ」については、平成20年度はサークル員が他のサークルと兼ねていたため、独自の活動としては集計していない）。各クラブの社会的活動回数は下記の通りであった。それらのほとんどが「地域活動・地域貢献・ボランティア活動」としての役割を果たしている。

クラブ活動の社会的活動状況（平成18年度～20年度） 図表 43

| 年 度 | クラブ名 | 活 動 状 況 | 回数 |
|--------|-------------|------------------|----|
| 平成18年度 | 人形劇ぶんちく | 県民文化祭、幼稚園等での上演 | 9 |
| | 福祉部 | 介護ボランティア、福祉事業団協力 | 3 |
| | おりがみ部 | 子供カーニバル、おりがみ教室等 | 17 |
| | ベルチャイム部 | 保育園・幼稚園、地域イベント等 | 9 |
| 平成19年度 | 人形劇ぶんちく | 県民文化祭、幼稚園等での上演 | 7 |
| | 福祉部 | まつりや学習のボランティア | 20 |
| | おりがみ部 | 子供カーニバル、おりがみ教室等 | 9 |
| | ベルチャイム部 | 保育園・幼稚園、地域イベント等 | 10 |
| | 保育内容研究会ピッコロ | 地域イベント | 1 |

VII【学生の社会的活動について】

| 年 度 | クラブ名 | 活 動 状 況 | 回数 |
|--------|-------------|-----------------|----|
| 平成20年度 | 人形劇ぷんちく | 幼稚園等での上演 | 5 |
| | 福祉部 | まつりや学習のボランティア | 8 |
| | おりがみ部 | おりがみ教室等 | 11 |
| | ベルチャイム部 | 保育園・幼稚園、地域イベント等 | 10 |
| | 保育内容研究会ビッコロ | 地域イベント | 0 |

活動内容の詳細は「参考資料・平成20年度課外活動報告書」にまとめてあるが、各部の代表的活動内容は以下のようである。

○人形劇ぷんちく

9月19日（金）「あなたのもとへ人形劇を出前します」（萩原中保育園・湯屋保育園にて、学生7名参加）・・・「人形劇を上演」とすると共に、保育園児に人形の動かし方等を指導した。

○福祉部

7月6日（日）「七夕バイキング活動への参加と手伝い」（知的障害者施設・桜美寮にて、学生6名参加）・・・イベントにボランティアとして参加し、バイキングの準備や後片付けを行った。更に余興出し物として、「お絵書きクイズ」「紙芝居」などを入所者やその保護者等に見ていただいた。

○おりがみ部

8月18日（月）「おりがみで遊ぼう」（芥見第二幼稚園にて、学生12名参加）・・・幼稚園児に「夏」をテーマにした作品をおりがみを使って表現する制作を指導した。

○ベルチャイム部

2月7日（水）「ベルチャイムコンサート」（特別養護老人ホーム「優・悠・邑」にて、学生10名参加）・・・入所者に「ふるさと」等の懐かしい曲のベルチャイム演奏を行った。一緒に歌ったり、ベルチャイム体験をしてもらったりして、楽しい時間を共有した。

地域の各団体やイベントとの連携が定着しており、相互に年間計画に位置付けられた安定的な活動が展開されている。上記以外にも学友会が主催する「盆踊り大会」「クレマチス祭（学園祭）」では地域の諸団体との連携が図られている。

(2) 短期大学では学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述してください。

学生の地域活動やボランティア活動等については、学生自身の人間形成に有効な機会であると共に本学や学生の社会的役割の一つとして大きな意義を認めている。また、特に幼児教育学科第一部・第三部で学ぶ学生にとっては、学生自身の専門知識や技能を練磨する活動であると捉えている。

(1) で示したように、学生の地域活動、地域貢献、ボランティア活動は、クラブ活動を中心に実施されている。そのため、関連するクラブ活動に対する指導や支援を行うことが重要であると考えている。例年5月と11月には、クラブ活動リーダーを対象にした『リーダー研修会』を実施し、リーダーとしての資質向上を図ると共にボランティア活動等の意義を認識する活動を展開している。また、クラブ活動に多数の

Ⅶ【国際交流・協力への取り組みについて】【特記事項について】

学生が参加するように勧めている。特に新入生に対するクラブ活動紹介の機会として、新入生全員が参加する『本山参拝（浄土真宗本願寺派本願寺への入学奉告参拝）』の際に、行き帰りのバス車中でビデオによりクラブ紹介を行うことが通例となっており、新入生は強い関心を示している。平成16年度以降、同じキャンパスの併設四年制大学経済情報学部との課外活動交流が促進され、学友会行事やクラブ活動を共同実施するようになり、地域活動、地域貢献等を目的とした活動は、質量ともに充実してきており、その流れを評価している。

【国際交流・協力への取組みについて】

(1) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の学生の海外教育機関等への派遣（留学〈長期・短期〉を含む）の状況を記述して下さい。

一般教育科目の「国際交流」において、平成18年度から20年度までの3ヶ年は、オーストラリアで約2週間の研修を実施した。参加学生は、平成18年度22人、19年度12人、20年度12人であった。研修内容は、英語研修、オーストラリアの就学前教育機関であるプレスクールでの実習、特別支援学級の児童との交流等である。

(2) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の短期大学と海外教育機関等との交流の状況を記述して下さい。

過去3ヶ年、海外教育機関等との交流の実績はない。

併設四年制大学では、海外の教育機関との交流を行ってきている。その実績を踏まえ本学としても海外の教育機関との交流を図ることが望まれる。

(3) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況を記述して下さい

教職員においては、過去3ヶ年、留学あるいは国際会議出席等はない。なお、併設四年制大学の3学部との持ち回りで、教職員の海外への派遣が規定されている。

【特記事項について】

(1) この《Ⅶ社会的活動》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば高大連携等の他の教育機関との連携、外国人への日本語教育等、社会的活動について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし

(2) 特別な事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし

〈添付資料〉

1. 社会人受け入れについての印刷物等
- 添付資料Ⅶ－1：入学願書（社会人特別選抜入試）

〈参考資料〉

1. 海外留学希望者に向けた印刷物

 2. その他
- 参考資料Ⅶ－2－1：『平成20年度公開講座案内』
- 参考資料Ⅶ－2－2：『岐阜保育研究大会第9回大会（平成20年度）要項集』
- 参考資料Ⅶ－2－3：『平成20年度保育者のための実践講座案内』
- 参考資料Ⅶ－2－4：『平成20年度聖徳会幼保新任者公開研修会報告集』
- 参考資料Ⅶ－2－5：『学校法人聖徳学園教育職員及び事務職員の学外研修に関する規程』
（学校法人聖徳学園例規集）

Ⅷ 【法人組織の管理運営体制について】

《Ⅷ 管理運営》

【法人組織の管理運営体制について】

(1) 短期大学を設置する法人のトップである理事長は、短期大学の運営に対して適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る重要事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで理事長はどのように関与しているかを、できれば理事長自身が率直に現状を記述して下さい。

重要事項の決定は理事会決定事項と教授会決定事項に大別されるが、理事会提案事項については、理事長が予め学長・短期大学部長を中心に問題点を精査するよう指示をし、教授会・評議会・部長会等の意見を集約整理し理事会に提案する。理事会決定事項については、理事長名で学長宛に通知し教職員に周知を図っている。

教授会決定事項については、出来る限り尊重するが、時として理事長のリーダーシップのもと、再考を喚起することもある。

(2) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の理事会の開催状況（主な議案、理事の出席状況等を含む）を下表を例に開催日順に記述して下さい。加えて理事会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。平成21年5月1日現在の理事・監事・評議員名簿等を準備し、理事の構成に著しい偏りがないことをお示し下さい。また理事会議録は必要に応じて閲覧いたします。

理事会は、寄附行為第3章に定義されているが、第16条第1項で、「この法人に、理事をもって組織する理事会を置く。」とし、第2項で、「理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。」と目的を謳っている。理事会を開催し、議決をするためには理事総数の過半数の出席が必要となるが、第10項で、「理事会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意思表示した者は出席とみなす。」としている。

理事総数は、第6条で、12人から13人までと人数を規定し、第7条で、第1項第1号の学長以下、それぞれ選任条項を設けている。

理事会開催状況（平成18年度～20年度） 図表 44

平成18年度理事会

| 年 | 月 | 日 | 主な議案 | 出席者数 | 定数 |
|----|---|----|---|------|----|
| 18 | 4 | 11 | 1. 平成18年度大学（短期大学部）教育職員の補充採用人事（案）について 2. 聖徳学園「事務職員人事委員会規程」（案）について 3. 聖徳学園「事務職員役職任用及び移動基準」（案）について 4. 聖徳学園「事務引継規程」（案）について 5. 寄附行為に基づく理事長職務の代理等について | 11 | 13 |
| 18 | 4 | 25 | 1. 附属小学校1学年2学級編成に伴う学則変更（案）について 2. 聖徳学園将来構想改革ロードマップ・アクションプラン理事会1次提案にかかる清翔高等学校の回答について 3. 清翔高等学校教職員組合春季要求及び聖徳学園理事会要求について 4. 聖徳学園「事務職員役職任用及び異動基準」施行に伴う「職員昇任基準」の廃止（案）について | 11 | 13 |

Ⅷ【法人組織の管理運営体制について】

| 年 | 月 | 日 | 主な議案 | 出席者数 | 定数 |
|----|----|----|--|------|----|
| 18 | 5 | 16 | 1. 清翔高等学校教職員組合春季要求に係る回答（案）について 2. 幼保一元化「認定こども園」の設置に係る附属幼稚園のあり方について | 12 | 13 |
| 18 | 5 | 30 | 1. 平成17年度収支決算（案）について 2. 平成17年度監査報告について | 11 | 13 |
| 18 | 6 | 13 | 1. 聖徳学園継続雇用制度に関する規程（案）について 2. 大学教育職員に係る人事（案）について 3. 聖徳学園宗教委員会規程の一部改正（案）について 4. 岐阜聖徳学園大学教育学部学校心理課程の設置について 5. 清翔高等学校協議会設置（案）について | 11 | 13 |
| 18 | 7 | 11 | 1. 継続雇用制度に関する規程（案）について 2. 聖徳学園就業規則の一部改正（案）について | 10 | 13 |
| 18 | 9 | 12 | 1. 岐阜聖徳学園大学附属小学校学則変更の修正（案）について 2. 平成19年度大学（経済情報学部）教育職員補充人事（案）について | 10 | 13 |
| 18 | 10 | 10 | 1. 聖徳学園将来構想改革ロードマップ・アクションプランにかかる検証（評価）の実施（案）について | 9 | 13 |
| 18 | 11 | 14 | 1. 大学院規則及び大学学則並びに短期大学部学則の一部変更（案）について | 11 | 13 |
| 18 | 12 | 12 | 1. 寄附行為の一部変更（案）について 2. 岐阜聖徳学園大学大学院及び大学並びに短期大学部の学則の一部変更（案）について 3. 清翔高等学校奨学生規程運用内規（案）について 4. 平成18年度第1回補正予算（案）について | 11 | 13 |
| 19 | 1 | 16 | 1. 附属幼稚園園則の見直し（案）について 2. 財団法人日本高等教育評価機構が実施する認証評価の評価員の候補者の推薦について 3. 清翔高等学校奨学生規程改正（案）について | 12 | 13 |
| 19 | 2 | 13 | 1. 平成19年度予算編成の基本方針について 2. 聖徳学園所有地の売却（案）について 3. 就業規則付属諸規程別表3（管理・役職手当）改正（案）について 4. 平成19年度役員・評議員構成（案）について | 11 | 13 |
| 19 | 3 | 13 | 1. 短期大学部教育職員の補充人事（案）について 2. 経済情報研究科大学院規則の一部改正（案）について 3. 附属各学校の学則一部改正（案）について | 11 | 13 |
| 19 | 3 | 27 | 1. 平成18年度第2回補正予算（案）について 2. 平成19年度当初予算（案）について 3. 新評議員構成（案）について | 10 | 13 |

平成19年度理事会

| 年 | 月 | 日 | 主な議案 | 出席者数 | 定数 |
|----|---|----|---|------|----|
| 19 | 4 | 1 | 1. 理事長の選任について（新理事長挨拶） 2. 理事長職務代理の選任について 3. 常務理事の選任について 4. 理事の業務分担と委員長の選出について | 9 | 13 |
| 19 | 5 | 15 | 1. 聖徳学園教学経営戦略委員会（仮称）規則（案）について 2. 附属幼稚園及び附属小・中学校の授業料等値上げ（案）について 3. 清翔高等学校教職員組合春季要求書にかかる理事会回答（案）について 4. 附属中等高等学校における中高一貫教育について | 12 | 13 |
| 19 | 5 | 29 | 1. 平成18年度決算（案）について 2. 平成18年度監査報告について 3. 聖徳学園教学経営戦略委員会（仮称）規則（案）について | 12 | 13 |

Ⅷ【法人組織の管理運営体制について】

平成 19 年度理事会

| 年 | 月 | 日 | 主な議案 | 出席者数 | 定数 |
|----|----|----|---|------|----|
| 19 | 6 | 12 | 1. 附属小学校学則の一部変更（案）について 2. 大学教育職員にかかる人事（案）について | 12 | 13 |
| 19 | 7 | 10 | 1. 附属小学校学則の一部改正（案）について 2. 聖徳学園事務長会規則（案）について 3. 大学教職員組合の第2次要求にかかる回答（案）について | 11 | 13 |
| 19 | 9 | 11 | 1. 平成20年4月教育職員補充人事について 2. 岐阜聖徳学園大学短期大学部学則の一部改正（案）について 3. 大学羽島キャンパス本館南側道路付替え（案）に伴う用地買収について 4. 聖徳学園事務長会規程（案）について | 13 | 13 |
| 19 | 10 | 16 | 1. 附属学校の位置付けについて 2. 大学教育職員に係る人事（案）について | 9 | 13 |
| 19 | 11 | 13 | 1. 平成20年度大学教育職員の補充人事（案）について 2. 清翔高等学校及び附属高等学校のスクールバス導入（案）について | 12 | 13 |
| 19 | 12 | 11 | 1. 岐阜聖徳学園大学学則の一部変更（案）について 2. 平成20年度大学教育職員の補充人事（案）について 3. 平成20年度清翔高等学校北舎及び大学（岐阜C）講堂兼体育館の耐震補強工事計画（案）について 4. 設置校「高等学校以下」の教員適正配置数（案）について | 12 | 13 |
| 19 | 12 | 12 | 1. 寄附行為の一部変更（案）について 2. 平成19年度補正予算（案）について | 12 | 13 |
| 20 | 1 | 29 | 1. 岐阜聖徳学園大学学則の一部変更（案）について 2. 平成20年度教育職員の人事（案）について | 13 | 13 |
| 20 | 2 | 19 | 1. 附属中・高等学校匿名投書問題に関わる懲戒処分（案）について 2. 学校法人聖徳学園における公益通報取扱い規則（案）について | 11 | 13 |
| 20 | 3 | 11 | 1. 臨時担当役員制度の設置（案）について 2. 平成20年度役員・評議員構成（案）について 3. 岐阜聖徳学園大学学則の一部変更（案）について 4. 経済情報学部奨学金制度のあり方について | 12 | 13 |
| 20 | 3 | 25 | 1. 平成19年度第2回補正収支予算書（案）について 2. 平成20年度当初予算書（案）について 3. 岐阜聖徳学園大学学則の一部変更（案）について | 11 | 13 |

平成 20 年度理事会

| 年 | 月 | 日 | 主な議案 | 出席者数 | 定数 |
|----|---|----|--|------|----|
| 20 | 4 | 15 | 1. 教学経営戦略委員会規則の変更（案）について 2. 学校法人聖徳学園寄附行為施行細則の変更（案）について 3. 理事の業務分担と委員長の選出（案）について | 13 | 13 |
| 20 | 5 | 13 | 1. 岐阜聖徳学園大学教育学部改組（案）について 2. 清翔高等学校教職員組合春季要求にかかる回答（案）について | 13 | 13 |
| 20 | 5 | 27 | 1. 平成19年度決算（案）について 2. 平成19年度監査報告について 3. 清翔高等学校教職員組合春季要求にかかる2次回答（案）について 4. 岐阜聖徳学園大学教育職員組合要求にかかる回答（案）について | 13 | 13 |
| 20 | 6 | 10 | 1. 平成21年4月短期大学部教育職員の採用人事について 2. 岐阜聖徳学園大学教育職員追加要求にかかる回答（案）について | 12 | 13 |

Ⅷ【法人組織の管理運営体制について】

| 年 | 月 | 日 | 主な議案 | 出席者数 | 定数 |
|----|----|----|--|------|----|
| 20 | 7 | 8 | 1. 大学教育職員にかかる人事（案）について （1）平成 21 年度継続雇用（案）について （2）教育職員の補充採用（案）について 2. 平成 21 年度設置校の所属長人事（案）について | 13 | 13 |
| 20 | 9 | 30 | 1. 臨時担当役員による短・中期改善策の提案について 2. 聖徳学園シャトルバスの導入（案）について 3. 岐阜聖徳学園大学短期大学部幼児教育学科第三部の学納金値上げ（案）について 4. 岐阜市公立保育所第二次民営化計画に伴う保育所受入の可否について 5. 羽島キャンパス外構構想コンペに係る構想図の選定について | 12 | 13 |
| 20 | 10 | 14 | 1. 岐阜聖徳学園大学学長選考日程（案）について 2. 平成 21 年 4 月短期大学部教育職員の補充人事（案）について | 11 | 13 |
| 20 | 11 | 11 | 1. 岐阜聖徳学園大学学長選考委員の選出について 2. 平成 21 年 4 月短期大学部教育職員の補充人事（案）について | 12 | 13 |
| 20 | 12 | 9 | 1. 岐阜聖徳学園大学学長選考について 2. 評議員の欠員補充（案）について | 12 | 13 |
| 20 | 12 | 10 | 1. 寄附行為の一部変更（案）について 2. 平成 20 年度補正予算（案）について | 12 | 13 |
| 21 | 1 | 20 | 1. 平成 21 年 4 月大学教育職員の補充人事（案）について 2. 清翔高等学校教育職員組合団体交渉にかかる回答（案）について 3. 高等学校以下の設置校志望者状況について | 13 | 13 |
| 21 | 2 | 10 | 1. 二高等学校の考えられる方向性（案）について 2. 短期大学部にかかる改革改善策計画の見直しについて 3. 附属小学校学則の一部変更（案）について 4. 清翔高等学校教職員組合との団体交渉にかかる回答について | 13 | 13 |
| 21 | 3 | 10 | 1. 岐阜聖徳学園大学学則の一部変更（案）について 2. 岐阜聖徳学園大学大学院規則の一部変更（案）について | 11 | 13 |
| 21 | 3 | 24 | 1. 平成 20 年度 第 2 回補正収支予算(案)について 2. 平成 21 年度 当初予算書(案)について 3. 清翔高等学校の校名(名称)変更(案)について 4. 清翔高等学校の学科・コースの再編(案)について | 12 | 12 |

理事会についての寄附行為上の規定

第 16 条 この法人に、理事をもって組織する理事会を置く。

- 2 理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。
- 3 理事会は、理事長が招集する。
- 4 理事長は、理事総数の 3 分の 2 以上の理事から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から 7 日以内に、これを招集しなければならない。
- 5 理事会を招集するには、各理事に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を書面により通知しなければならない。
- 6 前項の通知は、会議の 7 日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合はこの限りではない。
- 7 理事会に議長を置き、理事長をもって充てる。
- 8 理事長が第 4 項の規定による招集をしない場合には、招集を請求した理事全員が連名で理事会を招集することができる。この場合における理事会の議長は、出席理事の互選 によって定める。
- 9 理事会は、この寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、理事総数の過

VIII【法人組織の管理運営体制について】

半数の理事が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。ただし、第12項の規定による除斥のため過半数に達しないときは、この限りでない。

- 10 前項の場合において、理事会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。
- 11 理事会の議事は、法令及びこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、出席した理事の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
- 12 理事会の決議について、直接の利害関係を有する理事は、その議事の決議に加わることができない。

(3) 理事会の下に理事会の業務を一部委任する常任理事会、幹部会等を置いている場合は、その名称と根拠規程、理事会との関係、構成メンバー等を記述して下さい。

名 称 教学経営戦略委員会（平成19年5月設置）

根拠規程 教学経営戦略委員会規則

理事会との関係

理事会で審議する重要案件について、事前に個別事項の調査、意見の集約等を行う。

構成メンバー

理事長・常務理事・常任理事・学長・法人事務局長・理事長が指名する役員若干名

(4) 監事の業務についての寄附行為上の規定、平成20年度における監事の業務執行状況について、できれば監事自身が率直に現状を記述して下さい。

次のとおり、寄附行為第15条にその職務を謳っている。

- ①この法人の業務を監査すること
- ②この法人の財産の状況を監査すること
- ③この法人の業務又は財産の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後2月以内に理事会及び評議員会に提出すること
- ④第1号又は第2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを文部科学大臣に報告し、又は理事会及び評議員会に報告すること
- ⑤前号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して評議員会の招集を請求すること

⑥この法人の業務又は財産の状況について、理事会に出席して意見を述べること

平成20年度の業務執行状況としては、5月に平成19年度決算、12月に前期分決算、翌年5月に平成20年度決算の監査を行った。また、開催された理事会および評議員会にはすべて出席し、必要に応じて質問も行った。

会計処理等については、問題もなく適正な処理がされている。理事会の運営についても、理事長を中心に、将来を見据えた的確な運営がされているものと確信している。

(5) 平成20年度の評議員会の開催状況（主な議案、評議員の出席状況等を含む）を開催日順に記述し、評議員会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。

評議員会開催状況（平成20年度） 図表 45

| 年 | 月 | 日 | 主な議案 | 出席者数 | 定数 |
|----|----|----|---|------|----|
| 20 | 5 | 27 | 平成19年度決算について 平成19年度監査報告について | 26 | 27 |
| 20 | 12 | 10 | 寄附行為の一部変更（案）について 平成20年度補正予算（案）について | 23 | 27 |
| 21 | 2 | 27 | 二高等学校の将来の在り方について | 26 | 27 |
| 21 | 3 | 24 | 平成20年度補正収支予算書(案)について 平成21年度当初予算書(案)について 清翔高等学校の校名(名称)変更(案)について 清翔高等学校の学科・コースの再編(案)について | 26 | 27 |

評議員会の寄附行為上の規定

第20条 この法人に、評議員会を置く。

- 2 評議員会は、25人から27人までの評議員をもって組織する。
- 3 評議員会は、理事長が招集する。
- 4 理事長は、評議員総数の3分の1以上の評議員から会議に付議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求があった日から20日以内に、これを招集しなければならない。
- 5 評議員会を招集するには、各評議員に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を、書面により通知しなければならない。
- 6 前項の通知は、会議の7日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りでない。
- 7 評議員会に議長を置き、議長は、評議員のうちから評議員会において選任する。
- 8 評議員会は、評議員総数の過半数の出席がなければ、その会議を開き、議決をすることができない。
- 9 前項の場合において、評議員会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。
- 10 評議員会の議事は、出席した評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 11 議長は、評議員として議決に加わることができない。

VIII【教授会等の運営体制について】

(6) 法人の管理運営について今後改善や変更をしたいと考えている事項があれば記述して下さい。また法人が抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。

全体的な改善については常に検討し、早期の対応に努めているところである。

具体的な改善策としては、ソフト面では、事務組織の強化を図るために、事務組織の検討会（第1次検討会構成員5名・第2次検討会構成員8名）を立ち上げ、現在、第1次検討会で検討している最中である（平成21年8月末日までに素案を作成し、その案を第2次検討会で検討し、平成21年10月末日までに素案を作成予定）。また、人事考課制度の導入および事務職員研修委員会を設置し、人事考課・研修制度の充実を図っている。ハード面では、幼稚園から大学院までのすべての学校を擁する当法人としては、独自の事務処理による経費の浪費や、時には一体感に欠ける面も見られ、一貫性を持ったシステムの導入が課題であったが、新しい事務システムを導入し、本格的に稼働し始めた。

【教授会等の運営体制について】

(1) 短期大学の教育・研究上のトップである学長は、短期大学の教育活動全般について適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る教育・研究上の事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで学長はどのように関与しているかを、できれば学長自身が率直に現状を記述して下さい。なお学長選考規程等があれば訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

学長

教育・研究上の事項は、各種委員会、学科会議、学科長会において慎重に検討された上で教授会に提案され、審議されている。教育・研究の基本的事項については、短期大学部長が、併設四年制大学と合同の学部長と学部長会において、学長の議長の下に協議し、全学的事項は各学部からの3名の評議員と管理職にある教職員からなる評議会に諮って審議決定されている。

併設四年制大学の学部を含めて、教授会がかなり自律的に教育・研究上の事項を決定する慣行が以前から強く存在している。そのため学長の指示によって、時代の要請に応じて教育研究の体制を臨機応変に改善することは、必ずしも円滑に行われているとは言えない面もある。

キャンパスが二つに分かれている所為もあるが、学部間は相互にかなり閉鎖的である。したがって、短期大学部が四年制大学と併設されているメリットは、必ずしも十全な状態にはない。

大学を取り巻く環境の変化と大学が直面する厳しい状況を頻繁に、あらゆる機会を利用して、学長が専任教員に伝達することを繰り返すことにより、漸く最近教職員の意識変革の必要性が自覚され、大学組織の合理化近代化の必要性が自覚され始めた。平成20年4月から、急速に変動しつつある大学の動向の新聞記事等を学長室で編集した『岐聖大 NEWS FILE』をほぼ毎月全専任教員に配付しているが、このような学内の広報活動が教職員の意識変革に寄与していると思っている。専任教員の自己評価の実施も平成20年度から試験的に実施されることがFD委員会で決定され、実施された。

VIII【教授会等の運営体制について】

現在、大学のユニバーサル化によって、学生の学力や意識の面において、学生の多様化が進んでいる。明確な目的や意欲のない学生も増加している。これらの学生に、自主的な意欲を持たせ、基本的な学士力をつけ、力のある学生には一層の実力をつける教育上の工夫が必要である。さらにこのような問題解決のために、教育研究上に外部資金を導入する努力が必要である。

学長の役割は、教職員が自発的にこのような大学の問題解決に尽力できるような仕組みを構築することにあると思っているが、そのためには、教職員の一層の自発性が必要である。

(2) 教授会についての学則上の規定（教授会で議すべき事項等を含む）、平成20年度における開催状況（主な議案、構成メンバー、出席状況等を含む）を年月日の順に記述して下さい。なお、学則を添付して下さい。

学則第11章（第48～51条）において「教授会」を規定している。

平成20年度の構成員は、短期大学部長（1人教授）、教授（14人）、准教授（11人、10月より10人）、講師（5人、10月より6人）、助教（0人）の31人である。

教授会で審議すべき事項は学則第50条第1項で定めている。

教授会は、教育研究上の審議機関として適切に機能するよう、毎月1回（基本的に第3水曜日）の定例教授会の他、必要に応じ臨時教授会を開催している。

審査教授会は、学則第50条第2項で教育職員採用、昇格等を審議すると規定している。

平成20年度の構成員は、教授（15名）であり、必要に応じ開催している。

教授会開催状況（平成20年度） 図表 46

| 年 | 月 | 日 | 主 な 議 案 | 出席者数 | 定数 |
|----|----|----|---|------|----|
| 20 | 4 | 1 | 1.教育職員人事について 2.教育職員所属一覧について | 29 | 31 |
| 20 | 4 | 16 | 1.学生の学籍について 2.他大学への出校について | 31 | 31 |
| 20 | 5 | 21 | 1.新入生の既修得単位の認定について 2.特別選奨生の継続給付審査について | 30 | 31 |
| 20 | 6 | 11 | 1.併設四年制大学教育学部への専任教育職員の移籍について 2.専任教育職員の公募について | 25 | 31 |
| 20 | 6 | 25 | 1.前期集中講義について 2.自己点検・評価委員会規程の改正について | 28 | 31 |
| 20 | 7 | 16 | 1.再入学選考試験要項について 2.後期オリエンテーションについて | 31 | 31 |
| 20 | 8 | 27 | 1.再入学について 2.9月卒業認定について | 28 | 31 |
| 20 | 9 | 18 | 1.学生の学籍について 2.他大学への出校について | 26 | 31 |
| 20 | 10 | 22 | 1.学生の学籍について 2.平成21年度学則変更について | 30 | 31 |
| 20 | 11 | 5 | 1.平成21年度推薦入試（I期）合否判定について | 31 | 31 |
| 20 | 11 | 19 | 1.大学基準協会評価委員任期満了に伴う後任候補者の推薦について 2.学外実習について | 30 | 31 |
| 20 | 12 | 3 | 1.平成21年度推薦入試（II期）合否判定について | 29 | 31 |

VIII【教授会等の運営体制について】

| 年 | 月 | 日 | 主 な 議 案 | 出席者数 | 定数 |
|----|----|----|--|------|----|
| 20 | 12 | 17 | 1.平成 21 年度推薦入試（Ⅲ期）合否判定について 2.学外実習について | 28 | 31 |
| 21 | 1 | 21 | 1.平成 21 年度各種委員会委員について 2.教育課程の変更について | 30 | 31 |
| 21 | 2 | 5 | 1.一般入試（前期日程）合否判定について | 29 | 31 |
| 21 | 2 | 25 | 1.卒業認定について 2.教育課程の変更について | 29 | 31 |
| 21 | 3 | 18 | 1.学生の学籍について 2.平成 21 年度時間割について | 28 | 31 |

審査教授会開催状況（平成 20 年度） 図表 47

| 年 | 月 | 日 | 主 な 議 案 | 出席者数 | 定数 |
|----|----|----|---|------|----|
| 20 | 5 | 21 | 1.平成 20 年度非常勤講師採用候補者について | 15 | 15 |
| 20 | 8 | 18 | 1.平成 20 年度専任教員採用候補者について | 11 | 15 |
| 20 | 8 | 27 | 1.平成 20 年度専任教員採用候補者について | 14 | 15 |
| 20 | 9 | 18 | 1.平成 21 年度専任教員採用候補者について | 12 | 15 |
| 20 | 10 | 22 | 1.平成 21 年度専任教員採用候補者について | 14 | 15 |
| 20 | 12 | 3 | 1.平成 20 年度非常勤講師採用候補者について | 15 | 15 |
| 20 | 12 | 24 | 1.平成 21 年度専任教員採用候補者について 2.平成 20 年度非常勤講師採用候補者について 3.平成 20 年度非常勤講師の承認について | 14 | 15 |
| 21 | 1 | 21 | 1.平成 21 年度専任教員採用候補者について 2.平成 21 年度非常勤講師採用候補者について | 15 | 15 |
| 21 | 2 | 25 | 1.平成 21 年度非常勤講師採用候補者について | 15 | 15 |
| 21 | 3 | 18 | 1.平成 21 年度非常勤講師継続採用の取消しについて 2.平成 21 年度非常勤講師採用候補者について | 13 | 15 |

（3）学長もしくは教授会の下に教育・研究上の各種の委員会等を設置している場合は、その名称と根拠規程、主な業務、構成メンバー、平成20年度の開催状況等を記述して下さい。

委員会等の開催状況（平成 20 年度） 図表 48

| 名称 | 学科長会 |
|--------|-----------------------------------|
| 根拠規程 | 短期大学部学科長会規程 |
| 主な業務 | 学科間の調整、教授会に提案する議題の整理等 |
| 構成メンバー | 短期大学部長(議長)、各学科長、教務委員長、学生委員長、就職委員長 |
| 開催状況 | 20回 |

短期大学部委員会

(長): 委員長 (副): 副委員長

| 名称 | 自己点検・評価委員会 |
|--------|---|
| 根拠規程 | 短期大学部自己点検・評価委員会規程 |
| 主な業務 | 学校教育法に定める点検・評価の実施とその結果の公表、同法に定める評価（認証評価）への対応とその結果の公表、その他本学の点検・評価に関し必要な事項 |
| 構成メンバー | 学長、短期大学部長、学科長、教授会において選出された教育職員、学長が任命した者 (長): 学長 (副)短期大学部長 |
| 開催状況 | 5回 |
| 名称 | 入学試験委員会 |
| 根拠規程 | 短期大学部入試委員会規程 |
| 主な業務 | 入学試験の実施方針、実施教科・科目、実施組織の委員の選定、学生募集他に関する事項 |
| 構成メンバー | 短期大学部長(長)、一般教育教職学科長、幼児教育学科長、生活学科長、教務委員長、学生委員長、就職委員長、教授会において選出された3名 (副)は互選 |
| 開催状況 | 12回 |

Ⅷ【教授会等の運営体制について】

| | |
|--------|--|
| 名称 | 教務委員会 |
| 根拠規程 | 短期大学部教務委員会規程 |
| 主な業務 | 教育課程、履修方法、試験、学業評価及び卒業、学籍他に関する事項 |
| 構成メンバー | 教授会において選出された教育職員 8 名 (長)(副)は互選 |
| 開催状況 | 16 回 |
| 名称 | 実習委員会 |
| 根拠規程 | 短期大学部実習委員会規程 |
| 主な業務 | 教育実習、保育実習、養護実習、看護学臨床実習、給食管理実習他に関する事項 |
| 構成メンバー | 教授会において選出された教育職員 9 名 (長)(副)は互選 |
| 開催状況 | 10 回 |
| 名称 | 学生委員会 |
| 根拠規程 | 短期大学部学生委員会規程 |
| 主な業務 | 厚生補導、学友会並びに課外活動、奨学生、健康管理他に関する事項 |
| 構成メンバー | 教授会において選出された教育職員 6 名 (長)(副)は互選 |
| 開催状況 | 10 回 |
| 名称 | 国際交流委員会 |
| 根拠規程 | 短期大学部国際交流委員会規程 |
| 主な業務 | 学術・文化の国際交流、外国の大学との学術交流、留学生の受入れ・派遣他に関する事項 |
| 構成メンバー | 教授会において選出された教育職員 3 名 (長)(副)は互選 |
| 開催状況 | 2 回 |
| 名称 | 図書委員会 |
| 根拠規程 | 短期大学部図書委員会規程 |
| 主な業務 | 図書館の運営、事業計画、図書費他に関する事項 |
| 構成メンバー | 教授会において選出された教育職員 3 名 (長)(副)は互選 |
| 開催状況 | 5 回 |
| 名称 | 就職委員会 |
| 根拠規程 | 短期大学部就職委員会規程 |
| 主な業務 | 就職斡旋、就職指導、就職情報、その他就職対策に関する事項 |
| 構成メンバー | 教授会において選出された教育職員 6 名 (長)(副)は互選 |
| 開催状況 | 12 回 |
| 名称 | 公開講座委員会 |
| 根拠規程 | 短期大学部公開講座委員会規程 |
| 主な業務 | 公開講座の計画・立案、実施・運営他に関する事項 |
| 構成メンバー | 教授会において選出された教育職員 5 名 (長)(副)は互選 |
| 開催状況 | 4 回 |
| 名称 | 宗教委員会 |
| 根拠規程 | 短期大学部宗教委員会規程 |
| 主な業務 | 宗教行事、委員会誌他に関する事項 |
| 構成メンバー | 教授会において選出された教育職員 3 名 (長)(副)は互選 |
| 開催状況 | 開催せず。全学宗教委員会で一括開催。 |
| 名称 | 情報教育・管理運営委員会 |
| 根拠規程 | 短期大学部情報教育・管理運営委員会規程 |
| 主な業務 | 情報機器・ソフトウェアの導入更新、コンピュータ及びネットワーク環境の運用他に関する事項 |
| 構成メンバー | 教授会において選出された教育職員 4 名 (長)(副)は互選 |
| 開催状況 | 1 回 |
| 名称 | 研究助成委員会 |
| 根拠規程 | 短期大学部研究助成委員会規程 |
| 主な業務 | 研究助成交付金の選考、その他研究助成に関して必要なことに関する事項 |
| 構成メンバー | 紀要委員会委員をもって充てる (長)紀要委員長 (副)紀要副委員長 |
| 開催状況 | 2 回 |
| 名称 | 紀要委員会 |
| 根拠規程 | 短期大学部紀要委員会規程 |
| 主な業務 | 紀要掲載学術論文の原稿募集、学術論文の審査及びその編集と校正に関する事項 |
| 構成メンバー | 教授会において選出された教育職員 6 名 (教授 3 名以上) (長)(副)は互選 |
| 開催状況 | 2 回 |
| 名称 | F D 推進部会 |
| 根拠規程 | ファカルティ・デベロップメント委員会規程 |
| 主な業務 | F D の推進のための企画及び実施、調査・研究、教育内容及び教育環境の改善他に関する事項 |
| 構成メンバー | 部会長が指名 (部会長)短期大学部長 |
| 開催状況 | 1 回 |

VIII【教授会等の運営体制について】

全学委員会等（併設四年制大学と合同の委員会等）

(長): 委員長 (副): 副委員長

| | |
|--------|--|
| 名称 | 学部長会 |
| 根拠規程 | 学部長会規程 |
| 主な業務 | 学長の補佐、本学の重要事項に関して学長の諮問に応じる、学部等の運営協議他に関する事項 |
| 構成メンバー | 学長、教育学部長、外国語学部長、経済情報学部長、短期大学部長、事務局長 |
| 開催状況 | 13回 |
| 名称 | 部長会 |
| 根拠規程 | 部長会規程 |
| 主な業務 | 本学の重要事項に関して学長の諮問に応じる、各部間の連絡調整・運営・推進に関する事項 |
| 構成メンバー | 学長、事務局長、宗教部長、図書館長、教務部長、学生部長、入試部長、就職部長、国際交流部長、羽島事務部長、岐阜事務部長 |
| 開催状況 | 12回 |
| 名称 | 評議会 |
| 根拠規程 | 評議会規程 |
| 主な業務 | 全学的重要事項の審議に関する事項 |
| 構成メンバー | 学長（議長）、学部長（短期大学部長を含む）、各学部（短期大学部を含む）から選出された教授3名、事務局長、宗教部長、図書館長、教務部長、学生部長、入試部長、就職部長、国際交流部長、羽島事務部長、岐阜事務部長 |
| 開催状況 | 12回 |
| 名称 | 企画委員会 |
| 根拠規程 | 企画委員会規程 |
| 主な業務 | 長期、中期、短期の将来構想の審議に関する事項 |
| 構成メンバー | 各学部から各1名、教育職員の中から学長の指名する者2名、事務職員の中から学長の指名する者3名（正）(副)は互選 |
| 開催状況 | 開催せず |
| 名称 | 広報委員会 |
| 根拠規程 | 広報委員会規程 |
| 主な業務 | 本学に関する情報の学内外提供に関する事項 |
| 構成メンバー | 入試部長、学生部長、入試課長、学長が指名する教育職員若干名、学長が指名する事務職員若干名（正）(副)は互選 |
| 開催状況 | 3回 |
| 名称 | 自己点検・評価委員会 |
| 根拠規程 | 自己点検・評価委員会規程 |
| 主な業務 | 学校教育法に定める点検・評価の実施 評価（認証評価）への対応とその結果の発表 |
| 構成メンバー | 学長、学部長、研究科長、事務局長、部(館)長、学長が任命した者若干名（長）:学長（副）は互選 |
| 開催状況 | 1回 |
| 名称 | ファカルティ・ディベロップメント委員会 |
| 根拠規程 | ファカルティ・ディベロップメント委員会規程 |
| 主な業務 | FDの推進のための企画及び実施、調査・研究、教育内容及び教育環境の改善他に関する事項 |
| 構成メンバー | 学長、各研究科長及び各学部長、教務部長、自己点検・評価委員会委員長、学長が指名した者若干名（長）:学長（副）は互選 |
| 開催状況 | 1回 |
| 名称 | 教務委員会 |
| 根拠規程 | 教務委員会規程 |
| 主な業務 | 全学的な教務に関する事項 |
| 構成メンバー | 教務部長(長)、各学部教務委員長、各学部教務副委員長（副）は互選 |
| 開催状況 | 11回 |
| 名称 | 実習委員会 |
| 根拠規程 | 実習委員会規程 |
| 主な業務 | 全学的な学内外の実習に関する事項 |
| 構成メンバー | 教務部長(長)、各学部実習委員長、各学部実習副委員長（副）は互選 |
| 開催状況 | 3回 |
| 名称 | 学生委員会 |
| 根拠規程 | 学生委員会規程 |
| 主な業務 | 全学的な学生生活に関する事項 |
| 構成メンバー | 学生部長(長)、各学部学生委員長、各学部学生副委員長（副）は互選 |
| 開催状況 | 4回 |
| 名称 | 全学協議会 |
| 根拠規程 | 全学協議会規程 |
| 主な業務 | 本学教育職員・事務職員と本学学友会会員の意思疎通と相互理解に関する事項 |
| 構成メンバー | 学長（議長）、各学部長、各学部学生委員長、事務局長、各部長、学生課長、学友会執行委員会5名、学友会体育連盟執行部2名、学友会文化連盟執行部2名、大学祭実行委員会2名、短期大学部学友会執行部5名、短期大学部大学祭実行委員会2名 |
| 開催状況 | 1回 |

Ⅷ【教授会等の運営体制について】

| | |
|--------|--|
| 名称 | 宗教委員会 |
| 根拠規程 | 宗教委員会規程 |
| 主な業務 | 本学の建学の精神に則った宗教教育に関する事項 |
| 構成メンバー | 宗教部長(長)、宗教学担当の専任教育職員、各学部から選出された若干名の教育職員、学長が任命した教育職員・事務職員 (副): 互選 |
| 開催状況 | 3回 |
| 名称 | 国際交流委員会 |
| 根拠規程 | 国際交流委員会規程 |
| 主な業務 | 全学的な国際交流に関する事項 |
| 構成メンバー | 国際交流部長(長)、各学部国際交流委員長 4名、各学部国際交流副委員長 4名 (副): 互選 |
| 開催状況 | 4回 |
| 名称 | 図書館連絡協議会 |
| 根拠規程 | 図書館連絡協議会規程 |
| 主な業務 | 羽島キャンパス・岐阜キャンパス図書館に関する事項 |
| 構成メンバー | 図書館長(長)、図書館副館長、各学部からの図書委員会から各1名 (副): 互選 |
| 開催状況 | 開催せず |
| 名称 | 就職委員会 |
| 根拠規程 | 就職委員会規程 |
| 主な業務 | 全学的な就職支援に関する事項 |
| 構成メンバー | 就職部長(長)、各学部就職委員長、各学部就職副委員長 (副): 互選 |
| 開催状況 | 3回 |
| 名称 | 全学ホームページ委員会 |
| 根拠規程 | 全学ホームページ委員会規程 |
| 主な業務 | 本学のホームページの適正かつ円滑な運用に関する事項 |
| 構成メンバー | 各学部から選出された教育職員 2名、各研究科から選出された教育職員 1名、事務職員から選出された若干名、委員会が特に必要と認める者若干名 (長)(副)は互選 |
| 開催状況 | 1回 |
| 名称 | 岐阜キャンパス図書館運営委員会 |
| 根拠規程 | 岐阜キャンパス図書館運営委員会規程 |
| 主な業務 | 岐阜キャンパス図書館の運営に関する事項 |
| 構成メンバー | 図書館長(長)、図書館副館長、経済情報学部及び短期大学の図書委員会から各2名 (副):互選 |
| 開催状況 | 開催せず |
| 名称 | 危機管理委員会 |
| 根拠規程 | 危機管理に関する規程 |
| 主な業務 | 本学の学生、職員及び近隣住民の安全確保を図るとともに大学の社会的責任を果たすことに関する事項 |
| 構成メンバー | 学長(長)、各学部長、事務局長、図書館長 |
| 開催状況 | 開催せず |
| 名称 | 海外危機管理委員会 |
| 根拠規程 | 海外危機管理委員会規程 |
| 主な業務 | 本学の承認を得て渡航した学生及び教職員の海外における突発的な事態の対処に関する事項 |
| 構成メンバー | 学長(長)、国際交流部長(副)、各学部の国際交流委員長及び副委員長、学生部長、国際交流課長 |
| 開催状況 | 開催せず |
| 名称 | 免許状更新講習対策委員会 |
| 根拠規程 | 免許状更新講習対策委員会規程 |
| 主な業務 | 免許状更新講習に関する事項 |
| 構成メンバー | 教務部長、教育学部・短期大学部から各2名、外国語学部・経済情報学部から各1名、教務課長 |
| 開催状況 | 6回 |
| 名称 | 全学入学試験委員会 |
| 根拠規程 | 全学入試委員会規程 |
| 主な業務 | 全学的な入学試験に関する事項 |
| 構成メンバー | 学長(長)、学部長、入試部長(副)、各学部入学試験委員長・副委員長、事務局長、羽島事務部長、岐阜事務部長、学長が認める若干名の教育職員・事務職員 |
| 開催状況 | 1回 |
| 名称 | 学術図書出版助成委員会 |
| 根拠規程 | 学術図書出版助成委員会規程 |
| 主な業務 | 学術図書の出版助成に関する事項 |
| 構成メンバー | 図書館長(長)、図書館副委員長、各学部から教授各1名 |
| 開催状況 | 2回 |
| 名称 | エクステンションセンター運営委員会 |
| 根拠規程 | エクステンションセンター規程 |
| 主な業務 | エクステンションセンターの重要な事項の審議に関する事項 |
| 構成メンバー | センター長(長)、各学部選出の教育職員、センター室長、学長が指名する事務職員 2名 (副)は委員長指名 |
| 開催状況 | 5回 |

VIII 【教授会等の運営体制について】

| | |
|--------|--|
| 名称 | 臨床研究倫理審査委員会 |
| 根拠規程 | 臨床研究倫理審査委員会規程 |
| 主な業務 | 教育職員が行う人を対象とした医学系研究における臨床研究において、倫理的配慮を図ることに係る事項 |
| 構成メンバー | 学長が指名する学部長1名(長) 各学部選出の教育職員4名 事務局長 医師(外部) その他学長が必要と認める者若干名 (副):互選 |
| 開催状況 | 2回 |
| 名称 | 研究倫理審査委員会 |
| 根拠規程 | 研究倫理審査委員会規程 |
| 主な業務 | 教育職員が行う人を対象とした調査研究について、倫理的配慮を図ることに係る事項 |
| 構成メンバー | 学長が指名する学部長1名 各学部選出の教育職員4名 事務局長 その他学長が必要と認める者若干名 |
| 開催状況 | 平成21年4月1日施行 |
| 名称 | ハラスメント防止対策委員会、調停委員会、調査委員会 |
| 根拠規程 | ハラスメントの防止及び対応に関する規程(学校法人聖徳学園規程) |
| 主な業務 | ハラスメントの防止とその対策及び啓発・教育他に関する事項 |
| 構成メンバー | 防止対策委員会:各学部の教育職員の男女各1名ずつ8名、羽島・岐阜各キャンパスの事務職員の男女各1名ずつ4名(長)(副)は互選 調停委員会:防止対策委員会委員長(長)、防止対策委員会委員から2名(内1名は女性) 調査委員会:防止対策委員会が選考し学長が任命する、教育職員及び事務職員から3名以上、必要に応じて学外の専門家を1名以上、以上で男女同数(長):互選 |
| 開催状況 | 9回(防止対策委員会) |

(4) 短期大学の運営全般について抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。

運営全般については、比較的良好に思われる。教授会、学科長会、各学科会議および14の委員会が設置され、それぞれの運営組織が有効に機能していると考えられる。

このように多くの委員会等が組織され、きめ細かく学内の課題に対応している反面、専任教員の負担が大きくなってきている。また、平成16年度から併設四年制大学と運営全般についての一歩化が図られ、それに伴い短期大学部委員会とは別に併設四年制大学との間で各種委員会が開設され、その委員会への参加が加わりさらに専任教員の負担が増加した。

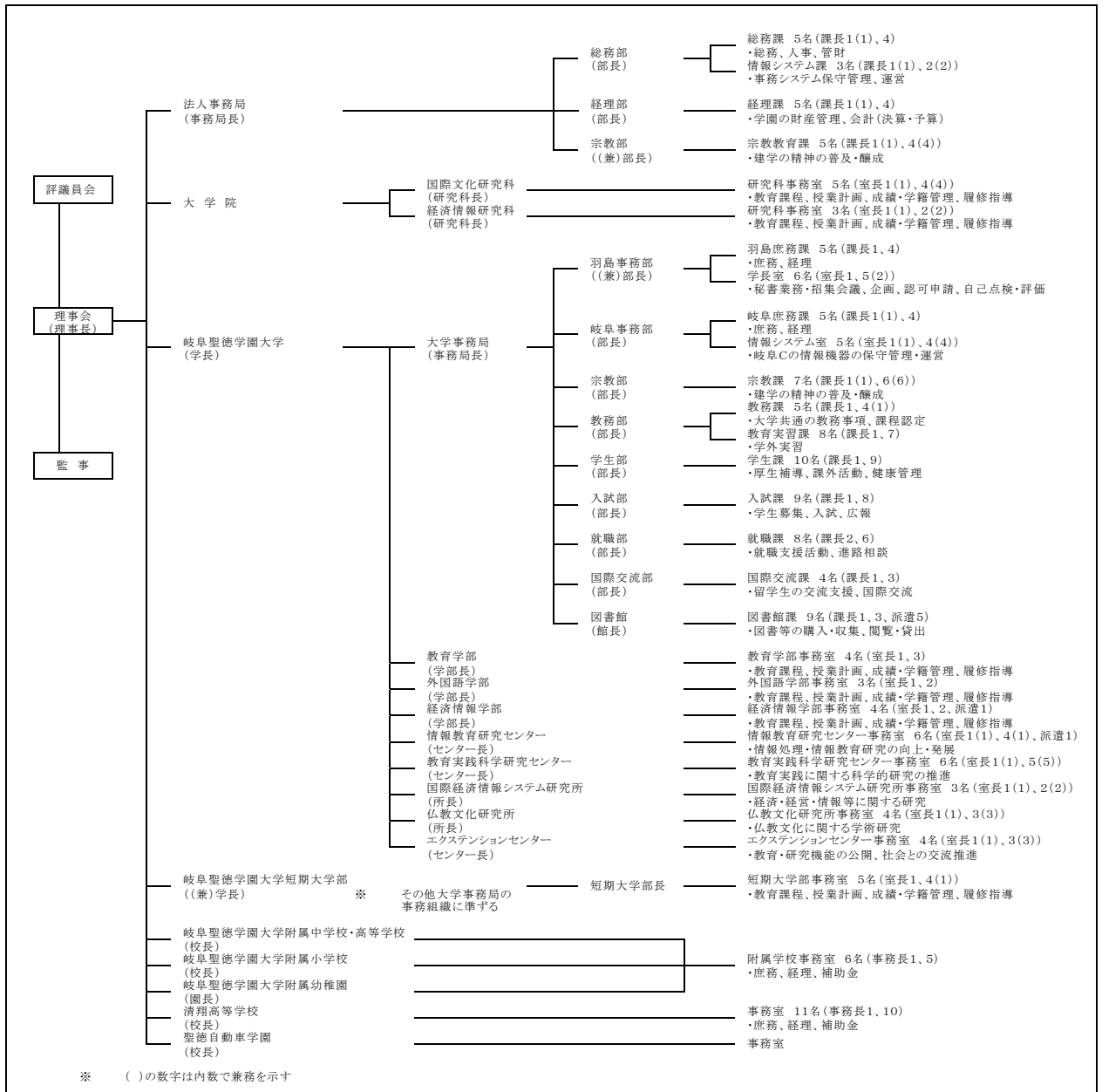
各種委員会の運営の効率化、専任教員負担の軽減等を図るべく検討を行い、平成21年度中に改編案を策定し、平成22年度から新しい委員会組織としていくことを確認している。

併設四年制大学との運営の一歩化に伴い、ややもすると本学の独自性が損なわれることもあり、学園内(学校法人内)での大学運営の効率化、一貫性を追求しながらも、本学の独自性をいかに発揮していくかが課題といえる。

【事務組織について】

(1) 現在の法人全体の事務組織図を記載し、その中に短期大学の事務部門を記入して下さい。また組織図には短期大学の事務部門の役職名(課長、室長相当者以上。兼職の有無を含む)、各部門の人員(専任・兼任の別を含む)、各部門の主な業務を含めて記入して下さい。また事務組織が使用している部屋等は、機器・備品を含めて訪問調査の際に案内いただきます。

学校法人の事務組織 図表 49



※ ()の数字は内数で兼務を示す

(2) 事務職員の任用(役職者の任免を含む)について現状を訪問調査時にご説明下さい。

VIII【事務組織について】

(3) 事務組織について整備している諸規程名を列記して下さい。なお諸規程等は訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

事務組織に関する規程

- 事務組織規程
- 事務長会規程
- 文書取扱いに関する規程
- 公印取扱い規程
- 就業規則

(4) 決裁処理の概要と流れ、また公印や重要書類（学籍簿等）の管理、防災の状況、情報システムの安全対策等の現状を記述して下さい。

決裁処理の概要と流れ

- 1) 文書決裁は、『文書取扱いに関する規程』および『事務決裁内規』に基づいて、文書の管理、受領、配付、起案等を行っており、完結文書の保存期間は永年、10年、5年および1年とし、文書区分ごとに保存している。
- 2) 経理決裁は、『経理規程』および『経理規程・附属経理専決事項に関する規程』に基づいて決裁を受け、執行している。

(専決区分)

- ・1件 200万円以上・・・・・・・・常務理事
- ・1件 50～200万円未満・・・・・・・・法人本部事務局長
- ・1件 50万円未満・・・・・・・・大学事務局長

公印や重要書類（学籍簿等）の管理

公印については、『公印取扱い規程』により、公印の種類ごとに管理責任者を決め、公印の使用、調整・改廃、登録等を行い、公印箱に収めて金庫に保管して管理している。また、書類については『文書取扱いに関する規程』により管理しており、保存年限は、重要度によって、①永年、②10年、③5年、④1年に分類し、特に学籍簿、卒業生台帳等の重要書類は永年保存扱いとし、保存庫で保管している。岐阜キャンパス文書取扱責任者は庶務課長であるが、学籍簿等の日常管理は、学部事務室長が担当している。

防災の状況

大規模地震対策特別措置法に基づき、大規模地震による災害の防止と被害の軽減を図るため、『地震防災規程』で必要事項を定め、地震防災対策委員会を設けている。また、防火に対しては、『岐阜キャンパス消防計画』により防火対策委員会を必要に応じて設置できるよう規定している。地震・火災を想定して、学生、教職員一体の防災総合訓練を毎年実施している。

上記防災管理とは別に、学生および教職員の海外留学中・研修中における事故等に係わる突発的な事態に対処できるように、予知および迅速な対応と救援策をも網羅した『海外危機管理委員会規程』を平成18年2月1日付で制定し、不測の事態に対応できる態勢を構築している。

さらに、『危機管理に関する規程』を平成20年12月1日に施行し、大学において発生する様々な事象を伴う危機に、迅速かつ的確に対処できるようにした。

情報システムの安全対策等

コンピュータ教室を3教室設置しており、学生は授業以外にも自習での利用ができるよう出入りを自由としている。ただし、パソコンを利用するにはアカウントとパスワードでの認証を必要とし、許可された者しか利用できないようにしている。サーバはコンピュータ室とは別の部屋に設置し、学生の出入りを禁じている。

人事・給与情報、財務情報、学籍情報等を取り扱う基幹情報システムは、物理的に切り離れた専用ネットワーク上に構成しており、サーバに接続できる端末を限定し、且つ、端末の利用にはアカウントとパスワードでの認証を必要としている。アカウントには職責に応じたアクセス権を設定し、データの閲覧を業務で必要とする最小限に限定している。端末にはウイルス対策ソフトウェアを導入し、外部からのウイルス感染を阻止し、データの喪失・改竄への対策を行っている。サーバ室への入退室についても、日時、入室理由、所属、氏名を記録して、その妥当性を随時確認している。

(5) 事務職員は教員や学生から支持され信頼されているか、できれば事務組織の責任者（事務局長等）が現状を率直に記述して下さい。

事務局長

教員から事務職員に対する不満は特にでていなく、関係は良好であると思料している。学生に対しては、学生と大学との意思の疎通・相互理解を図る場として、平成17年度から全学協議会を年1回開催している。構成メンバーは、次のとおりで、学生の要望事項を事前に学友会が集約し、当日は要望事項に対する大学側からの回答を中心に意見交換に時間をかけ、でき得る限り学生の要望・疑問等に応える努力をしている。また併設四年制大学は、面倒見が良い大学第22位として、平成18年1月8・15日合併号の全国週刊誌に掲載された。本学についても同様の評価がなされると考えており、学生から信頼されていると考えている。

全学協議会構成メンバー（37名）

大学側：学長、短期大学部長、教育学部長、外国語学部長、経済情報学部長
各学部学生委員長、事務局長、各部長、学生課長

学生側：短期大学部学友会執行部、短期大学部大学祭執行部、学友会執行委員会
体育連盟執行部、文化連盟執行部、大学祭実行委員会

(6) 事務組織のスタッフ・ディベロップメント(SD)活動（業務の見直しや事務処理の改善等、授業改善を支援する職員等の研修等、事務職員の能力開発、内部研修、外部への研修等）の現状を記述して下さい。

聖徳学園に勤務する職員の職務に必要な知識と技能および教養を修得させ、職員の職務能力の啓発に努めるとともにその資質の向上を図ることを目的として、『事務職員研修規程』が制定されている。また、大学の管理運営にあたる行政管理の専門職の養成が急務であるとの認識のもと、『事務職員の学外研修に関する細則』が平成16年3月に制定された。桜美林大学大学院に設置された国際学研究科大学アドミニストレー

Ⅷ【人事管理について】

ション専攻（修士課程）通信教育課程での学修を前提としており、研修費用は法人が全額支給する制度であり、平成 17 年度に 1 名が学位（修士 大学アドミニストレーション）を取得した。

研修は、長期的な人材育成の一環として、継続的、計画的に行うものとし、職員の自主的な研修をも奨励するものとし、管理・監督者は、所属職員が研修に出席できるよう、業務上の配慮を行うものとするを基本方針としている。その規程に定める「全職員合同研修会」として、例年、夏季休業期間中に『夏季事務職員研修会』を開催している。研修の内容等については、事務職員の要望も取り入れ、学校法人聖徳学園事務職員研修委員会において審議・検討の上、決定している。

事務職員の専門性の向上のための取り組みとしては、部署ごとに業務遂行上必要とされる専門知識が異なっていることから、各部署においてそれぞれの業務に特化した外部機関主催の研修会、セミナー等に積極的に参加させている。平成 20 年度は、(社)日本能率協会主催の大学職員マネジメント研修(2泊3日)、コーチング・スキル基本コース(1泊2日)に中堅職員各1名が参加した。また、事務職員の能力と業績に応じた適正な考課をおこなうことにより、職員の資質能力の向上および学園の活性化を図ることを目的に『事務職員人事考課規程』が平成 18 年度に制定され 4 年目になる。

(7) 短期大学の事務組織が抱えている問題あるいは課題について差し支えがなければ記述して下さい。

事務組織は、岐阜キャンパス（本学・併設四年制大学経済情報学部・経済情報研究科）と羽島キャンパス（併設四年制大学教育学部・外国語学部・国際文化研究科）を統括する形で組織されており、月 1 回課長会を開催し、両キャンパス間の円滑なコミュニケーションを図るようにしている。また職員の資質・能力の不均一もあって、特定の部署の一部職員に業務が集中する傾向があり、さらに事務職員全体の事務処理能力のレベルアップが必要である。

【人事管理について】

(1) 教職員の就業について、現在、短期大学が抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。なお教職員の就業についての規程（就業規則、給与規程等）を訪問調査の際にご準備下さい。

教職員の就業については、就業規則が定められており、服務規程・給与規程・採用規程・出張に関する規程等をはじめとする諸規程を定めている。規程にのっとって大学運営がなされており、特記すべき問題はない。また、労働関係法規の改正を踏まえ、学園（学校法人）として就業関係規程・制度の見直しを行い、『継続雇用制度に関する規程』を制定し、所轄庁への就業規則変更手続きも遅滞することなく行っている。

(2) 法人（理事長及び理事会等）と短期大学教職員の関係について、できれば理事長及び学長がそれぞれ記述して下さい。

理事長

理事会の意向（理事会決定事項等）は、学長から学部長会・評議会を経て、短期大学教職員（教授会）に伝えられる。また、教授会の意向も短期学部長から学長を経て、理事長（理事会）に伝えられるようになっているので特段の問題はない。

教育職員の人事（採用および昇格等）については、短期大学の審査教授会において審議され、その結果を、短期学部長から学長を経て理事長に上申される。理事会は教授会の意向を尊重し決定している。

教育職員の人事について教授会に望むことは、四大志向・少子化等短期大学を取り巻く環境は益々厳しくなることから、学科等の設置の趣旨および教育内容等を考慮し、教育職員の年齢構成並びに設置基準等を充分勘案の上、申請してほしいと考える。

学長

教育職員の採用や欠員補充は、審査教授会の審議の結果を短期学部長から学長を経て理事長に上申される。原則的に審査教授会の審議決定内容は尊重されるので、実質的な人事の決定権は教授会にある。しかし、学生の入学定員をкаろうじて確保し、今後の学生確保の見通しが楽観できない現況からすれば、全体の収支から見た人件費比率が、かなり高い現在の経営状態は改善されねばならない。

健全な教育・研究は、健全な財務状況に依存するという観点から、教育・研究の体制を分析し、大局的な立場から健全な教育研究体制の維持発展のために、改善の方向性を法人理事会が提言指示する必要性がますます強く感ぜられている。本学でも、その危機感を共有し、自発的に問題解決を計るような提案が可能であるし、そのような方向で問題処理に当たるようになってきつつある。

また 18 歳人口が、10 年後にはさらに減少することが明白な現在、教職員は、学生のみならず、生涯教育のために社会人をも積極的に確保するための魅力ある授業内容を考案し、積極的に対外的に広報するような教育体制を整えていかねばならない。

さらに文部科学省関係の特別補助金やその他の研究助成金、理事会の積極的な支援を得るためには、教職員自身ももっと積極的に高校生や社会人を惹きつけ、地域の振興に寄与できるような魅力ある教育・研究の活動プログラムを構築するように工夫する必要がある。

(3) 教員と事務職員との関係について、できれば学科長等及び事務局長がそれぞれ記述して下さい。

短期学部長

専任教員と事務職員との関係は、おおむね良好である。学生指導、学生支援、学務関係等においては専任教員と事務職員との連携は有効に機能している。

教授会をはじめ各種委員会には事務職員も参加しており、専任教員の意向だけでなく事務職員の意見も採り入れ、情報だけでなく課題も共有しながら運営を行っている。幼児教育学科第一部・第三部、生活学科ともに多くの学外実習を実施しているが、それらに係わる事務上の手続きや対外的な連絡等が頻繁である。これらについては事務

VIII【人事管理について】

職員と専任教員とが情報の共有と役割分担をしながら円滑に進めている。

就職支援等の学生支援では、事務職員の果たす役割は大きく、指導担任等との連絡を密にした取り組みが行われている。

専任教員の授業および校務分掌等の負担が大きくなるのと同じように、事務職員の負担も年々増加してきている。きめの細かい学生指導・学生支援や校務運営上の職務内容の増加があり、専任教員も事務職員もゆとりを持つことができにくい状況にあり、ややもするとビジネスライクに仕事を処理してしまうことも多々あるように思われる。相互に補完し協力し合う関係性が保ちづらくなってきている。学生に対するよりよい支援、指導を行うためにも、校務運営の円滑化を図るためにも、今以上に専任教員と事務職員との良好な関係を築く努力を双方が意識的に行っていくことが望まれる。

事務局長

事務組織は、羽島キャンパス（併設四年制大学教育学部・外国語学部・国際文化研究科）と岐阜キャンパス（本学、併設四年制大学経済情報学部・経済情報研究科）を統括する形で組織されている。各学部（本学を含む）の教学事項については、学部教授会で所属の教授より選出された学部長が主宰する教授会で提案・審議決定し、それぞれの学部事務室がその業務を執行している。また、それぞれの教授会より委任された教学部門の各種委員会が教授会までに開催され、委託された案件について検討・審議し、その結論を教授会に提案し、審議決定している。全学部門については、学長が選任した教学部門（教務部・学生部・宗教部・就職部・国際交流部・入試部・図書館）の長と事務部門の事務局長および羽島事務部・岐阜事務部の長で構成された部長会で懸案事項を検討した上で、学部長会に提案・審議し、最高意志決定機関である評議会で審議決定し、各学部教授会に報告している。上記各部には全学委員会があり、各部長が委員長となり、各学部の委員長・副委員長で構成し、全学部門と学部部門との連携を図っている。

特に毎月第2・4月曜日に開催する学科長会、第3水曜日に開催する教授会には、短期大学部事務室から室長を始めとした事務職員が出席し、相互の緊密な連携を図っている。教授会終了後、教授会資料を各キャンパス各課（室）に配付し、情報の共有化に努めている。その他、日常的な業務も専任教員と事務職員との間で分掌しながら行っており、教員と事務職員は、良好な関係にあると言える。

今後の課題としては、より一層の情報の共有や連携、協力を強化していくことである。

（4）教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の順守等の現状を率直に記述して下さい。

教職員の定期健康診断は、未受診者に他のキャンパスでも受診できる便宜を図っている。また人間ドック利用者には、日本私立学校振興・共済事業団による補助の外、本学も補助している。就業環境の改善策として、学内分煙の徹底、また、学生や教職員の心臓が停止するなどした場合の救命措置として自動体外式除細動器(AED)を設置し、防災総合訓練時に使用法の説明および学生に救命体験をさせている。

Ⅷ【特記事項について】

事務職員の就業時間は、午前8時50分から午後4時50分までで、時間外勤務は、部署および時期により偏りがあるが、三六協定の範囲内に収まるよう事務組織および人員配置の見直し等毎年検証している。また、学生対応の窓口については、必要に応じて時差出勤の措置をとっている。

【特記事項について】

(1) この《Ⅷ管理運営》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、管理運営について努力していることがあれば記述して下さい。

事務職員の能力と業績に応じた適正な考課を行うことにより、職員の資質能力の向上および学園（学校法人）の活性化を図ることを目的に、『事務職員人事考課規程』が平成18年度に制定された。今後は、人事に如何に反映させていくかという課題解決のため、さらに一層の評価の透明性、公正性、信頼性の確保に努めたい。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

VIII 資料

〈添付資料〉

1. 寄附行為

添付資料VIII-1-1：『寄附行為』

添付資料VIII-1-2：『寄附行為施行細則』

2. 学則

添付資料VIII-2：『岐阜聖徳学園大学短期大学部学則』

〈参考資料〉

1. 現在の理事・監事・評議員名簿

参考資料VIII-1：理事・監事・評議員名簿

2. 平成20年度の理事会議事録

参考資料VIII-2：平成20年度理事会議事録

3. 学長選考規程

参考資料VIII-3：『学長選考規程』（学校法人聖徳学園例規集）

4. 委員会等規程

参考資料VIII-4：学校法人聖徳学園例規集

5. 事務組織についての諸規程

参考資料VIII-5：『事務組織規程』（学校法人聖徳学園例規集）

6. 教職員の就業についての規程

参考資料VIII-6：『岐阜聖徳学園大学・岐阜聖徳学園大学短期大学部就業規則』
（学校法人聖徳学園例規集）

7. その他

参考資料VIII-7-1：『決裁処理の流れ図』

参考資料VIII-7-2：『岐聖大 NEWS FILE』

《IX 財務》

【財務運営について】

(1) 学校法人もしくは短期大学において「中・長期の財務計画」を策定している場合は、計画の名称、策定した経緯等を簡潔に記述して下さい。なお中・長期の財務計画は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

中・長期的な財務計画の策定はない。しかしながら、平成 15 年度の聖徳学園将来構想委員会答申に基づき、消費収支比率や人件費依存率の改善やコスト意識の向上などの財政改革を掲げ、また、平成 16 年度から平成 19 年度において聖徳学園将来構想改革ロードマップ・アクションプランの学部・法人内学校毎の収支把握・管理の仕組みの構築と財政健全化への方策を立案し実施し、財政改革に取り組むと同時に聖徳学園教学経営戦略委員会を立ち上げるとともに、また、外部の経営コンサルティングによる指導も仰いでいる。

更に平成 20 年度には学校毎に臨時担当役員制度の設置を実施し、役員が担当校に出向き、教学・行政のトップと会議を重ね経営改善（帰属収支差額の黒字化）に向けての提案を 8 月に行った。その改善策として①人件費における定年退職者の補充人事の取り止めおよび期末勤勉手当の年間支給率 0.45 か月分のカット（平成 20 年度より実施）、②幼児教育学科第三部の学納金（教育充実費）年間 9 万円の値上げの実施（平成 23 年度より実施予定）、③学園事務組織の一部改革に伴い、学園内外の情報を収集し、学園広報として学生、一般社会、教職員等へ積極的な情報公開を行うために、各設置校のホームページを充実させ幼稚園から大学院までの全て網羅する学園広報室（仮称）の設置、④外部資金を獲得するための寄附金募集の開始などを検討している。

(2) 学校法人及び短期大学の毎年度の事業計画及び予算決定に至る過程、手続きを簡潔に記述して下さい。

法人本部から 11 月に中・短期計画に基づき最低限帰属収支差額において±0 になるよう当初予算概算要求書（案）編成方針が通知され、それに伴い各学科・各部署から提出された予算要求書により、岐阜事務部においてヒアリングを行った後、法人本部へ予算概算要求書（案）を提出する。法人本部において法人の各設置校から提出された予算書の集計を行い、法人合計の収支性を勘案しながら法人本部事務局とヒアリングが行い当初予算の原案が編成される。法人の評議員会の審議を経て理事会に上程される。

(3) 決定した予算の短期大学各部門への伝達方法、予算執行に係る経理、出納の業務の流れを必要な承認手続きを含めて簡潔に記述して下さい。なお経理規程等の財務諸規程について、整備している規程名を列記して下さい。財務諸規程は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

理事会に上程され承認された予算は、法人本部から通知後岐阜事務部において承認予算に基づき学部長会に提示され教授会で報告する。予算執行について、各予算責任者が所管する課・学科の予算執行管理を行うが、全ての経費支出について経費責任者である事務局長の決裁を受けている。全ての物品購入支出何書の予算差し引きは庶務

Ⅸ【財務運営について】

課において事務システムで行い、予算残高をチェックしている。

財務諸規程

経理規程

経理規程・附属経理専決事項に関する規程

資産運用に関する規程

固定資産及び物品管理規程

諸施設の学園外への貸与規程

財務書類等閲覧規程

(4) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の公認会計士監査状況の概要を開催日順に記述して下さい。公認会計士の監査と監事がどのように連携しているか、また公認会計士から指摘を受けた事項があれば、その対応について記述して下さい。

公認会計士による監査実施状況(平成18年度～20年度) 図表 50

平成18年度

| 年 | 月 | 日 | 摘 要 | 備 考 |
|----|----|----|---|-----|
| 18 | 4 | 3 | 実査 現金の残高確認、定期預金証書・普通預金及び有価証券の取引関係書類の確認、学納金入金伝票確認、寄付金及び補助金の内容確認 | |
| 18 | 5 | 11 | 決算関係 未収入金及び未払金・前受金の明細確認、仮払金及び仮受金・預り金の精算確認、人件費関係の処理方法の検証、入金調書の検証 | |
| 18 | 5 | 15 | 決算関係 固定資産の取得及び除却関係の確認、基本金組入れ額、施設関係の会計処理の検証、徴収不能引当金算出根拠確認、理事会・評議会議事録の確認、支出金調書の検証 | |
| 18 | 5 | 18 | 決算関係 決算書の表示内容の確認、貸借対照表の脚注、固定資産明細表の確認 学園の監事との決算についての合同会議及び意見交換 | |
| 18 | 5 | 29 | 決算書の最終チェック | |
| 18 | 6 | 12 | 新年度に向けての財務担当者等へのヒアリング 前年度からの繰越確認、学生数等の確認 | |
| 18 | 7 | 19 | 5月までの収入及び支出取引記録の検証 内部統制の検証 | |
| 18 | 10 | 17 | 8月までの収入及び支出取引記録の検証 理事会・評議会議事録の確認 | |
| 18 | 12 | 13 | 10月までの収入及び支出取引記録の検証 補正予算書の概要説明の聞取り | |
| 19 | 1 | 30 | 12月までの収入及び支出取引記録の検証 定期預金証書・普通預金及び有価証券の取引関係書類の確認 | |
| 19 | 2 | 6 | 1月までの収入及び支出取引記録の検証 理事会・評議会議事録の確認 | |
| 19 | 3 | 28 | 2月までの収入及び支出取引記録の検証 新年度予算書の計画説明の聞取り | |

平成19年度

| 年 | 月 | 日 | 摘 要 | 備 考 |
|----|----|----|---|-----|
| 19 | 4 | 3 | 実査 現金の残高確認、定期預金証書・普通預金及び有価証券の取引関係書類の確認、学納金入金伝票確認、特定預金の内容確認 | |
| 19 | 4 | 11 | 3月までの収入及び支出取引記録の検証 寄付金及び補助金の内容確認、理事会・評議会議事録の確認 | |
| 19 | 5 | 9 | 決算関係 未収入金及び未払金・前受金の明細確認、仮払金・仮受金・預り金の精算確認、人件費関係の処理方法の検証、施設関係の会計処理の検証、予備費及び科目内流用の検証 | |
| 19 | 5 | 10 | 決算関係 監事と決算についての合同会議及び意見交換、退職給与引当金算出根拠確認、 | |
| 19 | 5 | 14 | 決算関係 固定資産の取得及び除却関係の確認、基本金組入れ額、施設関係の会計処理の検証、徴収不能引当金算出根拠確認 | |
| 19 | 5 | 24 | 決算関係 決算書の最終チェック、表示内容の確認、貸借対照表の脚注、固定資産明細表の確認 | |
| 19 | 10 | 30 | 8月までの収入及び支出取引記録の検証 内部統制についての開取り及び新年度に向けての財務担当者等へのヒアリング | |
| 19 | 11 | 21 | 9月までの収入及び支出取引記録の検証 | |
| 19 | 12 | 19 | 11月までの収入及び支出取引記録の検証 補正予算書の概要説明の開取り | |
| 20 | 1 | 25 | 12月までの収入及び支出取引記録の検証 補助金申請についての確認 | |
| 20 | 2 | 18 | 1月までの収入及び支出取引記録の検証 学生募集の状況の開取り | |
| 20 | 3 | 10 | 2月までの収入及び支出取引記録の検証 新年度予算書の計画説明の開取り | |

平成20年度

| 年 | 月 | 日 | 摘 要 | 備考 |
|----|----|----|--|-----|
| 20 | 4 | 3 | 実査 現金の残高確認、定期預金証書・普通預金及び有価証券の取引関係書類の確認、学納金入金伝票確認、寄付金及び補助金の内容確認 | |
| 20 | 4 | 22 | 3月までの収入及び支出取引記録の検証 資産運用実績の検証 | |
| 20 | 5 | 12 | 決算関係 未収入金及び未払金・前受金の明細確認、仮払金及び仮受金・預り金の精算確認、人件費関係の処理方法についての検証 | |
| 20 | 5 | 13 | 決算関係 基本金の組入れ額計算根拠の検証 監事と決算についての合同会議及び意見交換 | (注) |
| 20 | 5 | 14 | 決算関係 減価償却費の検証、本部人件費の割振りの検証 予備費及び科目内流用の検証、消費税の検証 | |
| 20 | 5 | 21 | 決算関係 決算書の表示内容の確認、貸借対照表の脚注、固定資産明細書、基本金明細表の確認 | |
| 20 | 8 | 26 | 新年度に向けての財務担当者等へのヒアリング 5月までの収入及び支出取引記録の検証 | |
| 20 | 10 | 20 | 8月までの収入及び支出取引記録の検証 国及び地方公共団体への各種報告書類の検証 | |
| 20 | 11 | 18 | 9月までの収入及び支出取引記録の検証 学納金台帳との検証 | |
| 20 | 12 | 17 | 10月までの収入及び支出取引記録の検証 補正予算書の概要説明の開取り | |
| 21 | 1 | 14 | 11月までの収入及び支出取引記録の検証 前期末未収入金の検証 | |
| 21 | 2 | 6 | 12月までの収入及び支出取引記録の検証 学生募集の状況の開取り | |

IX【財務運営について】

| 年 | 月 | 日 | 摘 要 | 備考 |
|----|---|----|---------------------------------------|----|
| 21 | 2 | 20 | 1月までの収入及び支出取引記録の検証 資金運用に関する取引の確認 | |
| 21 | 3 | 11 | 2月までの収入及び支出取引記録の検証 新年度予算書の計画説明の聞取り | |

(注) 公認会計士からの指導項目

基本金の取り崩しについて

基本金対象資産が除却・売却等で減少した場合、当期取得分で充当出来ない時、未充当額分については、原則基本金の取崩しを行うことを確認し、平成 20 年度決算から実施した。

(5) 財務情報の公開は今までどのように行ってきたか、また私立学校法第 47 条第 2 に基づき、財務情報の公開をどのように実施しているか。それぞれの概要を記述して下さい。

年 1 回発行する広報誌（学園報）に資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、財産目録の掲載を行っている。また、学園報の掲載と共に『学校法人聖徳学園財務書類等閲覧規程』に基づき、学校法人が設置する学校の在学者・保護者および雇用されている教職員並びにその他の利害関係人からの申請により閲覧を供している。平成 17 年度以降、学校法人聖徳学園のホームページに事業報告として、決算概要、事業報告書、収支計算書、貸借対照表、財産目録および監査報告書を掲載している。

(6) 寄附行為に基づき、どのような基本方針で資金等の保有と運用を考えているか簡潔に記述して下さい。なお資金等の保有と運用に関する規程等が整備されていれば、訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

寄附行為第 30 条に定める規定に基づき、安全且つ有利な運用を行うと共に、積立金については、別に制定した『資産運用に関する規程』の中で、理事長を資金運用責任者とし、運用可能な金融商品、運用資金の限度額および有価証券の運用基本要件等を定め、効率的な運用を図っている。

(7) 寄附金・学校債の募集を行っていただければその概要を記述して下さい。なお寄附金・学校債の募集についての印刷物等を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

平成 14 年 7 月に文部科学省より、所得税法施行令第 217 条第 1 項第 4 号および法人税法施行令第 77 条第 1 項第 4 号に掲げる法人であることの証明（特定公益増進法人）の認可を受け、大学等の教育・研究施設設備の維持更新の管理運営費に充てるため、卒業生、保護者、教職員および学園との取引業者等に対して寄附を募っている。また、特定公益増進法人の認可期間は 5 年である為、平成 19 年 7 月に更新を申請し、更に 5 年間の延長が認められたことに伴い、平成 22 年度中には聖徳学園創立 50 周年に向けての事務組織体制を再編成し、本格的に募集活動を行う予定である。

Ⅹ【財務体質の健全性と教育研究経費について】【施設設備の管理について】

【財務体質の健全性と教育研究経費について】

(1) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の資金収支計算書・消費収支計算書の概要を、別紙様式1にしたがって作成し、添付して下さい。

(2) 学校法人の貸借対照表の概要(平成21年3月31日現在)を、別紙様式2にしたがって作成し、添付して下さい。

(3) 財産目録及び計算書類(資金収支計算書、資金収支内訳表・人件費支出内訳表・消費収支計算書・消費収支内訳表・貸借対照表・固定資産明細表・借入金明細表・基本金明細表)について、過去3ヶ年(平成18年度～20年度)分を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

(4) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の短期大学における教育研究経費比率(消費収支計算書の教育研究経費を帰属収入で除した比率)を、小数点以下2位を四捨五入し第1位まで求め記述して下さい。

教育研究経費比率(平成18年度～20年度) 図表 51

| 区 分 | 18年度 | 19年度 | 20年度 |
|------------------|------------|------------|------------|
| 教育研究経費支出 (a) | 216,243 千円 | 215,860 千円 | 222,831 千円 |
| 帰属収入合計 (b) | 799,189 千円 | 740,664 千円 | 738,769 千円 |
| 教育研究比率 (a) / (b) | 27.1% | 29.1% | 30.2% |

【施設設備の管理について】

(1) 固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等、施設設備等の管理に関する諸規程を、財務諸規程を含めて一覧表として示して下さい。なお整備した諸規程を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

関係規程は以下のようである。

- 固定資産及び物品管理規程
- 図書調達管理規程
- 諸施設の学園外への貸与規程
- 経理規程
- 経理規程・附属経理専決事項に関する規程
- 資産運用に関する規程
- 財務書類等閲覧規程

(2) 火災等の災害対策等、以下の危機管理対策について現状を簡潔に記述して下さい。

- ①火災等の災害対策
- ②防犯対策
- ③学生、教職員の避難訓練等の対策
- ④コンピュータのセキュリティ対策
- ⑤省エネ及び地球環境保全対策
- ⑥その他

空調・電気・通信・エレベータ等の設備については、専門業者と保守契約を締結し、定期検査を行うことで安全管理を図り、建物警備については、警備会社と委託契約を締結し、24時間の防犯体制をとっている。

IX【特記事項について】

また、消防用設備については、専門業者と保守契約を締結し、定期検査を実施し、併せて岐阜キャンパス消防計画に基づき、火災・地震災害等に備えた訓練も実施している。

火災等の災害対策

『岐阜キャンパス消防計画』（規程）に基づき防火対策委員会を置き、防災計画の樹立および防災総合訓練を実施している。また、大規模地震による災害防止と、被害の軽減を図るため『地震防災規程』を定めて運営している。

防犯対策

警備会社の警備員を1人配置し、校舎内外を巡回し不審者警備に当たっている。また、正門、東駐車場・学生会館前駐車場の入り口でシルバー人材センター派遣者による入退場者のチェックおよび駐車場の管理をしている。

学生、教職員の避難訓練等の対策

防火管理者の指導のもとに次の項目について防災総合訓練を年1回実施している。

- ア 消防用施設設備の点検、避難経路の確認
- イ 消火器消火、消火栓放水、消防署通報および学生・教職員の避難・誘導
- ウ 学内に設置した自動体外式除細動器（AED）の使用方法の講習

コンピュータのセキュリティ対策

学内ネットワークはファイアウォールで外部からの侵入を防いでいる。また、事務用・教育用および研究用にネットワークを分離し、学生の成績など個人情報や重要データについて流出事故等の防止に努めている。ウイルス対策として、クライアント、サーバともシマンテック社のアンチウイルスを使用している。インターネット利用はクライアント機からの通信にプロキシサーバを設置しており直接外部との通信ができないようにしており、ウイルスチェックと有害情報・情報漏洩・個人情報保護のためのフィルタリングを行っている。Eメールに関してもウイルスチェックをサーバで実施しているほか、スパムメールフィルターでスパムメールを選別するようにしている。

省エネおよび地球環境保全対策

教室電灯スイッチ毎に節電呼びかけシールを貼り、教室等の不要な照明を無くすよう、また空調設備は冷房温度を28℃、暖房温度を20℃に設定して運転し、常に省エネおよび地球温暖化対策に心がけている。

その他

発生する様々な事態に伴う危機に、迅速かつ的確に対処するため、『危機管理に関する規程』を定め、学生、教職員および近隣住民等の安全確保を図るとともに、本学の社会的な責任を果たす備えを講じている。

【特記事項について】

(1) この「IX財務」の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、財務管理について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

〈添付資料〉

1. 資金収支計算書・消費収支計算書の概要（過去3ヶ年）

添付資料IX-1：資金収支計算書・消費収支計算書の概要 平成18年度～平成20年度

2. 貸借対照表の概要

添付資料IX-2：貸借対照表の概要 平成18年度～平成20年度

〈参考資料〉

1. 中・長期の財務計画（策定されている場合）

参考資料IX-1：『臨時担当役員による設置校の短・中期の改善策』

2. 資金等の保有の運用に関する諸規程等（整備されている場合）

参考資料IX-2：『資産運用に関する規程』（学校法人聖徳学園例規集）

3. 寄附金・学校債の募集についての印刷物等（募集を行っている場合）

参考資料IX-3：寄附金募集要項

4. 財産目録及び計算書類（過去3ヶ年）

参考資料IX-4：財産目録及び計算書類 平成18年度～平成20年度

5. 固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等、施設設備等の管理に関する諸規程、財務諸規程

参考資料IX-5-1：『経理規程』（学校法人聖徳学園例規集）

参考資料IX-5-2：『経理規程・附属経理専決事項に関する規程』

（学校法人聖徳学園例規集）

参考資料IX-5-3：『固定資産及び物品管理規程』（学校法人聖徳学園例規集）

参考資料IX-5-4：『諸施設の学園外への貸与規程』（学校法人聖徳学園例規集）

参考資料IX-5-5：『財務書類等閲覧規程』（学校法人聖徳学園例規集）

参考資料IX-5-6：『図書調達管理規程』（学校法人聖徳学園例規集）

〈参考資料〉

1. 過去3ヶ年にまとめられた自己点検・評価報告書

参考資料X-1：『自己点検・評価報告書』 平成18年度、平成19年度、平成20年度

2. 相互評価、外部評価の実施についての規程等

参考資料X-2：『短期大学部自己点検・評価委員会規程』（学校法人聖徳学園例規集）

3. 第三者評価の実施についての規程等

参考資料X-2と同じ

4. その他

参考資料X-4：『筑紫女学園大学短期大学部との相互評価報告書』

X【自己点検・評価について】

《X 改革・改善》

【自己点検・評価について】

(1) 短期大学では自己点検・評価を、短期大学の運営のなかでどのように位置づけているか、また自己点検・評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、自己点検・評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

学則第 59 条に、本学の目的および社会的使命を達成するために、教育研究活動等について自己点検・評価を行うことを位置づけている。自己点検・評価を行う組織として「短期大学部自己点検・評価委員会」を設置している。委員会の開催は不定期ではあるが、平成 20 年度については 5 回の委員会を開催し、さらに平成 20 年度自己点検・評価報告書作成のための説明会を開催した。また、併設四年制大学と合同で「自己点検・評価委員会」を設けている。

『短期大学部自己点検・評価委員会規程』は、平成 20 年度に全面的な見直しを行い、自己点検・評価の実施と結果の公表、学校教育法に定める認証評価（第三者評価）への対応とその結果の公表などを本委員会の任務とすることを明確化した。また、これまで委員会の委員長は短期大学部長としていたが、学長が委員長となり、構成メンバーには専任教員のみならず職員も加わり評価事業のより充実を図ることとした。

自己点検・評価は、平成 16 年度以降毎年実施してきており、本学の改善に有用であると確信している。したがって、今後も改善にむけて実施していくこととなる。

(2) 過去 3 ヶ年（平成 18 年度～20 年度）の自己点検・評価報告書の発行状況を記述して下さい。またその報告書の配付先の概要を記述して下さい。なお過去 3 ヶ年（平成 18 年度～20 年度）にまとめられた自己点検・評価報告書を訪問調査の際にご準備下さい。

過去 3 年間、毎年度「自己点検・評価報告書」を作成してきている。いずれも、財団法人短期大学基準協会の『自己点検・評価報告書作成マニュアル』に沿って作成している。平成 18 年度版は、学内の教職員への配付に留めたが、平成 19 年度版は 500 部を作成し学内教職員、および全国の短期大学に配付を行った。

【自己点検・評価の教職員の関与と活用について】

(1) 平成 20 年度までに行った自己点検・評価に関わった教職員の範囲を記述して下さい。また今後、どのような教職員の関わり方が望ましいと考えているかを記述して下さい。

自己点検・評価委員会は、学長、短期大学部長、各学科長、教務委員長、学生委員長、就職委員長、ALO、ALO補佐（岐阜事務部長、短期大学部事務室長）、および第三者評価委員（2名）から構成されており、自己点検・評価、相互評価、第三者評価を統括している。構成メンバーについては、平成20年度に学長、岐阜事務部長を加え、委員会運営の強化を図った。自己点検・評価報告書の作成には、領域ごとに項目執筆の担当部局を決め、ALO、同補佐を中心に繰り返し原稿の検討を行っている。ほぼ全専任教員が執筆にかかわり、多くの職員が携わることになっている。また、領域Ⅷ「管理運営」、領域Ⅸ「財務」等については、法人本部の協力を得て作成している。

X【相互評価や外部評価について】

これまで、自己点検・評価報告書の作成に終始してきたように思われる。本学の改革・改善のために現状の把握と課題の整理、改革・改善のための計画作成とその実行というPDCA(Plan; Do; Check; Action)サイクルをより機能させることが必要と考えられる。少しではあるが、そのような意識が生まれてきていることを感じる。

(2) 平成20年度までに行った自己点検・評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。また今後、自己点検・評価の結果をどのように活用しようと考えているかについても記述して下さい。

平成16年度以降、毎年度自己点検・評価報告書を作成してきたが、当初は作成することが目的となり、評価結果の活用とまでは至らなかった。しかし、作成を重ねる中で、自己点検・評価を行うことでそれぞれの学科、委員会等で改善すべき課題が明確化され、また、これまで取り組まれてこなかった項目が多々あることが明らかとなるなど、改革・改善の必要性を感じ取ることができ、あわせて自己点検・評価の意義・目的が認識されてきている。例えば、専門就職先からの卒業生の評価を求めるために、就職先へのアンケートを実施することで、カリキュラムを検討する必要性、各種就職講座への受講を促すことの必要性、就職先で求められる能力の内容検討の必要性等を痛感し、今後の方策を検討していくことができた。

今後は、それぞれの領域についての自己点検・評価の結果を受けて、本学全体として組織的に課題の検討とその改善のための方策を打ち出し、改革・改善を図っていきたい。

【相互評価や外部評価について】

(1) 平成20年度までに行った相互評価及び外部評価の概要を示し、評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。

相互評価は、これまでに二度実施した。平成13年度に京都文教短期大学との間で実施し、平成18年度には筑紫女学園大学短期大学部との間で実施した。

京都文教短期大学との相互評価は、平成11年度に京都文教短期大学と相互評価を行うことを確認し、平成13年9月に自己点検・評価報告書を作成し、同12月に相互評価を実施した。この相互評価報告書に基づき、『平成13年度自己点検・評価報告書』を最終的に作成した。

筑紫女学園大学短期大学部との相互評価は平成18年度に実施した。平成18年3月、建学の精神、開学時期、規模、学科構成をほぼ同じくする筑紫女学園大学短期大学部から相互評価の協力依頼があり、相互評価の協定を結び、相互評価を実施した。

実施に当たっては、相互に自己点検・評価報告書による書面調査、質問・回答書の交換、評価原案提示、異議申し立て等を経て、平成18年12月に評価を確定し、平成19年2月に相互評価報告書を作成した。

相互評価を行うことで、相手校の取り組みに学ぶ点が多々あることが分かり、実りあるものであった。

X【第三者評価（認証評価）について】

(2) 相互評価や外部評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、相互評価や外部評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

平成20年度、第三者評価実施に向け組織および規程の整備を行った。自己点検・評価委員会の構成メンバーとして、新たに学長と岐阜事務部長を加え、平成21年度に実施する第三者評価に対応できる体制を整えた。また、自己点検・評価委員会の任務として第三者評価に対応することも明文化した。

相互評価については、現在予定はないが、過去に行った二度の相互評価の成果をふまえ、今後実施の機会を探っていきたい。

【第三者評価（認証評価）について】

(1) 第三者評価を実施するための学内組織の概要を記述して下さい。

第三者評価に向けて、平成20年度には自己点検・評価委員会の構成、任務等について見直しを行い、第三者評価への対応をはかれる体制を整えた。

自己点検・評価委員会を中心に、短期大学基準協会の平成21年度第三者評価の評価基準および自己点検・評価報告書作成マニュアルに沿って平成20年度自己点検・評価報告書を作成している。具体的には、ALO、同補佐を中心に『平成20年度自己点検・報告書』作成のための教職員全体への説明会を実施した。さらに、作成作業の過程では、ALO、同補佐を中心に各領域の作成担当者との間で繰り返し報告内容等の調整をはかり、最終的に教職員全体で報告書の内容について共有をはかった。

(2) 第三者評価に当たって短期大学の決意を述べて下さい。理事長、学長、各部門の長及びALO（第三者評価連絡調整責任者）がそれぞれ記述されても結構です。

理事長

平成21年度に第三者評価を受けるにあたって、学長・短期大学部長・ALOおよびALO補佐が中心となり、自己点検・評価委員会で自己点検・評価報告書を纏めて頂いている。報告書の作成により、短期大学の現状と課題が再認されるだろうし、また、外部から客観的に評価を受けることにより、今まで見落としてきた課題等が発見されこともある。それぞれの課題を真摯に受け止め、理事会・短期大学のそれぞれのレベルで協議して、解決案を策定し将来の発展に役立つものとしていきたい。

学長

第三者評価に当たって、明確にしておきたいことは、問われている評価項目に対応して標準的な内容の記述が究極的な目標ではないことである。目指さねばならないことは、どのような人材を育成するかを明確にし、そのための具体的な達成目標、教育方法、学生支援策を明らかにすることである。平均値を超えるような、魅力ある達成目標を明示するためには、具体的にどこに焦点をおき、どのような方法や施策が必要なのかを明確にする必要がある。この目標の焦点が自覚されれば、それに関連するその他の方策を模索する方向は自ずと決まってくる。第三者評価に当たって、まずこのような問題点を明示することに努めたい。

同時に、第三者評価によって明示された問題点を、継続的に改善していく PDCA(Plan; Do; Check; Action) を繰り返す組織的な仕組みを速やかに構築することに努めたい。

【特記事項について】

(1) この《X改革・改善》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば評価に関する教職員への研修の実施等、当短期大学が改革・改善について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点を求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

〈参考資料〉

1. 過去3ヶ年にまとめられた自己点検・評価報告書

参考資料X-1：『自己点検・評価報告書』平成18年度、平成19年度、平成20年度

2. 相互評価、外部評価の実施についての規程等

参考資料X-2：『短期大学部自己点検・評価委員会規程』（学校法人聖徳学園例規集）

3. 第三者評価の実施についての規程等

参考資料X-2と同じ

4. その他

参考資料X-4：『筑紫女学園大学短期大学部との相互評価報告書』

《**将来計画の策定（自由記述）》

この「将来計画の策定」は自由記述です。したがって、必ずしも記述する必要はありません。しかし短期大学の現在を理解するためには、将来どのような方向に向かおうとしているのかを知ることが重要です。その意味で、短期大学の将来計画（中期・長期計画）がありましたら、差し支えない範囲で記述して下さい。

訪問調査の際に説明する。